滿洲日報 夕刊
發行人 本村武盛
編輯人 橋本喜代治
印刷人 南里順生
大連市東公園町三十一番地 發行所 株式會社滿洲日報社

關東軍態勢恒久化と日滿關係强化の對應策

林陸相來滿の重要用件

林陸相は重大なる使命たる滿洲視察の第一步を踏み出したが、今回の渡滿目的の重點中の重點は

南軍司令官

との協議であつて協議の內容は關東軍の任務に關するもので、あらゆる問題が提出される筈であるが中心問題は陸相の主管事項たる軍政關係並に參謀本部の主管事項たる統帥に關聯する事項である、統帥關聯事項については出發前參謀本部より文書を以つてする希望意見の傳達並に說明を受けて居り軍政關係にあては夙に萬般の準備をなして居た、以上の諸問題につき陸相は三日間に亘る航海中永田軍務局長以下と更に綿密な再檢討的凝議をなす處があつたが主要項目は

一、關東軍今後の態勢の根本方針
一、日滿議定書に基き滿洲國最近の國際的環境に完全に卽應すべき根本方針
一、今後における滿洲國と關東軍との接觸の根本原則
一、蘇滿國境問題の解決方針
一、滿洲事件費の平年化の目標及び根本方針
一、滿鐵改組に對する軍としての態度及び根本方針

其他關東軍關係の重要案件の總てに及ぶ豫定である、從つてこれを機として

關東軍從來

の暫定的姿勢が恒久化されると共に日滿兩國の新情勢に對する前衞としての責務遂成の諸準備完成へ積極的前進を開始すべく豫想され延いて明年度滿洲事件費も總額に於ける大なる變化なしとしても內容にかては相當大なる變化あるものと信ぜられる

有吉大使の赴任後 日支關係新展開か

民間の意見も充分聽取して 六月十日神戸を出發

【東京特電二十六日發】有吉駐支大使は過般歸朝以來廣田外相に對し現地における諸狀況を報告しわが國今後の

對支方針

につき重大進言をなすと共に今後の對策方針を協議し更に關係各方面と會見して意見を交換してゐたがすべての用務も一段落ついたのでいよいよ六月四日東京發、同十日神戸出帆赴任の途につくことになつた、同大使は右赴任に際しては西園寺公の外、岡田首相始め政府各首腦部とも會見外務省の方針を傳達すると共に對支貿易に關係深き大阪、神戸に特に二三日滯在して民間實業家と懇談を交へる筈であり更に南京到着後大使信任狀

捧呈式を

終へれば支那側當局につき今一應大使館昇格における南京政府の對日外交方針を聽取したる後大體七月上旬再び在支總領事會議を開催、外務省の決定せる方針と現地の事情とをつき合せて今後の善處を期する筈である、右會議には外務本省より守島東亞局第一課長も特に出席、今後の對支方針を各總領事に傳達徹底せしめることになつてゐる、かくて有吉氏の今次の大使としての赴任は今後の

日支關係

に一つのエポックを劃すると共に今後日支關係の動きに何等かの新傾向を示すべく期待されてゐる

省政府を保定へ

狼狽せる于學忠移轉を決定

【北平特電二十六日發】河北省政府主席于學忠は形勢險惡なるため狼狽して二十五日以來何應欽と鄭重に協議中であるが遂に省政府を七月一日保定へ移轉すべく決意した模樣である

林陸相、白玉山納骨祠に参拜（けふ旅順にて）

佛國立銀行再度引上げ

金の流出止まず

【パリ二十五日發國通】フランス國立銀行は二十五日公定割引歩合を三分より四分に引き上げた、同行は曩に十三日二分五厘より三分に引き上げたばかりであるが金の流出依然として止まざる爲め再度割引率引き上げの擧に出たものである

理事會の提案は承認

但し撤兵せず 伊外務省聲明

【ローマ二十五日發國通】ラヴァル佛外相イーデン英國無任所相の奔走によりイタリーも二十四日遂に伊エ國境に關する國際聯盟理事會の提案を承認、二十五日左の如き言明をなした

イタリー政府は聯盟理事會決議の如何に拘らず之とは全然無關係に國軍の動員計畫を遂行するものである、もとく東阿植民地への軍隊派遣は防禦の目的で行はれてゐるものであるから伊政府が必要なりと認めた際には將來と雖も伊植民地への派兵は續行せられる、現下の伊エ間紛爭が解決すれば派遣軍の歸還を命ずる事になるのである、併し目下の實情では軍隊を本國に引揚げる等と云ふ事は思ひもよらぬ事である

奉天米領事館移轉

【奉天電話】奉天商埠地二經路米國領事館では舊ソ聯領事館で事務を取扱つてゐたが今般米國スタンダード石油會社の滿洲國引揚により商埠地三經路同會社販賣所を買收して移轉すべく目下交渉中

依然大飛行船主義

米海軍の建造計畫注目さる

【東京特電二十六日發】アメリカ海軍本年度の未曾有の大豫算は二十四日上院を通過成立したが、アメリカ海軍は積極的に主力艦並に航空機建造に着手すべく就中航空兵力の充實に熱中するであらう、而してアメリカは世界に誇示したアクロン、メーコン兩硬式飛行船が遭難したので今後飛行船の建造を斷念するものと觀測されてゐたが依然として硬式飛行船建造の意圖あること明かで渡洋作戰の遂行に硬式飛行船は不可缺の要素なりとの結論に到達して居り、現に千九百三十二年除籍したロサンゼルス號を復活改修して各種の訓練に使用して居る、これに對し我が海軍ではアメリカのこの大飛行船主義の實現は太平洋の脅威であり國防の安固を阻害する要因なりとして多大の關心を拂つてゐる

先づ植民地の所有權を認めよ

聯盟復歸はその後で 獨外相英大使に言明

【ベルリン二十五日發國通】英國政府は二十四日フイップス駐獨大使を通じヒットラー宣言の眞意につき獨政府當局に對し照會を發したがノイラート外相はフイップス大使に對し左の如く言明した由である

一、獨政府は目下の所直ちに植民地を所有し或ひは委任統治領を得んとする事を要求するものではないが聯盟に復歸する前に植民地所有の權利は明らかに承認されねばならぬ
一、また植民地乃至委任統治領に對する要求が受け容れられたとしてもドイツは對英三割五分海軍保有の要求を變更するものではない

ガソリンに混ぜ酒精の使用强制

來議會に提案されん

【東京二十六日發國通】最近における動力革命及び自動車運輸の發展に伴ひ我國の原油及び重油輸入量は激增傾向を辿り昭和九年度には

遂に

一億二千四百萬圓に達した、之は燃料國策上は勿論國際貸借の將來に關する重大な問題となつてゐるが高橋藏相は最近この國策及び財政上の觀點からガソリン輸入防止のため代用燃料としてのアルコールに着目し大藏事務當局に命じてその具體案を作らせてゐる、藏相の腹案によれば既にフランス、イタリー兩國にて實施されてゐるガソリンに對するアルコールの混合使用强制を日本でも斷行し、ガソリン消費量の約一割見當をアルコールに轉換せしめ

現在

年六百萬石に達せるガソリン消費量の內六十萬石迄をアルコールを以て代用せしめようと云ふのである、之が統制に成功すれば現在十萬石內外に相當するアルコール生產量を五倍乃至六倍に增加せしめるのでその原料として植物性澱粉農產物を御用すれば農產物價格の引上げ國際貸借の改善から延いて燃料國策强化を實現する事が出來ると云ふ一石三鳥の案であつて大體の見通しがつけば關係各省と協議を進めアルコール强制使用に關する案を來議會に提出する方針である

"置籍船問題の改正を强調"

植民地海事官會議へ 松岡海事課長が上京

來る三十日より三日間拓務省において開催の植民地海事官會議へ關東州代表として出席する海務局海事課長松岡太郎氏は二十六日出帆あめりか丸で上京した、出發に際し船中語る

今度の會議は植民地の海事行政法規を統一しようといふので朝鮮その他植民地から海事關係官が參集し拓務省が中心となり遞信省からも代表者が加はつてこれを協議するが關東州としては例の置籍船問題があるのでこの點については充分實情を說明し改正の必要を强調しようと思つてゐる、大體關東州の置籍船が內地沿岸就航を制限されてゐるのは關東州は無稅地帶であり、外國船が內地よりも安價で輸入され從つてその運賃も低廉となる關係上これに對抗する內地船業者を救濟する意味からかゝる制限が加へられたのであらうがしかし今日の實際狀況を見るならば關東州の船會社では外國船よりも內地船を大部分購入して居り、船の設備その他においても何等その條件において內地と異るところはない、それを關東州置籍船だからといつて外國船同樣の待遇をすることは不合理も甚だしいものがある

對カナダ貿易に通商擁護法發動?

來る卅日通商審議會總會開催

【東京二十六日發國通】對カナダ貿易調整特別委員會並びに通商審議會第六回總會は來る三十日午後三時より首相官邸において開催される事に決定、二十五日幹事長栗栖通商局長は特別委員十八名並びに審議會各委員にそれぞれ招請狀を發送したが同日の會合においてカナダに對する我方の對應策は根本的に確立され通商擁護法の發動を促し大藏省關稅調查委員會はいよいよ具體的細目決定に乘り出す事となつた

滿洲國、滿鐵、內地側 三者出資の拓殖會社

資本金二千萬圓で近く誕生か

【新京電話】滿洲に對する日本人移民の根本方策を決定する日滿合辦滿洲拓殖株式會社は日本政府の方針が未決定のため取りあへずそれまでの暫定的會社として

政府の

出資及び助成を必要としない會社を設立することゝなり、さきに陸軍省平井三等主計正の來滿によつて滿洲國滿鐵共同出資による資本金一千萬圓の會社設立案が樹てられたが其後拓務省において本問題について內地資本家方面に交渉の結果內地側の出資の見込みが立つたので、こゝに再び新會社の再檢討を開始し一千萬圓の資本を倍加して二千萬圓の

新會社

を設立することに大體決定をみた、從つて新拓殖會社は滿洲國、滿鐵、日本內地側三者の出資となるが新會社に對する配當保證又は政府補助金の問題が拓務省の豫算として議會の協贊を經るまでは決定不可能の狀態にあるため內地側の出資についてはこれを一般に公募せず主要財閥又は大會社が單獨出資をなす筈である、しかもこの

內地側

の出資關係は既に諒解濟みであるため會社の設立は時期の問題となつたがたゞこの會社は前記の如く日本政府が何等かの形においてこの會社に關係するものゝ暫定的なもので且つ從來の武裝移民の方針を捨てゝ經濟移民として計畫される關係から政府の今後の方針について現地と拓務省間に相當具體的に諒解を遂げる必要があり二十五日來京した拓務省森重東亞課長は

この點

について軍その他と會見懇談を遂げることゝなつてゐる即ち森重課長は廿七、八日の兩日關東軍司令部で軍、滿洲國の代表者と會見の後大連に赴き滿鐵當局と協議、同地で海路來滿する拓務省移民業務擔當の技術者經理專門家と合流依蘭地區の移民候補地の視察に赴き約一ケ月の後再び來京、最後の打合せを遂げて東京に歸る筈で最初の新京及び大連での

協議で

完全に意見の一致をみれば新會社は六月中に成立するが結局森重課長の歸任後に實現するものとみるべく、時期は七八月頃と觀測されてゐる、右につき森重課長は語る

今度は拓務省として現地側と打合せに來たので拓務省の具體案といふものはまだ決つてゐない日本政府としてやらねばならぬことは當然だがこの會社の補助を如何なる方針でやるかゞ問題でそれについて色々な案を持つて來た、勿論明年度豫算にはこれを計上するがそれも理想通り明年中に出來るか二、三年かゝるか見當がつかず從つてそれまでの政府出資とか補助とかを必要としない新會社が出來るかも知れない

細雨煙る白玉山に けさ林陸相參拜

納骨祠に玉串を奉奠

林陸相は二十六日午前九時宿舍ヤマトホテルを出發し西尾關東軍參謀長、永田軍務局長以下隨員を從へて旅順に赴いた、旱天續きの旅順に昨夜より降り始めた

慈雨は

日滿農家の歡喜の裡に二十六日に至つても止まず猛烈な濃霧に混じる細雨模樣となつたが、白玉山に林陸相を迎へる旅順國防婦人會員は山上の嵐を冒して參集するもの二百五十名餘、九時五十分に至るや東參道不通のため北參道にコースを替へた林陸相の一行到着、直に納骨祠に參拜

玉串を

奉奠し、田中要塞司令官より懇篤な說明を聞きつゝ、歡迎者列の國婦會員に鄭重な擧手の禮を行ひ、それより要塞司令部に到り在旅上長官、旅順市長人見少將、在鄉軍人會分會長らの伺候を受け十一時十分要塞部、同二十分關東州廳に到り正午長官々邸において晝食を認め午後二時五分衞戍病院に傷病勇士を慰めて二時三十五分一路大連へ向つた

扶桑丸 二十七日午前七時二十分大連港外着豫定

人事

▲朝鮮五山高等普通學校生五十二名（修學旅行團）二十六日午前七時三十分着列車にて來連
▲佐賀縣伊萬里商業生七十八名（同）午前八時四十分着列車にて來連
▲村井啓太郎氏（滿銀頭取）同午前九時發あじあにて京城へ
▲村瀨恒光中佐（〇隊附）同上蘇家屯へ
▲山根菊子氏（日本婦人相愛會長）廿六日午前十一時安東通過北行
▲松岡太郎氏（海務局海事課長）廿六日出帆あめりか丸で內地へ
▲永松文一氏（門司海事協會出張所長）同上
▲西岡留次郎少佐（陸軍運輸部附衞生課長）同上
▲大牟田商業生徒視察團一行八十三名 同上離滿
▲吉津良行氏（大阪府會議員）二十六日午前七時二十分着列車にて來連ヤマトホテルへ
▲濱田耕作氏（文博、京大教授）二十六日午後發はとにて新京へ
▲島村孝三郎氏（東亞考古學會員）同上
▲伊藤忠夫氏（日滿文化協會評議員）奉天博物館開館式列席のため二十六日午前十一時過安北行

蛇角

◇林陸相の上陸第一步は雨後曠、所謂雨降つて地固まる、滿洲の現狀を想はしめて妙である。

◇生憎の雨は五月祭ファンを失望せしめた。が、慈雨乘つて萬物生氣あり、以て慰むるに足らん。

◇アルコールの强制使用案が近く具體化する形勢。

◇といつて呑ン兵衞よ舌なめずりしてはいけない、ガソリン代用燃料としての强制案だから。

◇東邊道の癩人病治療法に曙光。序に、在滿官僚の癩人病治療法も研究して戴きたい。

愛戀十字街 (81)

淺原六朗 作 / 橋本八百二 繪

第一の執念（七）

「ふん」

仲むつまじさうに、改札口の方に行く後姿をみると、英子は鼻をならし、すぐに人ごみのなかを縫つて、二人の斜め横にでてみた。

青柳は、スーツ・ケースを右手にさげ、新調の洋服で、ぴつたりと明子によりそひ、何か微笑しながら話しかけてゐる。英子は、青柳よりも、いかにも新妻のやうな香りをただよはせてゐる明子の方を、より憎々しく眺めた。明子の横顏の上品な、洗煉された美しさをみると、さらに憎々しい怒りが、腹の底からこみあがつてくるのをどうするとも出來なかつた。

「畜生ッ。うまくやつてる」

英子はそのまゝづかづかと二人の前にとびださうとしたが、わづかに思ひとどまつた。そして何も知らずに、改札口をでて行く二人の姿を口惜しさうにながめてゐた。

「どうしてやらう。畜生ッ」

ペッと唾を吐くやうにから云つて、まだしばらく立ちすくんでゐたが、やがて決意したやうに電話ボックスにとびこんで、青地のところに電話をかけた。

青地や、有川は、彼女のカフェーに今迄何回も遊びにきてゐて、ある程度の馴染でもあつたのだが、この二人と青柳との間に妙なつながりのあることは、此頃の曉まで、英子はもちろん知らなかつたのだ。英子は青柳を知つてゐても、明子をしらず、有川たちは明子の關係から青柳の名を喋つても、その人間を知らなかつたからでもあるが、その二つが、別な意味で、英子一人にむすびついたことを、何かの因緣のやうに考へて不思議に想つてゐたのである。青柳に、運命つて不思議なものだと云つたのも、その意味からだつたのであるが、青柳にはもちろんその意味がわかる筈はなかつたのだ。

電話をかけ終ると、英子はもう一度婦人待合室に戻つて、青柳、明子、それから有川たちの話題にのぼつた宮內といふ青年などのことを、結びつけて考へてみた。青地たちの話によると、宮內といふ青年は、一度しかみたことのない明子に、まだぢつと執着をもちつづけてゐるらしく、その宮內を利用することが、有川たちの事業にとつては、より有利なことになるらしかつた。この關係のなかで、英子は青柳に復讐すると共に、一方明子の方にもそれの報いをあたへて、面白い芝居が打てさうに考へられたのである。

青地が來ると、英子はすぐに奧の精養軒に入つて行つた。

「何か面白いことがみつかつたつて話だが、どんなことだ? 儲かる話かい?」

「やり方によつちや、儲からない話でもないわ」

「まさか、銀座裏のカフェーにゐて、金鑛を發見したと云ふわけで

降ツたぞ降ツたぞ

全滿各地を潤す本格的な雨！

十年來の旱魃から救はれて狂喜する農民の群

天后宮娘々廟の御神徳か雨乞ひ祈りの甲斐あつてか二十五日夕刻から降り始めた雨は、二十六日終日まで降り續いて

本年 初めての本格的降雨量を示し旱魃に御利益を宣傳せんとする南滿全土の農民を救つた本年の旱魃は十年來のもので豆と高粱の播種きも遅れ南滿に於ける高粱は絶望に陥つてゐるが、それでもこの雨によつて盛り返し三等の播種きも出來、農民は僅かに安堵することが出來たのである

黄河上流にあつた七五四ミリの低氣壓が二十五日午後より下流に向つて移動を開始し、二十六日朝は青島の南東海上に出た、このため山東半島一帶は五、六十ミリ、關東州内は三十ミリ、北滿は哈爾濱より海倫方面まで小雨をもよほし、全滿各地がうるほされたわけである

併しこの雨も二十六日午前十一時頃には低氣壓が黄海中央に出たため快晴となり

雨雲 は一掃されてしまつたが、ともかくも早魃で雨乞ひ騒ぎのまつただ中に雨を得た農民は文字通りに狂喜してゐる

アト十日も遅れたら農作物は全然駄目

文字通りの慈雨

千葉豊治氏は本年の旱魃並に二十五日の降雨に關して次の如く語る

例年高粱その他の種蒔は四月一杯で五月上旬は全滿各地とも蒔き終り發芽を待つて樂しく娘々祭にでも參詣するといふのだが本年は全然雨を見なかつたため種蒔きが今日まで出來ず雨乞ひに狂奔して何事も手につかぬ有様で、この雨がもう十日も遅れたなれば高粱のみならず、豆、粟その他一切の農作物が殆んど駄目になり、南滿農民は全く餓死線上を彷徨せねばならぬといふ状態にあつた、幸ひに本格的な降雨を得て高粱は遅れてしまつたが、他の作物はまだ種蒔きの間に合ひ農民は救はれることになつた、文字通りの慈雨だ、今回の旱魃が南滿に限られ、北滿は幾分なりとも雨を得て時期通りに總ての種蒔きをすまし得たのは不幸中の幸であるが、全滿を通して本年の農産は相當の減額となるであらう

造林方面も一息つく

本年の旱魃は農産方面のみならず造林方面も多大の被害を受けてゐるが、關東大連苗圃の三年生「このてがしわ」の如きは枯れたものも相當あり、また松の苗も植付け總數の約六割しかもたず、失敗を豫想して苗植付けを行はなかつたものもあつた、同苗圃主任岡力太氏は語る

私の二十年間における苗圃生活中本年の旱魃の如きは未だ知らぬ程です、苗圃はともかく附近の果園の如きは全く見てをれませんでした、井戸を掘つても水は出ず、天を仰いで雨雲を待つてゐる有様は悲慘なものでしたこの雨でともかく一息ついたことでせう

一坪一升八合餘

新京も今朝迄降る

【新京電話】夜半に至つて遂に恰好の慈雨となり二十六日の朝まで續いた、觀候所新京支所に打診すると

今度の雨は十分だとは云はれないが百姓達に取つては大助りだ、雨量は九ミリ六で一坪一升八合四七だつた、大連附近は三十ミリばかり降つたらしい、今頃は氣候の變り目だから天候は不良で曇勝ちな日は少しは續くだらうが大降りになることはなからう

滿洲國皇帝花瓶御下賜

【東京二十六日發國通】昨秋滿洲美術同人會と東方繪畫協會との協同主催で滿洲各地に同國初めての美術展覽會を開いた際、玉堂、栖鳳、翠雲等一流の日本畫家二十氏が滿洲國皇帝陛下に奉つた繪畫に對し此の程御紋章入りの花瓶を御下賜になつたので二十五日午後一時上野美術學校講堂において其の傳達式が行はれた

チチハル國防婦人會發會式を擧行

【チチハル二十六日發國通】チチハル居留民會主催の大野遊會は二十六日午前八時より龍江河畔において擧行されたが、これと同時にエプロン姿甲斐々々しく北滿第一線チチハル國防婦人會發會式を同所にて滿〇團長、内田領事等出席のもとに盛大に擧行された

遺徳を慕ふ大楠公の夕

彌生高女で開催

大楠公の遺徳を記念する大連市の「大楠公の夕」は二十五日午後七時より市内彌生高等女學校講堂において開催された、折柄の雨にもめげず一般市民特にうら若い女性は定刻前に續々同講堂に參集その數約六百名、講堂の正面に大楠公のブロンズを掲げその下に大楠公の書幅の軸物を飾り、同三十分開會、……氏の挨拶に次いで全參會者しばし默禱を捧げた後……起立國歌を齊唱、それより……の講演に移つたが

……の挨拶、彌生女學校生徒の合唱に伴れて踊る江頭柳子女史の舞踊君が代、大連二中教諭大坪康氏の大楠公に就いての講演、日本橋小學校女子六年生有志の兒童劇楠公旗揚にて、彌生高女生徒有志の大楠公の歌のコーラス、……の講演、……の詩吟、大楠公、大連演劇研究會々員の大楠公に因んだ脚本の朗讀、江讃法師氏の宗教歌……等プログラムの進むに從ひ參會者一同今更ながら大楠公の忠誠に打たれ、最後に松竹蒲田映畫大楠公（早川雪洲、水谷八重子主演）の映寫で餘興は終り、同十時半……氏の閉會の挨拶を以て深い感激と教訓裡に大楠公の夕は終了した

武勲を遺して傷病兵凱旋す

けさあめりか丸で

傷病兵凱旋兵士百九十四名が赫々たる武勲と幾多の想ひ出を殘して二十六日出帆あめりか丸で滿洲を後に懷しの母國へ凱旋した、埠頭には白衣の勇士を見送る在郷軍人團、國防婦人會員、各小學校學生團はじめ一般團體、市民等がギツシリつめかけ華やかな凱旋風景を描いたが出帆に先きだち小川大連市長は〝凱旋兵を送る〟の熱誠の挨拶を述べ、これに對し志摩……大尉は一同を代表し感激に滿ちた答辭を爲しかくて凱旋軍人萬歳？の歡呼に送られた

なほ右凱旋兵中戰傷兵は古館少尉、佐竹要吉一等兵、渡邊正雄上等兵、古島卯平一等兵、大島長之助上等兵、山賀武平二等兵、溝越善四郎一等兵等である

留置場からか

勇躍・檢査場へ

罪の青年に係官が涙の計らひ

水上署を繞る徵兵美談

適齢期の青年が犯した罪から留置場に入り、目前に迫つた大切な檢査のため特に涙ある係官の計らひで留置場から勇躍檢査場へ駈け付けた徵兵美談——市内吉野町二中川運送店員長崎縣生れ竹田德四郎（二一）假名——は

十八歳の時 から同店に勤め、その手腕を認められて發送主任の位置についたが、去る十四日支那人と結託して同店から新京滿洲國政府の軍政部行き罐詰七梱を押領して人絹二千圓を密輸せんとするところを大連水上署外事係刑事に發見された

取調べに對して同人は惡漢のある友人に誘惑され斷り切れず惡いとは知りつゝ密輸を計つたと陳述したが、全く嘘言で

金欲しさに 自ら企てた密輸であること判明し、司法係に廻されて二十九日の拘留處分に附され二十一日より水上署に留置されてゐた

ところが同人は丁度適齢期を迎へ日本國民の崇高な義務である徵兵檢査を二十六日日本橋小學校で受けることになつてゐた、これを知つた司法主任は僅かの犯罪で檢査を失する同人の將來を考慮し、保安主任と相談の結果、二十五日同人を留置場より引出し崇高な國民の義務を説いて懇々と諭したところ

五月雨にひらく

（上）傷病兵の凱旋（中右）天后宮の降雨感謝祭典（中左）五月祭りに降雨を衝いて集つた女性群（下）海軍記念日のZ旗マークを賣る海洋少年團

連鎖街裏小路で雨中の大捕物

ダンス狂の泥棒

二十五日の夜土砂降りの連鎖街裏小路を舞臺として二時間餘にわたる追跡格鬪の末、指名捜査中のダンス狂大泥棒が大連署河野刑事に取押へられた

犯人 は熊本市……町一九六八大谷信（二七）で、昭和九年三月頃來連、以來一年餘市内方々の旅館を轉々として淫蕩の巷に溺り兵き一週間の中三回は泥棒を働き後の四日はダンスホールで暴すといふダンス狂大泥棒である

ところがふとした機會に大連署では頻々として起る貴金屬衣類の窃盜事件が同じ遣り口でしかも大谷の犯行であることの確證を握り、それ以來指名犯人として手配中であつたが

最近 に至り犯人は泥棒を働いて得た金でダンスホールに入り浸つてゐることをも探知し、偶々河野刑事が大連會館に二十五日午後八時頃から客にまぎれて張つてゐると悠々と現れたので有無を言はせず取押へたところが自動車を呼んで連行しようとしてゐると僅かの隙を見て降りしきる雨の中に脱兎の如く飛出し一目散に連鎖街に向つて逃げた、河野刑事はその跡を追つて連鎖街の裏街に飛び小路から小路へびしよ〳〵に雨に濡れ乍ら二時間餘も根氣よく追ひ廻したが、犯人大谷は遂に河野刑事の眼をかすめて

闇の 中にどこともなく消えたので、本署に應援を求めると共に更に捜査を續け、森洋行裏小路某商店の便所に潛り込んでゐるのを發見したが犯人は必死となつて抵つてかゝり、大格鬪の末遂に十時過ぎ應援の來る前に逮捕し本署に連行嚴重に取調べたところ露島町白濱某氏宅で貴金屬衣類價格數百圓を窃取したのを手始めに市内十數ヶ所で價格約五千圓に上る犯罪を自白し、ダンスホールに通ひつめてゐた亂行振り一切を自白した（寫眞は犯人）

お鯉さん奉天へ

【安東電話】彼岸祭の靈嬰として同人は晴れて鑑査場を出て水上署の護衛を受けて檢査場へ向つたろ、同人も淚を流して將來を誓つたので、特に

寛大な處置 をとり御に檢査に間に合はすことゝなつたが二十六日五日間といふことにして

又昨年の議會で小山前法相に絡まる事件で有名となつたお鯉さんこと東京護國寺……の女將安藤照子は二十六日午前十一時安東通過奉天に向つた

法政連勝

【東京特電二十六日發】法政對慶應第二回戰は廿六日午後零時五十分より神宮球場において伊丹（法）、蒲（慶）兩軍、天知（慶）四氏審判、法政先攻で開始した、法政連勝の打撃凄しく、慶應必死の防守を撃破し遂に七對三で法政は勝し三時開戰した、法政は之れで此の春の試合を完了し、明、立、慶、帝の四チームに各二勝し、早大に一勝し九勝一敗の成績を收めて今後早大が連勝せざる限り法政の優勝に歸することゝなつた

法政	100	600	010	—	7
慶應	100	020	000	—	3

（法政）倉田岡口渡城村田藤　戸藤鶴原廣熊中稻伊　825397641

（慶應）方山（山）津田石里　井（井）塚田　國中（大）本鶴九　岡　櫻敏（土）山（春日）井　89HR75432116PH　PP

安東の強盜

【安東電話】二十五日午後七時三十分安東市……方へ三人組の……が侵入し、現金千三百圓を強奪逃走したので日滿警察協力し捜査中

阿野機アラハバッドに向ふ

【カラチ二十五日發國通】歐亞連絡飛行阿野勝太郎氏の青鷹號は今朝七時カラチ出發印度中部のアラハバッドに向つた

聖德記念の壁畫集頒布

財團法人明治神宮奉賛會では國民一般に明治大帝の御聖德を不朽に傳へ奉ると同時に、一面當代美術の精華を永遠に遺すべき資料として今回神宮外苑聖德記念繪畫館の壁畫集乾坤二帙を刊行頒布する事となり先づ既成畫中より四十枚を高級原色版に附したる壁畫集乾帙の完成を見たので、廣く一般に頒布する事になつた、壁畫集は一帙金三十圓（配本料共）にして頒布希望者は直接奉賛會へ申込まれたいと

鳥居祭り延期 あるから會主催で南山々頂に擧行される筈だつた二十六日の鳥居祭は風雨模様のため來週日曜日（六月二日）に延期した

五月祭り中止

金州行ハイキングも

本社後援大連市役所主催の待望の五月祭は昨夜來の雨にぬかるむグラウンドのコンディションの不良と、降りず降らずみの空模樣とにたゝられて心惜しくも中止するの止むなきに至つた

この日會場の大連運動場には定刻前に續々と詰め寄せ參加女學校、婦人團體等入口前に蜿蜒長蛇の列をつくつて盛況を思はせ、十時、十時半と時を經るにつれて早くもメインスタンドは豪華たる乙女たちによつて埋め盡され、バックスタンドに溢れんばかり煙花三發止に豪華五月祭の幕は切つて落されんとしたのであつたがコグランドの調子、天候共に不良に付き本日の運動會は中止致します」と無情なラウドスピーカーの放送に折角朝來參集した市民、婦人女性群は恨めしさうに會場を振り返り〳〵引揚げて行つた、同開催期日は追つて役員協議の上決定の筈である

又滿鐵運動係選定部同社員會體育部及び大連市役所社會課ツーリスト・ビューロー並に本社共同主催になる第三回〝ハイキング〟連行も雨にたゝられて中止となり滿鐵社員運動試合は開始時間を午後一時に變更し、又全滿滿鐵運動會は豫定の如く午後二時半よりそれぞれ擧行した

好記錄續出す

州内外對抗競技大會

【奉天電話】滿洲陸上競技聯盟主催州内外對抗陸上競技大會は二十六日降雨を衝いて午後一時より奉天國際運動場において擧行、三千米久保田兩選手の接戰に續き八百メートル競走によつて大會の幕は切つて落されたが、雨天とぬかるみの悪コンディションにも拘らず競技選手の意氣大いにあがり好記錄續出した

山岸選手第二回戰に出場

【オウトイユ二十五日發國通】全佛庭球選手權試合に出場中の山岸選手は二十五日のシングルス第二回戰に次の通りフランスのトロンサンをストレートに破り第二回戰に進む事となつた

山岸 6-3 6-4 6-1 トロンサン

天氣豫報（二十七日）北西の風晴一時曇

滿潮（午前十一時二十分　午後十一時五十分）干潮（午前五時　午後五時廿五分）

親鸞聖人 (223)

女人篇

吉川英治 作　山村耕花 畫

手長蟲 (六)

「まだあるぞ!」

押しかぶせるやうに四郎は右の腕を上げて云つた。

「おれは天下の大盗だ。慾望の数には限りといふものがない。盗の生涯につき纏うて、盗を四方に財寶を集めさせてはせびりに来る。今夜は初手の手付といふものだ」

「生涯、この親鸞から財をしぼるといふか」

「おれは、業欲の業蘊を搬つてるからな。――いやとも云へまい」

「さぞうに財物を集めてお前はいつたい何を築きたいのか」

「死ねば、おさらばを告げるこの世に、財を築いて置く気などはさらゝない。みな、飲む、買ふ、賭る、あらゆる享楽にして、この一身を歓ばせるのだ」

「歓ばせて、何うなるか」

「悪業する」

「それは、肉體がさう感じるだけのもので、心は、その歓喜をもの苦しみや、至福を抱きはせぬか。人間は、霊と肉體とのふたつの具現ぢや。肉のみに生きてゐる身でない」

「小理窟は嫌ひだ、理窟を云つてるやつに、一人でも幸福さうに生きてゐる者はない。とにかく俺はその日々々がお面白くあればいい、為たいことをやつて行く」

「あはれな男なう」

「誰が」

「お汝ちや」

「わはッはゝゝゝ」

四郎は高い天井の闇へ哄然と一笑をあげて、

「こいつが、てめえ自身の不倖せも知らずに、俺を不愍だと云やがる」

まだ腹が痛さうにして云つた

が、ふと、親鸞の一語が頭の隅で業になるらしく、

「おれのどこが、あはれなのか、あはれらしいのか、云つてみろ」

「お前のやうな悪人が、會ふべき御法の光にも浴さず、闇から闇を搬うて生きてゐることの、何ぼう不愍にも思はれるのぢや」

「やいつ、待て」

四郎は大股を一つ踏み鳴らして

「おれを悪人だと」

「されば、さう云つた」

「すこし気をつけてものを吐かせ。この天城の四郎を悪人だと云つた奴は、天下に数をもつて嘲矢とする。第一、俺にとつて大なる悪事だ。おれは悪人だ、大盗だ」

親鸞だかに俺が云ふのを紛議そのものゝやうな姿でながめ上げながら、親鸞は、悲しげにうすい笑くぼをたゝへた。

「お前は弱い人間ちや、偽善の偽面をつけて居らねば、この世に生きてゐられない哀な――」

「偽善だと。ふざけたことを云へ、俺の眼は、本心から出てゐる。人のうれひを見て喜び、人の悲しみや不運を作つて自分の快楽とする。自分一つの生命を保つためには、千人の人間の生命を殺めてもなほ悔いを知らぬ。斯くのごとく、天城の四郎は、無慈悲だ、悪虐だ、殺生ずきだ!そして、女を見れば苦にになり、他人の幸福を見れば呪詛したくなる。――これでも俺を善人といふか」

「まことに、近頃めづらしい悪業の虫を聞いた。話せば話すほど、お前は稀な変種なお人ちや」

映畫と演藝

◇◇椿姫◇◇

小デューマの傑作「椿姫」の映畫化は既に幾度かこゝろみられたが、今回フエルナン・リヴエールがフランス一流の舞姫イヴオーヌ・プランタンによつて製作した一篇は最も原作に忠實にして最も美しく描き出されたものと云つてよからう。廿七日より日活館に於て上映されるが、併映はメトロの傑作ノーマ・シヤーラー主演の麗姫(寫眞は椿姫として登場したイヴオーヌ・プランタンの椿姫)

渡満の準備進む 大阪文樂一座

一行五十餘人、人形百餘體 大連新京は二夕替り

人形淨瑠璃大阪文樂一行五十名人形百餘體の渡満準備は着々進捗し松竹興行部井常務は二十三日上京軍部方面とも充分なる打合せを行ひ、更に數日中に渡満、關東軍、満鐵方面に具體的援助を依頼することとなつたが、満洲における出し物も既報の如く

▲忠臣藏道行旅路嫁入▲三勝半七酒屋の段▲三番叟▲菅原傳授手習鑑寺子屋の段▲三勇士名譽の肉彈

以上の外に大連、新京等では二の替りとして

▲生寫朝顔日記大井川より宿屋まで▲伽羅千代萩御殿の段▲安宅關勧進帳▲攝州合邦辻住家の段

を選ぶこととなつた、一行の主なる顔ぶれ左の如し

竹本越路太夫、鶴澤綱造、豊竹辰太夫、竹澤團三郎、竹本小春太夫、鶴澤清二郎、竹本南部太夫、鶴澤重造、豊竹つばめ太夫、豊竹若太夫、鶴澤友衛門、竹本相生太夫、竹澤團六――竹本津太夫、鶴澤綱造、吉田榮三、吉田文五郎、吉田三藏、桐竹紋十郎

六月新譜レコード 各社の流行物紹介

六月各社の新譜中流行歌物、ジャズものを見渡すに例月に比して勝れたものが少い。各社一枚づつ位でコロムビアの「浮世施」(上野静夫)ビクター「無情の夢」(児玉好雄)ポリドール「去り行くジプシー」(東田良三)ポリドール・キング「海のみなしご」(東海林太郎)等を挙げることが出来る、全般的に比して相當なものを揃へてゐると云つてよからう。各社の主なるものを紹介して見やう

ビクター　流行歌、ジャズ、小唄端唄合せて八枚、その内新人児玉好雄の「無情の夢」は各社を通して最も好評を博すと思はれる「無情の夢」のB面「椿の丘」は小林千代子であるが、これもいゝ、双方共に佐々木俊一の苦心の曲である、次に藤山一郎の「恋の花束」ジャズ・シンガー藤山として未だ見ぬ出来であるB面ヘレン隅田の「二千萬人の恋人」はなくもがな「無情の夢」に相對して好評を博するであらうと思はれたものに渡邊はま子「銀の小指」と四家文子「傷める薔薇」がある

コロムビア　流行歌十二枚を出してゐるが臨時發賣物を合せると廿五枚以上になる、中で一番受けやうと思はれるのは「恋の飛燕」以来相當の人氣を持つ上野静夫と渡邊はま子の「浮世施」で民謡風な曲譜は流行歌の流行譜として一般受けがしやう、B面は霧島一人で「千鳥ばやし」を入れてゐるがこれもいゝ、これに次ぐものに「恋の魔術師」で売り出した明本京静の「高原の灯」がある、B面ミス・コロムビアの「白樺の小径」は無難なもの。一寸見にはつきやう、その他メリーサイドウの主題歌「国境の町うた」「恋しのキノルル」(ペテイ稲田)等、臨時發賣の少女歌劇物等が受けやう

ポリドール　流行歌、ジャズソング六枚、キング盤九枚中前記東田良三の「去り行くジプシー」は甘美な曲譜と優雅な歌詞によつて大衆受けがしやう、B面東海林の「谷間のこだま」は變つた意味で東海林ファンを喜ばすことだらう。この外千恵プロ「気まぐれ冠者」の主題歌を東海林が入れたもの、これはB面のリズム・ボーイ「山賊の合唱」と共に大衆性に満ちたもの、キング盤の「海のみなしご」は濃淡調東海林の會心のものであらう、外に東海林の「おぼろ月夜」と奥澤千枝子の「田植唄」「かいゝ

外人部隊觀賞會
讀者優待券(一枚一人)
二十日より日活館にて
階上八十銭・階下六十銭
後援 満洲日報社

外人部隊觀賞會
讀者優待券(一枚一人)
二十日より日活館にて
階上八十銭・階下六十銭
後援 満洲日報社

（日刊）　滿洲日報
朝夕刊共十四頁
發行所　大連市東公園町三十一番地　株式會社 滿洲日報社

想ひぞ起す此一戰
けふ三十周年海軍記念日

日本海々戰卅周年

近代東洋に於ける劃期的國際事件たる三十七八年戰役中、最も熱烈に日本國民の血を沸かした角逐の一は、彼我兩國が精鋭を盡して輸贏を爭うた日本海々戰であつたが、之より先き三月十日の奉天會戰に依つて、陸における勝敗の數略ぼ既に決定したるに拘はらず、この海戰の運命如何は、その大局に及ぼす影響實に甚大なるものがあつた。吾人は毎年今月今日を迎ふる毎に、往時を追懷して感慨禁ぜず、當時全同胞の胸裡に充滿したる鼓動を聽き、その捷報を手にした彼等が到る處欣舞したる壯觀を髣髴させられる。而して今年は恰もその滿三十周年に相當し、之に對する擧國民の感激は一層甚深なるものがある。

◇

惟ふに三十七八年戰役前においても、見て以て國難と稱すべき事件はあつた。更にそれ以後の國歩にも、亦た人心を極度に昂奮させたこと一再でない。併し三十七八年戰役ほど帝國の運命を左右した危機は稀である。それは獨り國家存亡の岐路を劃した事件なるのみならず、その後東洋全局に大影響を及ぼし、延いて世界大に甚深な關係ある史實であつた。古よりいふ、天の大任を下さんとするや、必ず先づ非常な艱難困苦を以てすると。日本が直面した當時の試煉は正にそれであつた。日本は能く之に耐へ、能く之に克つたが、この大試煉の結末を完成したのは日本海々戰であつた。日本と地理的事情の酷似する英國は、曾て百餘年前において殆んど同樣の國際事情に遭遇し、陸においても、海においても亦た同樣の偉功を奏した。而もその深廣の程度を考覈すれば、寧ろ後者に倍加するものがある。

◇

就中十九世紀初項の歐洲事情を回顧すれば、民族抗爭の範圍猶ほ眞に冠するに世界的を以てし難き點がある。否な英佛覇權の爭奪がその後英國の前途に横たへた局面よりも、三十七八年戰役後における日本の國歩は、質と量と角度とを一層多事多端ならしめた。即ちこの事件が直接間接の影響を與へた歐洲大戰は、居然たる強國として日本の參加を餘儀なくさせたが、同時に平和克復後に於て世界の全波動を東洋に集中せしめ、支那の內紛は益々その度を高め、太平洋上の商權競爭熱は一層その急を加へた。換言すれば三十七八年戰役に於て日本が獲得した地歩は、その地歩の安定と、それが誘發喚起した次の使命との爲に、更に大なる努力精進を我が國民に要求して居る。吾人は正にこの新國運を偉化すべき道程にあるのだ。

◇

三十七八年戰役は東洋における日本の存在を、明白に世界萬國に周知せしめた。三十七八年戰役は日本に世界列強の間に雄視し得る機會を與へた。併しそれまでの日本は概ね外に對して內を固むるに汲々したのであつて、進んで積極的貢獻を世界に廣被すべき活動に至つては、猶ほ一に今後に期するもの實に少なくない。そこに舊時に幾倍徙した大なる天の重任がある。時の流れは益々物質的に日本を發達進歩せしめた。それだけ國民の知識は恢弘し深廣となつた。而もその茲に至つた淵源を探究すれば、總て國を擧つて奮戰苦闘した忠誠勇武の精神に歸せねばならぬ。唯夫れ人情は動もすれば本を忘れ易い。繁榮の結果に安住して國史の精髓を輕視しようとする。今や吾人が日本海々戰三十周年の日にだて、衷心より覺醒せねばならぬのはこの點だ。それは必ずしも戰爭その者の爲のみでない、一日緩急の際にだては勿論、平時の總ゆる諸問題に對して、造次も忘るべからざる信念であつて、今の時代相は殊にこの精神作興を必要として居る。

日本海々戰 三十周年を迎へて

再び皇國の興廢を擔ふ
海軍大臣 大角岑生氏談

帝國海軍が其の全力を擧げて露國遜維的艦隊を對馬海峽に邀擊擊滅し前古未曾有の大捷を博してより今年は既に三十周年を迎ふるに至つた、三十年前「皇國の興廢」を決したる當時の我海軍の旺盛なる意氣と其の後今日に至る我海軍の充實に伴ふ國運の進展と軍縮問題に當面せる帝國刻下の非常決意とを追想靜觀する時、我國民たるもの誰か感慨無量ならざるものがあらう、吾人は新たなる感激を以て往時を偲びつゝ翻つて現時の重大危局を直視するに當り益々報國の覺悟を堅くするものである。

◇

日本海海戰は日露兩國にとりて實に乾坤一擲の決勝戰であつた、其の全艦隊の擊滅は遂に露國の戰意を放棄せしめ講和會議開催の直因を作つたものである、かくて明治大帝の御稜威と、帝國陸海軍の善謀善戰と銃後國民の熱誠なる協力により克く大露國の脅威を排除して東亞を安泰ならしめた

◇

實に露國東進の阻止は東洋における帝國の指導的地位確立のためわが實力を發揮したる劃期的大事業であつて、爾來世界大戰參加、滿洲、上海事變、聯盟脫退、華府條約廢止等帝國は常に東洋永遠の平和維持のためにその傳統の使命に邁進し克く東亞の中心的安定勢力としての眞價を發揮したのであつた、その間帝國海軍は帝國の使命に遵つて鋭意內容を充實し、連綿不斷の鍛錬に努め、その重責を果すことに遺憾なかつた。

◇

今や國際情勢愈々混沌として各種問題の歸趨全く豫斷を許さゞるの現狀にあり、加ふるに帝國はその將來の運命を左右すべき軍縮問題に直面し、上下異常の決意を以てわが主張の貫徹に邁進してゐる、吾人は飽くまでわが公正妥當なる主張を列國に理解せしめ、彼等の疑心暗鬼を一掃し、その偏見邪推を是正するに努むべきであるが、他方常に實力の滿を持しわが海軍をして不敗の地位に在らしめざるべからざることは、國際間の現狀に徴して喫緊の要務なりと痛感するものである、この點恰も三十年前の今日と等しく今やわが海軍は再び「皇國の興廢」をその双肩に課せられたるものと謂ふも過言ではないであらう。

◇

われ等海軍々人はその職にあるものと鄕に在るものとの別なく、この重大時局の實相を正視し、一致團結、軍縮問題を繞る各種對策に關し一層の努力を拂ふとゝもに不退轉の決意を以てこの難局に善處しなければならぬ、かくしてこそ初めて三十年前宣揚せる諸先輩の偉業を繼承し、これを結實せしむるの責務を果し得るものと思ふのである。（東京二十六日發國通）

國際危機に備へよ
旅順要港部司令官 濱田吉治郎氏談

五月二十七、八日は日本海に露國「バルチック」艦隊を殲滅し皇國の興廢を一擧に決した我々海軍々人

一國々運の消長はその國海上權力の降替と起伏を同しうすることは古往今來動かすべからざる事實であつて歷史がこれを雄辯に物語つてゐる、米國の大戰略家マハンは「克く海面を制し得るものは克くその局面を制す」といつてゐる處に至言であると思ふ、しかし人類は陸上に棲息する關係上動もすれば海洋の使命を眞に理解するものゝ勘いのは誠に遺憾である

◇

日本海々戰後こゝに三十年、一度想ひをこの海戰の成否に致すとき誠に感慨無量のものがある、わが國民はこの光輝ある戰勝を祝福するばかりでなく更に一歩考へを進めて若しこの海戰が我々に不利になつた場合を想像すると共にこの戰勝のよつて來る所以を探究し現下直面せる國際危機に備へることが必要と思ふ

海軍記念日所感
駐滿海軍部司令官 津田靜枝氏談

人は元より日本全國民の忘るべからざる記念の日である 本年は實にその三十周年に當り亦當時の聯合艦隊長官たりし東郷元帥薨去の一周年をも迎ふる次第にして特に感慨に堪へぬものがある 顧みるに當時我は既に露の東洋艦隊を潰滅し奉天の會戰に敵の大軍を擊破せりと雖も滿洲の野にては彼我兩軍交綏狀態に陷り勢力の均衡を破るは容易の事でなく彼我共に局面の打開を海上に求めつゝあつたのであるが彼が戰運挽回の最後の望を贈し極東に送つた「バルチック」艦隊も目的地浦鹽に達せずして日本海の一擊に脆くも全滅し流石の驕露も茲に觀念の臍を固め戰意喪失急速に和を請はしむるの結末に至つたのである これを以て見るにこの海戰の意義の如何に重大なりしかを窺ひ得る次第で惟ふに海戰なればこそあの決定的成果をも期待できたので將來に於て海軍力の優劣は平戰を通じ國家發展に缺くべからざる決定的要素をなし又重大有力なる推進力をなすものであるといはねばならぬ

◇

日露戰爭における日本の戰勝は白人優越の人種的偏見及び白人全世界征服の野望を粉碎し從來の白人偏重の歷史的認識を一變せしめ全世界有色人種の自覺並勃興を促すの世界史上劃期的の重大結果を招來したるのみならず我日本は飛躍的の大發展をなし極東の衰商たる一島國は一擧に一大強國の地位に列し東洋における唯一の安定勢力たるの事實及び權利を世界に認識せしめ東洋諸國の指導者の地歩を確立し得たのである 爾來二十數年かの滿洲事變勃發迄は我國運の進展隆々たるものがあ

治外法權撤廢を支那側から要請か
有吉大使の着任を待つて問題解決を迫らん

【東京特電二十六日發】滿洲國治外法權撤廢に關聯し支那における治外法權撤廢問題を南京政府から日本側に要求して來る狀勢が相當濃厚となつてゐる、支那の法權問題は一九二六年日英米他九ヶ國を以て支那國治外法權撤廢委員會を組織し支那各地を視察した結果

今暫く支那自身の裁判、警察その他の制度を整備したる上同問題を具體化すべしとの結論に達し、當時重光駐支公使と國民政府外交部との間に具體化に就き相當の諒解成立し居るので今回有吉新駐支大使の赴任と同時に支那側より一應同問題解決を要請し來るものと見られてをり、支那への勢力扶植に熱中してゐる列國は借欵問題と同樣法權撤廢問題をめぐり再び策動を開始するやも知れず成行き注目されてゐる

有吉大使園公訪問

【奥津二十六日發國通】有吉大使は二十六日午前九時奥津坐漁莊に西園寺公を訪問初代大使就任の挨拶を述べた後最近における南京政府の對日政策の眞髓を率直に聲告すると共に今後の對支政策の根本方針に就き初代大使として老公の諒解を求めたに對し老公は最近の日支關係の新展開について有吉大使の功績を讃へ初代大使の職責を切望し激勵する處あり會見一時間にして有吉大使は坐漁莊を辭去即日歸京した

有吉大使語る

【奥津二十六日發國通】老公と會見後有吉大使は左の如く語る

大使新任の挨拶に來たのだが四方山の話が出て會見時間が長くなつた、支那の對日感情好轉には老公も非常に喜んでをられた長い歷史があるので急激に變化するとは思へないが最近支那の要路筋が日本を諒解するに至つて昨年の今頃に比べると非常に好轉して來てゐる、七月一日關稅の引き上げが行はれるが之は財政の都合で轉口稅輸入補塡の爲めに各國に對して一齊に行はれるもので別に排日貨的關係のあるものではない、又極く低率のもので取引上に對して影響があるものではない、財政の援助も條件次第だが今政府にそんな金があるわけではないから双方の民間同志の經濟提携をする事が必要であると思ふ、日本でもさうだが國民性があり面目問題があるので餘り押しつける事は不成功に終らせるだけであらうから適當に善處する事が肝要ではないかと思ふ

ソ聯と均等の兵力を要求す
獨外相率直に言明

【ロンドン廿五日發國通】ヒットラー總統の外交演說に關しフイツプス駐獨英大使は二十四日ドイツ外相ノイラート男と會談、改めてドイツ政府の意思を確めたところノイラート男は植民地返還問題並に軍備問題に關し明確率直にその諒解を表明し特にソヴエート聯邦軍備の擴張に對抗する爲め兵力百萬航空機二千數百臺を有するソ聯との兵力均等を要求した模樣である、英政府としてはドイツの軍擴要求に對しては頗る難色を示し今回ドイツ政府の說明を英獨折衝の將來に至極困難な問題を投じたものと見てゐる

孫財政部大臣

【安東電話】滿洲國財政部大臣孫氏は視察のため安東にあつたが視察を終へて二十六日午後十一時二十分安東發で一泊した後二十七日午前十一時二十八分五十分……

外蒙側代表來らず
我三代表海拉爾へ

【滿洲里二十六日發國通】二十六日の國際列車は午前九時滿洲里に到着したが待ち佗びられる外蒙代表一行は此の列車でも姿を見せなかつた、如何に遲れても次回三十日の國際列車には必ず乘つて來るものと思はれる

【滿洲里二十六日發國通】二十六日代表部發表＝外蒙代表の滿洲里到着が遲れたのでこの暇を利用して年に一度海拉爾において行はれる呼倫貝爾全旗長會議に臨席のため凌陞主席代表並びに烏副司令官、齋藤兩委員は二十六日午後四時十分發列車にて海拉爾に向つた、三代表は二十八日歸滿の筈で滿洲里には神吉委員が殘り代表部一切の事務を處理する筈である、神吉代表は語る

外蒙代表は二十六日の國際列車で到着しなかつた、恐らく來る三十日の國際列車では來着するものと豫想されるがお蔭樣で我方における一切の準備は充分の時間を得て萬遺漏なく完備する事が出來た

昨夜林陸相の招宴
ヤマトホテルに旅大官民ご交驩

林陸相の旅大官民招待宴は二十六日午後六時半大連ヤマトホテルに開催在連各國領事、大野關東局總長、竹下關東州廳長官、米內山民政署長事務取扱、小川大連市長、大內大連市會議長、林、八田滿鐵正副總裁を始め日滿實業家ら百五十餘名の名士を網羅する盛會であつた、デザートコースに入るや林陸相起つて

事變以來出征軍人にまた傷病兵に多大の厚意を示され銃後の力強い後援を賜つたことは感謝に堪へぬ、大連並に關東州は物質的に發達してゐるとともに精神的にも協調を示し滿洲の發達を背負つて立つ地位にあり今後も一層物心兩方面から勇往邁進の氣魄をもつて我國の對滿政策遂行に寄與せられんことを切望する

と挨拶を述べたに對し小川市長來賓側を代表し起つて

林陸相が對滿國策上重要使命を帶びて御來滿第一歩の二十五日旱魃に惱みつゝあつた滿洲の空に雨を齎し起死回生の思ひを與へ大臣の御來滿の目的を達成する上に幸先よきを示した、どうかこの通りに多くの收穫を土産に御歸還あらんことを希望する

と答辭を述べ盃を擧げ食後主客歡を盡し八時半散會した

社員會の代表林陸相と會見
改組問題懇談

二十六日旅順に赴いた林陸相は午後三時半頃大連ヤマトホテルに歸來少憩の後滿鐵社員會代表中西幹事長、內海、北條兩幹事と會見した、右會見において社員會代表は滿鐵社員會の性質及び滿鐵の近況等につき詳細說明し更に滿鐵の今後に對する意見、特に滿鐵の改組問題につき社員會の有する意見を說明して陸相の諒解を求めた、林陸相は右社員會代表の意見を熱心に聽いた後

陸相として滿鐵の將來の使命殊に滿鐵の改組等に關してはこの際何等の意見も申述べることは出來ない

旨を答へこれらの問題については關東軍の意向をも充分に聽めた上更に愼重に研究する必要があると述べ右會見を終つた

林陸相語る

滿鐵社員會代表との會見を終へた林陸相は二十六日の旅順訪問及び社員會代表との會見に關し左の如く語つた

今日の旅順行きは時間の餘裕がなかつたので職務上のことで關東州廳長官並に要塞司令官に會つて情報を聽取したに止まる、自分としてはこの機會に戰跡の視察もやりたかつた、殊に盤龍山は自分として特別の思ひ出の多い所で、出來ることならばゆつくり視たかつた、旅順はいかにもさびしくなつたやうに感じた、これには色々の事情もあることで致し方ないと思ふが、併し繁榮策があれば何とかしたいと考へてをる

◇

滿鐵社員會の代表者に會つて種々滿鐵方面の事情を聽いた、滿鐵改組の問題についても色々意見があつた、併し滿鐵の將來の使命といふ根本問題については今俄かに自分の意見を言ふことは出來るものでない、これは關東軍の意嚮をも充分に確かめた上とくと研究する必要があるので自分からは何も言はず唯社員會代表の意見を聽き置いただけである

三國中佐渡滿

【東京二十六日發國通】陸軍省新聞班三國中佐は本省關東軍間の通信並びに事務打合せのため二十六日午後三時東京驛發渡滿の途についた

つたとはいへ徒らに戰勝に醉ひ日露戰役の由つて來たつた所以の大精神を閑却し戰前の緊張した氣分をも忘れ更に世界大戰後は國際協調の氣運に眩惑され華府會議に一度膝を屈するやこれを境として爾後自主的立場より顚落し一歩々々退嬰自屈に甘んずるの止むなきに至つた

◇

斯くて事毎に極東における我が權益を犯され、國民の發展を阻害され伸びんとして能はざる我が民族の膨脹力は內に鬱屈し一路打開の途を求めざるを得ない狀況にあつたのである

◇

茲に滿洲事變勃發を見るやこれを轉機とする我が國策の劃期的展開はその産業貿易の飛躍的進展と相俟つて皇國の國際的地位を躍進せしめたると共にこれが必然的結果として現狀維持を念とする列強との間に異常の軋轢を生じ遂に我が國を繞る國際政局は各種の意味において日露戰爭當時に優る重大なる危機に當面するに至つた

蓋し我が帝國は今や有史以來未曾有の膨脹をなさんとして居るのであるがこの皇國の膨脹は我が民族自然の發達に伴ふ止むに止まれぬ膨脹力によるもので自然の數として斯くの如き一國々力の發展は必然既存勢力との衝突を來し危機を招來するは古來免れ難いのである 又現下時局を彩る華府會議以來の海軍軍縮問題では東洋の盟主として平和確保に當らんとする帝國の國策遂行に對し之を抑へ自ら東洋に進出し之を其の勢力下に收めんとする列強と流血なき戰を續けて來てゐるのである

◇

今や滿洲國も國礎既に固く着々健全なる發達をなし日滿不可分關係益々其固きを覺えるのであるが滿洲國の建國と健全なる發達、之を以て滿洲事變は總決算されたものでなく僅に東洋問題解決の緒についたに過ぎない、皇國が東亞の安定勢力として不動の地歩を築き列強が之を容認するの外途なきに至つて初めて危機を突破し得たりと認むべきものである、現下の國際的情勢の一時的小康を以て危機既に去れるかの如く輕信する者なきに非らざるも我が興隆を賭ける危局は實に今後に任するのである

即ち本年は國際聯盟脫退の效力發生を見るあり亦軍縮本會議の開催の問題あり更に又昭和十一年末には米海軍の兵備は大いに充實せらるゝ等之等を繞る英露亞支那の動向と相俟つて滿洲事變以來の國際政局を清算すべき時機は次第に切迫してゐるのである、就中海軍問題が時局解決の中心をなすは明かにして今日は徒らに右顧左眄外國の壓迫を維れ恐れる秋でない、今や帝國は既に危機突破に力強い足を踏み出して居るのである

惟ふに皇國が現下の危局を克服するは即ち我が國本來の使命を達成する所以にして之が成否は一に懸つて今後に處する我が決意と準備とに存し全國民の結束と我國防十全を期する今日より急なるはないのである、冀くは國民たるもの此の確たる自覺磐石の如き信念を以て擧國一致難局に臨み敢然直往したいものである、是れ即ち日露戰役終局の目的に合致するものにして之に殪れたる先輩の血を無爲ならしめざるものと確信する

大觀小觀

海上では大艦主義を把持する米國は空軍でも大飛行船主義を固執しなければ面目に係はると考へてゐるらしい▲迷魂號、惡龍號相ついでの犧牲はこの大飛行船が如何に實用に適しないかを誨へてゐる筈▲しかもそんなことは無頓着で唯形が大であり數量が多ければ他を脅威すると考へるところ至極お目出たい▲何の必要があつて對南京政府の機嫌とりに焦せるか▲公使時代には何とも出來なかつたが大使となると局面が展開するなども甚だ可笑しい▲好い氣持の外務省が今度は貿易省を新設する計畫を立てる▲但し外交官の古手の捌口にする考へではないさうである▲人心一新は時に必要である、しかし之を屢々すれば人心不安に陷る嫌がある▲滿洲國の如き創業時代の人事は特に細心の留意を要する。

海軍記念日特輯

第三面に記念グラフ、第四面に小林躋造大將の「海軍日本今昔物語」、關根郡平大佐の「日露海戰の思出」、山路一善中將の「旅順攻略に海軍重砲隊參加」、第九面に佐藤鐵太郎中將の「露艦隊殲滅の刹那」の記事を掲ぐ（本日夕刊共十六頁）

右……バルチツク艦隊戰艦オスラービヤ苦戰の光景（東條鉦太郎氏畫）
下……海軍省が出した日本海々戰三十周年海軍記念日のポスター

下……日露戰爭當時の東郷大將

上……横須賀に保存されてゐる武勳永久に赫々たる三笠
下……旗艦三笠の主檣に命中した敵の彈痕

上……わが聯合艦隊旗艦三笠の勇姿

右……戰闘開始前における三笠艦橋（東條鉦太郎氏畫）
上……「敵艦見ゆ」の假裝巡洋艦信濃丸
下……戰役當時發行された戰捷繪はがき

右……バルチツク艦隊司令長官ロヂエストウエンスキー中將

上……五月二十七日威風堂々根據地を出動するわが聯合艦隊

海軍省で記念撮影　明治三十八年十月二十二日東郷聯合艦隊司令長官は凱旋と共に直ちに宮中に參內、次いで海軍省を訪問したときの記念撮影で、寫眞中央東郷大將、その右山本權兵衞大將、その他將星

舞鶴軍港に上陸する八百のロシヤ俘虜

熊岳城林檎の驛賣 販賣方法統一

各農園から殖産會社に渡して 今迄の諸弊害解消

【熊岳城】熊岳城驛賣組合では二十五日午後一時市民倶樂部に於いて總會を開き古川殖産社長、鈴木驛長の臨席を得て本年度驛賣方針に就いて左の如き事項を決議した

一、從來の生産者の籠詰めを廢止して販賣者の殖産會社に一任する事

二、各自分擔出荷量と更に出荷量の二割を添へて收穫秋に一時に殖産會社に出荷する事

三、金錢の支拂法は出荷量の按分に依り月二回とし五日と二十日に支拂ふものとす

四、籠詰めの數量は聯合會において決定された上割立す

五、組合費は一圓に對して一錢とす

右に依ると今迄各農園が勝手に籠詰めとして殖産に出して販賣せしめたものを今年は出來秋に一等品を選定して一時に殖産に渡し貯藏して驛賣を試みるもので今迄の方針を一變した形となり品質上からいつても亦取扱上からいつても今迄の弊害を全く除去されてをり然も一定期間間斷なく林檎、梨と驛頭を賑やかし旅客人を滿足させる譯で必ず熊岳城菓果の滿洲一である眞價が一般菓果黨に認識せられるものと思はれる

郵便車襲撃の匪團を殲滅

龍鎭縣警察隊の奮戰

【北安】龍鎭縣北安と德都縣德都を繋ぐ唯一の縣道に現れて今春來郵便車荷馬車其の他通行者を惱ましてゐた匪首平西の率ひる約五十名は最近通北縣界に蟠居してゐたが去る二十一日北、東北方四十支里義家屯附近に移動中なるを聞知した龍鎭縣警務司では警察隊二十名を翌二十二日早朝同方面に出動せしめた所同午前七時頃正面衝突し交戰約三時間に亘りこれを擊退したが匪團は踏みなれた濕地を利用して東方小興安嶺山中に逃走した、併し潰走を前に匪首平西及有力な輩で黑龍、海中華等は天誅の銃彈命中し枕を並べて落馬絶命した、而して勢ひに乘じた討伐隊は追擊に追擊を重ね匪團に多數の負傷を與へ馬四頭小銃彈五十發を鹵獲し敵將の首を携げ意氣揚々と歸北した此の大捕物の吉報に打ち喜んだ藤井首席指導官は語る

僅か二十名ばかりの警察隊で近頃にない大手柄をして呉れました匪首平西は半康德に次ぐ大物で却々手に負へない奴でした幸首領を斃した事は他の匪賊十名を斃したよりも效果があります

人質拉致の匪團と千山々中で猛交戰

鞍山の警察隊追擊

【鞍山電話】鞍山附屬地の人質事件については既報の如くその後鞍山署は必死の活動を續けてゐたが二十四日夜に至り同署では身代金要求の使者として送還された滿人二名が歸宅したるを好機に愈々彼等匪賊團の大討伐を

決行

これを殲滅して人質を奪還すべく同夜高等主任菅井警部補以下六名の騎馬隊を先發とし二十五日午前一時半司法主任栗原警部補の率ゆる四十名の署員及び憲兵隊並に遼陽縣指導官以下約二十名の警察歩兵隊より成る本隊は全員小銃を携行武裝を整へて歩兵砲、機關銃、彈藥を滿載してトラック二臺に分乘歸還滿人二名を案内者として密かに夜闇に乘じ匪團の本據たる千山方面に迫り大討伐を開始した、午前六時半討伐隊は遼陽縣下第六區一軒房の東北方二支里の山中なる

滿人

家屋に籠れる匪賊の一團約五十名と遭遇忽ち猛烈なる戰鬪を開始し約二時間に亘つてこれと交戰擊退し南方大峪溝方面に逃走中の賊團を急追中であるが彼等は滿人人質三名を連行してゐるとなほ我方全員無事益々勇躍討伐中である

千山の大頭目 海寛と遭遇

軍警討伐隊急追す

【鞍山】二十五日午前六時半千山々麓の滿人部落七間房に於てはからずも千山馬賊の大頭目海寛の一團約五十名と遭遇した鞍山警察、同憲兵隊及び遼陽縣警察歩兵隊六十餘名の討伐隊は、思はぬ大物とこの戰鬪に一層の緊張を覺えて勇躍これを絶滅すべく拳銃小銃を亂射して頑強に抵抗する賊團を急進、歩兵砲、機關銃、小銃を浴せかけ必死の攻擊を敢行したが、賊團は勝手知つた山中とて巧に斷崖絶壁の深谷を利用して我方の攻擊を避けつゝ漸次東方千山々中へと逃亡約二時間位に至り遂に山中深く追擊の手を脱れ去つた、こゝにて討伐隊は止むなく附近各部落につき賊情其他を調査し遺留品を集め射殺屍體數名は其の山中に遺棄して同十一時頃現地を出發、午後一時三十分全員異狀なく凱歌を奏して鞍山署に引揚げたが、徹宵討伐隊の指揮者として奮戰苦鬪した栗原本隊長、菅井[illegible]隊長は目のあたり夜來の激戰を思ひ浮べつゝ「折角大物にぶつかりながら海寛を取逃したのは殘念でした」と口惜しがりつゝ交々語る

先發の騎馬隊、トラックの本隊ともに隆昌州警備街道を一直線に突進して午前三時半、同贓金を手交すべしと匪團が指定した遼海城縣境の部落什間房の少し手前に到着したので全隊員はこゝでトラックを捨て秘かに部落の四周に散兵陣を張り同時に連行して行つた歸還人質兩名に匪團の要求品を持參させ指定場所に至らしめたところが暫く待つても何等の音沙汰もないので斥候を派し調べてみると品物を受取りに來てゐる筈の匪團は影も形もない、段々調査すると同所は目下海城縣保安隊が屯してゐるので匪團は同所に來れず川向ふの遼陽縣大平溝附近の小部落に居る模樣だといふわけで、さては失敗つたと思ふ間もなく六時過ぎ朝霧が晴れて向の山を望遠鏡で見ると何と三十人ばかりの賊影が谷間傳ひに列をなして東方千山の方向に逃げ出してゐるのだ、それ逃がすなといふので我方は直に歩兵砲を發射してその進路を遮り一方騎馬隊は迂回して賊の前方に出づべく又本隊は日滿兩隊に分れてその側面に出づべく二千五百米の山坂を拔渉して敵を急追し彈丸を浴せかけつゝ進擊した、この間賊團もさるもので盛んに小、拳銃を亂射して死物狂ひに應戰するし我方にもピュン／＼彈丸が飛來して却々危險であつた、併し我方は全員海寛を倒せとばかり勇躍死線を越えて急追の手をゆるめず前進又前進したが、何しろこの山は數十尺の斷崖絶壁の深谷で思ふ樣に追擊することが出來ず、そうこうするうちに勝手知つた賊團は深谷を利用して巧みに我方の追擊を避けつゝ谷傳ひに逃げて到頭千山の山深く逃げ込んでしまつた、もうこうなつては到底少數部隊の手に負へぬので殘念ながらその後の處置をつけて引き揚げて來たが、あんな大物が居ることが當初から判明してゐたらどんなにでも手筈が出來るのだし完全にやつゝけてゐたのに、約束の地點に賊團がゐなかつたのが彼等のもつけの幸ひだつたわけで、それを思ふと全くいま／＼しくて口惜しくて仕方がない

奉天砂山 第二次競馬

【奉天】奉天競馬倶樂部の第二次砂山競馬は廿九日を初日に渾河砂山馬場で開催されたが久方振りの競馬に入場者多數非常な賑ひを呈し馬券賣上總額四萬三千七百七十圓景品附入場券賣上高五百圓の巨額に達した第一日の成績左の通り（括弧內騎手）

▲第一競馬（速歩三二〇〇米）1清姫（一分五九秒）（武田）2村雨（安部）3松風（岩輔）▼配當（單）三十五圓（複）1十一圓2五十圓3頁馬配當一圓十錢

▲第二競馬（外來抽籤一八〇〇米）1撫順扶桑（二分三六秒）（成國）2滿龍（柳田）3飛龍（金星）▼配當（單）五十圓（複）1十九圓二十錢2二十六圓九十錢3十七圓

▲第三競馬（春抽一〇〇〇米）1武藏野（一分〇八秒）（古家）2峨嵋（安部大）3若櫻（二渡）▼配當（單）五圓七十錢、頁馬配當二圓七十錢（複）1五圓五十錢2八圓三十錢3八圓

▲第四競馬（抽籤古馬一八〇〇米）1安東豐（二分二五秒五分二）（矢山）2小極東（小川）3丹國（長友）▼配當（單）五圓六十錢（複）1五圓三十錢2六圓二十錢3七圓六十圓

▲第五競馬（賽馬場抽籤馬二〇〇〇米）1隆龍（二分三四秒五分二）（吉永）2白峰（甲斐）3功（井內）▼配當（單）三六圓二十錢（複）1六圓十錢2五圓九十錢3五圓二十錢

▲第六競馬（撫順春抽一八〇〇米）1五十鈴（二分三二秒五分一）（中野）2天戯（折田）3大天狗（田內）▼配當（單）十四圓九十錢（複）1七圓十錢2九圓二十錢3二十圓二十錢

▲第七競馬（抽籤古馬一八〇〇米）1安東白龍（二分二六秒五分二）（佐伯）2日本一（橋本）3初緑（石川）▼配當（單）七圓十錢（複）1五圓九十錢2十一圓十錢3十二圓八十錢

▲第八競馬（抽籤古馬一八〇〇米）1晴山（二分二五秒）（円）2武藏（古家）3乙女（山添）▼配當（單）七圓五十錢（複）1五圓二十錢2六圓3七圓八十錢

▲第九競馬（古呼馬二〇〇〇米）1吳櫻（二分三一秒五分四）（矢山）2錦具（円）3一流（田內）▼配當（單）八圓九十錢（複）1六圓四十錢2十一圓二十錢3八圓五十錢

▲第十競馬（抽籤古馬二〇〇〇米）1富士（二分三七秒五分二）（井內）2九州（野崎）3天公（円）▼配當（單）八圓（複）1五圓八十錢2五圓七十錢3十四圓八十錢

▲第十一競馬（外來春抽二〇〇〇米）1飛虎（二分二九秒五分三）（金星）2春洋（田內）3山彥（木村）▼配當（單）六圓十錢（複）1六圓四十錢2十一圓八十錢3十五圓三十錢

▲第十二競馬（抽籤古馬一八〇〇米）1豐川（二分二五秒）（中野）2日輪（石川）3南州（岡）▼配當（單）十四圓二十錢（複）1六圓六十錢2六圓七十錢3三十一圓二十錢

▲第十四競馬（春抽二〇〇〇米）1萬龍（二分四四秒五分二）（一郎）2光春（金星）3若春（橋本）▼配當（單）五十圓、頁馬配當三圓（複）1十二圓二十錢2五圓三十錢3六圓七十錢

關東軍全滿劍道大會　二十五日新京で

飛行機上から爆彈投下演習

大石橋の海軍記念日

【大石橋】我が帝國民の忘れむとして忘るべからざる五月二十七日これぞ日本帝國海軍記念日而も本年は日本海大海戰三十周年に當り躍進日本の非常時に直面する事とて、國民的覺悟を強調する爲め大石橋においては記念行事を左の如く決定實施する事となつた

一、日時　五月二十七日午前八時

二、場所　國旗掲揚場

三、式次（イ）開會の辭（ロ）軍艦旗並にZ旗掲揚國歌合唱（ハ）式辭（ニ）遙拜（ホ）萬歲三唱（ヘ）神社參拜（ト）閉會の辭

四、爆彈投下演習見學

1、日時　午前九時半より

2、場所　大石橋飛行場、滿洲國海邊警察隊の飛行機に依る爆彈投下演習

五、記念講演會

1、日時　午後七時半より

2、場所　大石橋小學校講堂

講演者　帝國軍艦臕艦長海軍大尉宇垣環氏、演題「軍縮と國民の覺悟」

瓦房店の行事

【瓦房店】瓦房店における海軍記念日の行事については廿三日午後一時より地方事務所會議室において市民會開催左の如く決定した

午後零時半より神社境內において國旗及海軍旗の掲揚式を行ひ君か代合唱二旗に對し敬禮、二十秒默禱中根市民會長の挨拶、谷本警察署長の發聲で大日本帝國萬歲を三唱し、守備隊長の發聲で大日本帝國海軍の萬歲を三唱し、午後一時十五分より海軍旗を先頭に市民會長、警察署長、守備隊長、在鄕軍人分會長は乘馬小學生樂隊、日滿小學生、青年學校生徒、在鄕軍人、國防婦人會の順序で目拔きの市街を旗行列日滿グランドにて市民會長の發聲で萬歲を三唱して解散、午後七時より倶樂部講堂にて講演會を開催、梅原分會長の開會の辭旅順要港部司令部機關少佐井上嘉氏海軍戰鬪の過去及び現在と題して講演後、河野畑越兩氏の琵琶演奏會を開催の豫定

鹽務視察團

【營口】豫て日本鹽務行政視察の途にあつた營口鹽務署長孫旭昌、同赤峰支署長金泥瀾氏及び財政部木村事務官等の一行は豫定の旅程を了へ二十四日午後九時三十八分着列車で歸署した

營口の敬老會

盛澤山の催し

【營口】昭和御大典記念の營口敬老會は本年が丁度八回目である二十五日午後六時から營口座において在營口七十歲以上の老人三十二名を招待して慰めようと地方事務所社會係中心となつて一般市民有志が老いを敬ふ會が開催された、開會前には附添同伴人場を終り定刻前田總務委員の開會の辭に引續き餘興に入つた

熊岳城父兄會

【熊岳城】熊岳城小學校父兄會では二十四日午後七時市民倶樂部において評議員會を開催して左記の件に就いて協議した

一、會長副會長推薦の件

二、昭和十年度豫算の件

三、贊助會員の推薦の件　本協議に依つて新會長として岡島氏、副會長として從前通り湯川秀夫氏を推薦し就任せるが今會議を以つて辭任した舊父兄會長鷹野驚雄氏は父兄會長に任ずること過去十有餘年間勤續して居り、幾多の功績をあげ各父兄より信用厚かつたが今年を以つて一先學校との緣が切れ辭任の止むなきに至つたもので各方面から非常に惜しまれてゐる

なほ本年は贊助會員として鷹野驚雄氏が推薦された外宮島學三氏、小林定義氏の三名が擧げられた、また最後の十年度の豫算は左の通りで承認された

一、收入　三〇二、八〇（內譯）

（イ）前年度繰越金七一、八〇

（ロ）會費二三一、〇〇

二、支出　三〇二、八〇（內譯）

（イ）兒童分庫補助費九二、九五

（ロ）體育獎勵補助費七〇、〇〇

（ハ）學藝獎勵補助費七〇、〇〇

（ニ）修學旅行補助費三五、〇〇

（ホ）雜費二四、八五

大楠公六百年祭 各地で盛大に執行

營口 五月二十五日午前九時より營口神社南苑にて大楠公殉節六百年祭は執行された朝來海曇の空に薰風颯々と吹き渡り境內に集まる人々は往古の大忠臣楠公を偲びつゝ待つ間程なく福島神職の祭典開始を報ずるや各自南苑に整列小學兒童を始め折柄碇泊中の驅逐艦藤は半舷上陸してこの式に參列し國防婦人團體營口市民の重立たる人々嚴かに神職の捧ぐる祭文に始まつて市民代表前田地方事務所長の玉串奉奠次いで藤艦長宇垣大尉の玉串奉奠にて典儀を終り引續き神社大前に整列右六百年祭儀の奉告祭を擧行したこの六百年祭典に就て新京地方事務所長武田胤雄氏より白地に菊水の紋所と非理法權天の五文字を現した大幡を奉納された（寫眞は營口神社の祭典）

鞍山 二十五日大楠公の六百年祭を迎へ當地では鞍山健兒團主催の下に午後七時から富士小學校講堂にて「詩吟と琵琶の夕」が催され

△大楠公田中和光、同上野千代松△楠公父子坂梨虎生△大楠公田中正右衞門△本能寺田吹克巳△小楠公木場千代春△十五夜一時藤田十米人△楠公川崎俊郎外六反正春、太田修平、野村歡幸上杉鶴丈諸氏の朗々たる詩吟や川崎、谷南氏の劍舞楠公等が演ぜられ又琵琶では

△笠置落ち中島旭影△楠中佐榮宮昇光△河內の宿法國院酒井旭心

等高く低く薰風流るゝ初夏の宵に撥音さえて南朝の大忠臣楠公父子の忠義に滿堂を感泣させかくて最後に昭和製鋼所顧問小柳津陸軍中將の「大忠臣楠公父子」の講演あり大盛況裡に午後十時頃散會したが稀に見る意義深き催しであつた

熊岳城 全國一齊に最も盛大に催される二十五日の大楠公六百年祭に際し熊岳城でもと、尾崎校長は何んとか兒童の爲に最も有意義な催しを試みて往時の大楠公を偲ばせたいと云ふところから遂に此の日の記念祭に相應しい催しが二十五日も學校で開催されて盛大を極めた、即ち自治會學藝部主催に依つて各學年より一名づゝ雄辯家を選出して大楠公に關する演說會を開き今日の意義深い記念祭を飾つた、尚午後一時より學校全體で紅白角力大會に移り大いに意氣を鼓舞するところあり最後に天皇陛下萬歲我校萬歲を三唱して目出度く終了した

瓦房店 楠公六百年祭典は教化聯盟主催五月二十五日午前十一時より瓦房店神社にて擧行した

開原 楠公六百年祭遙拜式は二十五日午前八時から小學校兒童青年團在鄕軍人國防婦人會員はじめ官民多數參列、若栗肅る開原神社において盛大に擧行された、午後七時からは青年團在鄕軍人分會主催の下に講演會を開催誠忠至孝の楠公父子の遺徳を景仰した

健康たれ！
健康こそは人生最大の寶です、總ての幸福の根源であります。初夏清爽の今、健康者の能率は自ら驚く程です。健康の持續と獲得は疲れコリ痛みの蓄積を防ぎ速かな除去に有ます
妙布は疲れやコリや痛みを除き治すに最も効ある全國的信用を得た有名なる家庭常備藥です忘れずお備へを
妙布
主効
肩腰のコリ
リウマチス
うちみ
神經痛
過勞の痛
乳のコリ
胸咽喉の痛
筋肉の痛
本舖　渡邊輝綱藥房

スポーツ

オール大連の編成 人氣が湧かう
要は選手の意氣込み次第だ
實滿戰を語る（十）

井上 さう編成してから少し練習をするといゝですね。練習といつても一日や二日でうまくいかないことは分りきつてゐますが心の持ちやう。練習次第では案外短い時間で理想的なピックアップチームが出來るかも知れませんよ。大事な試合ですからピンチに臨んだ時とか、この一打なんといふ時はあの人が居ればなんて、欲しい時が必ずあると思ひますね。

安藤 實業團の出場した時に、こゝで山下君が欲しいなと心から思つたことがありましたよ。

宮崎 全くさうだつたね。

福山 田村さんのいつたやうに投手によつてバックも種々變化があるのですからうまくいきませんよ。また山下君だつて絶對的なものではありませんからね。

安藤 然し都市對抗といふことになつたら、少くとも一地信頼出來るからね。

福山 私はさういふ場合に、果して出場を求め得る氣になるかどうか疑問に思ひますね。勿論統率者の決斷にあるのですが、果して決斷出來るかうたがはしいものです。

井上 さうですね。殊に出場を求められた選手が、このピンチに俺は借り物だなんて思ふと責任の重大を痛感して、固くなつたりすると却て惡い結果になりますね。またそんな責任を負はされる本人にとつても氣の毒ですね。

立上 然し結果にかて惡い所があつたからつて、例をあげるのはよろしくないですね。

田村 その通りです。實際問題を論じてゐるのだが、まあさういふところもあつたといふわけです。

井上 どうです。今年都市對抗に行く前に試みに一ぺんオール大連を編成してやつて見たら。

福山 さつきもいふ通り、愈々となつて決斷力があるかどうか、若しそれでなかつたら連れて行つても無駄ですよ。

村田 違つたチームにピックアップされた人は非常に責任が重くなりますね。さういふ空氣の中では和やかにやれませんよ。

米野 都市對抗の前に何か強いチームが來ますか。

福山 それまでに六大學のどれかゞ來る筈ですが。

村田 早稲田が今年オール大連で一度やつたらどうです。

岩瀬 現在の六大學は餘り強くありませんからね。

田村 職業團のやうなチームだつたら金でかはれるのだから、給料のためどうでもなるが、アマチュアの時はさういきませんよ。

宮崎 ぢやあ、大連を背負つて立つてゐるのだと考へてやればいゝぢやあないですか。滿俱のためとか、實業のためとかいふのでなく、都市對抗に出るのは大連のためですからね。だから傭兵だとか、傭兵を使ふといふのではなく、何んとかして大連のために勝たうと力を合せればいゝんです。さうなれば心配するチームワークだつて吃度うまくいきますよ。

宮崎 それからオール大連にすると實滿戰に對する熱がうすくなるといふが、決してそんなことはありませんよ。都市對抗は都市對抗、實滿戰は實滿戰で別個のものです。却て人氣は沸くだらうと信じます。

米野 色々と有難う御座いました。夜も更けましたからこれで座談會を打切ります。（をはり）

實滿戰懸賞投票用紙

【問】 實滿何れが何回で勝つか？

【答】

住所

姓名

實滿戰懸賞募集

課題

一、何れが何回で勝つか？

二、リーディングヒッターは誰か？

投票規定

▼投票用紙……本紙刷込用紙に限る

▼投票締切日……六月十四日まで

▼投票場所……大連市東公園町滿洲日報社販賣部宛

▼當籤發表……六月三十日附本紙朝刊

賞品

第一課題

一等 金時計（一名）

二等 電氣スタンド（二名）

三等 滿日購讀券（五名）

第二課題

一等 冷藏庫（一名）

二等 硝子セット（二名）

三等 日傘（五名）

主催 滿洲日報社

ラヂオ 廿七日

新京百キロ（MTCY五六〇KC）（午後六時―一〇時迄）

六・〇〇 （東京）ニュース

六・二〇 政府公報（滿語）

六・三〇 （東京）講演「日本海海戰を回顧して」海軍大將小林躋造

七・〇〇 講演「時局と帝國海軍」駐滿海軍部海軍大佐龍崎留吉

七・三〇 （東京）ラヂオ・ドラマ「雄魂歸る」（出演）英太郎、伊志井寬、村田正雄、若井信男、山田巳之助、白河會崎、吉岡啓太郎、渡邊一郎、花和幸一、市川紅梅他大勢及擬音音樂部

八・〇五 （東京）吹奏樂一、海軍記念日の歌二、護國の軍神東鄉元帥三、接續曲「勇敢なる日本兵」海軍軍樂隊（指揮樂長）内藤清五

八・三〇 （東京）時報、ニュース

八・四五 ニュース、經濟市況、氣象通報、番組豫告（滿語）

九・〇〇 蒙古事情特別講座「外蒙事情」第六講（滿語）蒙政部行政科長瑞尼巳達瑚

九・三〇 （哈爾濱）滿劇「廣華山」（唱）王宝鋼、于大珍、朱富海（場面）陳慶元外五名

一〇・〇〇 （哈爾濱）北滿の時間（露語）

大連（JQAK 六五〇KC）

午前の部

六・〇〇 （新京）ラヂオ體操「建國體操」（滿語）

六・一五 ラヂオ體操（日語）入港船のお知らせ

六・三〇 初等滿洲語講座「テキスト第四十九課」滿鐵學務課秩父固太郎

七・〇〇 （奉天）初等日語講座、奉天南滿中學堂近藤壽助

午後の部

一・〇〇 （哈爾濱）滿洲戲劇（清唱）一、打漁殺家二、斬黃袍、（唱）于月明（胡琴）傅爺祥（南絃）王琴軒（鼓）陳慶元

五・〇〇 子供の時間＝大連埠頭碇泊艦艇「海」艦上より中繼＝軍歌一、海軍記念日の歌二、日本海々戰の歌三、記念艦三笠の歌四、軍艦マーチ、艦隊「海」乘組兵員

五・三〇 講演「觀相學の原理」中司哲巖

◆…海軍の夕…◆

六・三〇 新京百キロと同じ

七・〇〇 （東京）海の歌謠曲（一）イ、海國大日本ロ、海軍ぶし八、護れ太平洋ニ、名譽の信號旗ホ、輝る黑潮＝市丸、勝太郎、小野巡（合唱）ビクター管絃樂團（二）イ我等の海軍ロ、海の護り八、俺は水兵ニ、いきな水兵さん＝中野忠晴、小梅（三味線）三代吉喜美榮（合唱）コロムビア合唱團（伴奏）コロムビア・オーケストラ

七・三〇―八・三〇 新京百キロと同じ

八・三一 箏と尺八一、新日本音樂「春の海」（箏）小笠原松子（尺八）名和榮次郎二、琴古流本曲尺八「鶴の巣籠」（シテ）名和榮次郎（ワキ）本郷義俊

ラヂオ相談
散髪屋の電氣バリカンが邪魔をする

【問】 近所に散髪屋があつて時々電氣バリカンを使用するので、その都度烈しい雜音が混入して折角の放送が中斷されて了ひます。他所で試驗の結果機械には故障がなささうです、何とか適當な方法はないでせうか（伊勢町生）

【答】 二つの方法がある 電氣バリカンも新品ですと大して妨害はないのですが、古くなりますと妨害が烈しくなります。この場合電氣バリカンに雜音防止裝置を施す場合と受信機側にフキルターを挿入して雜音を除去する方法とありまして大體防止出來ます。この雜音取除に就いては直接放送局技術係に電話なり、書面にて御通知して頂きますと相當の方法を講じます（電々會社・係）

滿日敗退聯珠（第卅三局）

先番 三段 石田溪山
後手 六段 中村成文
（中村氏一人勝二人目）
説解 六段 川口直樹

滿勝の勇者、奥村君の猛防を見事退けて、堂々と凱歌をあげ得た中村成文六段、次は今賣り出しの新進氣鋭、其の溌剌たる技風に將來を望まれてゐる石田溪山三段の先手番に對す。石田君は現在聯珠本社の中堅として專ら實戰界にのみ雄飛し、新聞戰に、雜誌戰に、縱橫の手腕を奮ひつゝある青年珠客で、其の透徹した讀みの堅實さは他の追從を許さない、獨自の境地を開拓してゐるといふから、とてもつもなくガッチリした三段ではある。手合は勿論石田君の定先で、珠型を鑑定すると七間打と出た。中村六段、暫く考へてゐたが、やがて、力強くうなづくと、言葉は靜かに「長星をお願ひします」と云ふ。石田君は「それ來た」と豫期せるもののやうに手早く黑三珠を置く―白四珠は鑑定の行動であらう、黑五珠は（甲）の定石を敬遠されたもので、これも絶對の手だ。さア愈々戰ひは開始された。果して兩氏如何なる健闘振りを示すか？兎に角期待の出來る一局ではある

坂口 塚田 三番將棋（第一局）（の二）

平手
先 五段 坂口允彥
五段 塚田正夫

【圖は六二銀迄の局面】

△七八金 △四七銀 △六八玉 △六六歩 △五六銀 △六七銀 △五八金

▲七四歩 ▲四二玉 ▲七三銀 ▲八四銀 ▲七五歩 ▲五二金 ▲七六歩

△坂口氏 持駒 角
▲塚田氏

△同銀右 ▲六四歩
累計三十二手

講評 土居八段

▲塚田君の七三銀以下棒銀の型は一方に偏して味がない、六四歩以下五四へ銀を繰り出し、敵と同様に腰掛銀の戰法を用ひて、動靜を窺ふ方が優る。

△坂口君は敵の七五歩に對し同歩と指しては、銀を捌かれ八筋で交換さるゝ惧れあるを以て、六七銀と退却したのは、味ふ可き定跡手筋である。

▲して見ると塚田君は、敵が相手にして來れないと見ると面白くなかつた、寧ろ九五銀の方が善い。

觀戰記 七段 萩原淳

◇塚田氏常道を避け敵の意表に出る

塚田氏の七四歩は、六四歩、四七銀、六三銀、五六銀、五四銀と對抗する順では持久戰となり、而も先手得は必ずや残るものと見てそれを嫌つてであらう七四歩から七三銀と變化に出た。これは敵を見ての臨機應變の對策と見るべきであらう。

坂口氏の六六歩は、次に五六銀と出て、譜のやうに六七銀の含みと、敵の六四銀に備へるものである。

塚田氏の八四歩は、六四銀では五六銀、七五歩、六五歩で惡い。そこで八四銀と出て、次に七五歩と仕掛けたのであらう。

坂口氏の六七銀は、七五同歩では同銀、七六歩、八六歩、同歩、同銀、同銀、同飛となつて面白くないから、六七銀と引いて、敵の八四銀の働きを防いだのである。

塚田氏の七五歩は、九五銀では八八銀と引かれて、矢張りこの銀が捌けない。

日本棋院 大手合戰譜【四十局】

先番 三段 加藤三七一
先相先 二段 伊藤清子

制限時間各七時間（但し一分以內は切捨）

い ろ は に ほ へ と ち り ぬ る を わ か よ た れ そ つ

—【1】—

●一はノ四 ○二たノ三（4分） ●三にノ十七 ○四ほノ三

●五れノ十六 ○六はノ十五（2分） ●七にノ五 ○八はノ十（4分）

●九よノ十六（3分） ○一〇れノ六 ●一一たノ十一（1分） ○一二とノ十七（4分）

●一三ほノ十六 ○一四ぬノ十七 ●一五りノ三（4分）

所要時間累計 白二十九分 黑十七分
白遲刻のため十五分引

對局者の言葉

（黑） 一、三、五の秀策流を取つて堅實を期しました

（白） 八までは從來屢々打出された型ですが、此手で（へ十六）に大斜にカケるのも一法とされてゐますが—

（黑） 九で左上隅（れ五）にカカツて行くのも勿論成立します

（黑） 十一で直ちに十五にハサむのもありますし、十三にコスンで左邊と上邊とを見合ふのも一策でした

（白） その黑十三に對しては下邊に割打ちして矢張り上邊と左邊とを見合ふ積りでしたが—

（白） 十二、十四の趣向が疑問でした。上邊（ぬ三）にヒラく位のものでせう

（黑） 十五とハサむことになつては分り易いかと思つてゐました

戰の跡

加藤三段は信七段を兄とするだけに、棋才に惠まれた逸材、中年から斯道に志した者としては、一時異常の進步を見せたのであるが、近來少しく停頓の形なのはどうしたものか、切に再起を望んで止まぬ。伊藤二段は喜多五段門下の閨秀棋士、川田姓の昔―と云つても古くはないが―即ち初段當時は腕力を以て鳴らし、男棋士をして怖氣をふるはしたものである。伊藤氏に嫁してから、棋が大分おだやかになつたといふ評判だが、盤上の新引は又格別、對御良人關係と同一視は出來まい

◇黑一、三、五—全くの正統派を標榜しての着戰法は、恩師喜多五段の衣鉢を傳へるものか、清子夫人の棋は概して新様式を絵ぱぬ所に特長を有する◇白十まで常に見らるゝ布石、古來幾度繰り返された事であらうか◇黑十一の時代から對局心理が反映され、對局者の個性が次第に發揮されて來る、かく高くヒライたのは、次ぎの（れ八）のツメを（れ十一）の低きより一層有力ならしめんとするもので、少しく新味の盛られた着手で近代型の一つと數へられる◇白十二は對局者の言葉の如く上邊（ぬ三）のヒラキが先決問題、譜の黑十五までの手順を變へて考察するに、白十二で十四に打ち黑十三の時急いで白十二とツメた結果に等しい、この白十二のツメでは當然（ぬ三）を占むべきである、この白十二で（ぬ三）にヒライたとしても、黑は十三にコスム位のものだから、そこで白十四と割打ちして遲くはない、譜の白十二のハサミから打つたために、黑十三の時十四のヒカキが省けず、黑に十五とハサマれる手順になつては、黑の打ち易い棋勢と見られる

忘れられてゐた 面白い問題

懸賞 誰が一番頭を使ふか?

本廣告を全部御熟讀の上皆さんでお考へになつて左の五項のうちいづれにか御投票下さい。

- ◆一家の奥様(家庭の主婦)
- ◆學徒(大中小學生、科學者、研究家、教育家)
- ◆執務家(銀行會社商店員、實業家等)
- ◆棋客(圍碁將棋界の人)
- ◆藝術家(文士、畫家、音樂家、彫刻家、俳優)

賞金

- 一等 百圓 三名
- 二等 三十圓 十名
- 三等 十圓 三十名
- 四等 五圓 五十名
- 五等 一圓 五百名
- 等外 はれやか待針 殘り全部

規定

○上記五項目のうち之ぞと思ふ一項を回答用紙に御明記下さい。○回答用紙ははれやか空箱又は官製ハガキか廣告の掲載されたる新聞。新聞の回答は自分の信ずる項目へ○印をつけて下さい。○白い帯封を引きさいて投票所に入れ、空箱は二錢の切手を貼つて各開封のまゝお出し下さい。賞者多數の場合は抽籤にて各等入賞者を決定
○締切――來る六月末日
○宛先――東京銀座一ノ八三 日獨醫化學研究所懸賞係

私が實行してゐる 頭腦の調整法

東京高等工學校副校長 工學士・經濟學士・法學士・文學士・商學士 有元史郎先生

多數の青年學生を預り讀書、講義や執筆に日頃殆んど寸暇もない生活を繰返してゐる私は、頭腦の過勞から頭痛めまひに襲はれたり、不眠に苦しめられたりすることが稀らしくなかつたが、今まで別段氣にしたこともありませんでした。

◇

ところが最近『四十過ぎの頭痛は、腦溢血の前兆である場合が多い』といふ説を屢々聞かされるので反省して見るとなるほど私の知人で常に頭が重いとか、立ち暗みして困るとか云つて居た人々で、突然腦溢血で急死するのが尠くないのに思ひ到り、まことに慄然としたことであります。」

◇

以來頭の疲れに對して無關心で居られなくなつた私は色々と頭腦養生の道を講ずる心持になつたのですが、偶々此の時人から『はれやか』を奬められました。

服んでみると今迄試みた事のある頭痛藥と違つて胃腸に副作用がないらしく、頭の蕊から晴れぐ\として頗る爽快に感じられるので常習性の頭痛で惱んでゐる家内にも試みさせて見ましたらとても効いたと大喜びです。今では私も家内も持藥のやうに愛用し、周圍の人々へもせいぐ\奬めるやうにして居ります。

附記

頭を使ふ時間が多いか、身體を使ふ時間が多いか――ちよつと答へにまごつく質問のようでもありますが、せちからいそして忙がしい現代に生活して行く我々は誰しも身體より頭の方を遙かに激しく使つてゐるのであります。然るに私どもお互が身體が痩せたり病氣したりするとすぐ榮養食とか榮養劑とかを考へるのに、頭腦の養分が缺乏して頭痛めまひがしても、神經衰弱とヒステリーになつても、今まで一度として頭に榮養を與へる事を考へたためしがあるでせうか。

それどころか痛みや不快から早く逃れることばかりに氣を取られて熱さましや解熱劑の支配されてゐる一時的な頭痛齒痛どめを濫用し、胃腸障害を招くぐらゐが精々だつたのであります「はれやか」は斯うした點を非常に憂慮した日獨藥化學研究所が頭腦補強の立場から腦細胞素であると共に、頭を働かす原動力になる燐及びカルシウムを根幹に頭痛齒痛に早くきく數種の藥と健胃整腸劑を巧に集成する研究に成功して新製された頭の榮養藥であります。

本劑の特長は今までの頭痛藥の最大缺點たる胃腸障害の副作用がないばかりかあべこべに胃腸を丈夫にしながら腦神經へ充分養分を補ふので頭痛齒痛、ヒステリー神經衰弱をはじめ、各種の腦症狀へ病因的な好作用を以て働きかける關係上効が頗る永續する點です。特に胃腸や風邪に基く頭痛、めまひ、二日酔などには又とない適劑であります。

因みにはれやかの藥價は粉末錠劑とも
三十錢 五十錢 一円 二円 三円 五円
――全國各地藥店にあり。

露艦隊殲滅の刹那
スワロフ號の悲慘なる最期

海軍中將 佐藤鐵太郎

五月二十七日敵艦隊と遭つたときは第二艦隊は第一艦隊の後に居て第一艦隊が如何なる行動に出るかに就いてかなり氣に掛けたが、如何にも東郷艦隊が危險と評してもよい位に取舵を取つて敵艦隊に突入するやうな形で進むので何ともいへない愉快な感に打たれた、チッと見て居ると敵彈が三笠に集中するので大分心配した、そのうちに後續艦が追々と進んで殿艦が漸く針路を轉するやうになつたとき第二艦隊は如何にすべきかといふ問題になつた、これが常ならば第一艦隊の通跡を進むべきであらうと思ふが、その時距離の關係と第二艦隊の主砲の口徑の關係から見て一寸智慧を出して短く捷路を取るやうな形にして大きく舵を取つて迫つたのである

それからいよ／＼兩方の艦隊の砲擊が開始されて第二艦隊は第一艦隊の後に着いて激戰に入つた譯である、第一艦隊が先に立つて敵の艦隊と砲火を交へて居る、第二艦隊も同樣敵艦隊を猛擊して居る、その時最初に着いたのはオスラビヤで右舷に迫つて隊列を出たといふことである

私は當時ブリッヂにあつて眼鏡で見てゐたから大損害を受けて列を離れたといふことを明瞭に察することが出來たが、その次には轉じて敵の旗艦スワロフの行動を見てゐるとスワロフは急に取舵を取つたやうに見えたが、それは何か故障があつたやうな狀況で自分は心中非常に愉快に感じながら見て居た

尚も一生懸命に見て居ると山本英輔參謀が私の背後に來て「佐藤參謀（當時第二艦隊參謀中佐）信號を降ろして よろしうございますか」といふ、これは餘程妙なことで信號などを揚げさした覺えがないのに、さういふのである、不思議に思つて一寸見ると「八齊動」が揚つてゐる、これは第一艦隊が揚げたので、それに倣らつて揚げたのであらう、しかしその瞬間に於ては今この大切の場合に敵を遠ざかるなどは思ひも寄らぬことゝ思ふし、又第一艦隊に斯ういふ信號の揚つてゐるなどは夢にも思はぬので全く突嗟の際の分別として「いけない／＼」といつた、そこで山本參謀も旗を降さなかつたが、それが爲めに非常に困ることになつたのである、何故かといへば第一艦隊は左八點の齊動をやつてゐるのに、第二艦隊はそのまゝ進むので妙な形になるのである、それで非常に困つた、その時下村（延太郎）參謀が「このまゝで信號もしないでよろしうございますか、第一艦隊では第二艦隊も「八の齊動」をやると思ふでせう」と言ふので、それに對して自分は少し、自暴自棄であつたと見えて「第一艦隊なぞ構ふものか」といつたやうに記憶して居る、しかしそのまゝでは向ふで解らない、こつちは次の旗を揚げて前の旗を降さなければならない、そこで私は下村參謀に向ひ「運動旗を揚げればそのまゝでよいではないか、第一艦隊など構ふものか」といはざるを得なかつたのであるが事態は容易でなくなつたのである。

☆

その頃スワロフの行動は目を離して居たからはつきりしなかつたが、とにかく敵艦隊は幾らか亂れてはゐるが、未だちやんとしてゐるので、あれを逃がしては堪らないと思つたので甚だ僭越とは考へたが、長官に「面舵を取つて敵を抑へたらどうですか」と申上げますと、上村長官は何の猶豫もなく直に「よからう」と愉快に返事された、艦長は待つてゐましたとばかりに殆ど同時に面舵をやつたのである、さうして出雲を先として第二艦隊は右方に急轉して敵の先頭に迫つたので直ぐに二千六百米といふ近距離になつてしまつた

その時は彈丸がまことに愉快にあたり、敵の艦隊は非常に亂れてしまつた、敵艦スワロフはメインマストを半ば折られ、フォールマストも打折られ、ブリッヂの近邊は滅茶々々になり煙突の如きは甲板の近邊から吹飛ばされたと見えて甲板から煙を吐いてゐる、中甲板の砲門からは火と煙を吹くといふやうに實に慘澹たる有樣であつた。

斯くして第二艦隊は敵艦隊の先頭を壓しつゝ大圏を描いて旋回し更に逆轉して再び先頭に迫つたのであるが、この時敵艦隊の陣形は全く崩れ散り、ちりばらばらになつてしまつた、が誰いふとなく「敵の間に淺間がゐるぞ」と叫ぶ者がある、なるほど見ると淺間がゐるやうに見えるので、思はずも「淺間を離つてはいかぬ」と叫んだのであつたが、渡邊滿次郎といふ信號長が「あれは淺間ではありません、メインマストのヤードを御覧なさい」といふので、なるほどゝいつてまた覗つたが覗つてゐるうちに何かはつきり分らぬが露の如きものがある、怪しいから面舵を取らなければならぬといつて面舵を取つた、それはスワロフであつた、スワロフは前に火災を起してゐるので同艦をぐるつと廻つて來たときは我々は風上に居たから船艦が見えたのであるが、今日風下より近づいたのである、何せ一種異樣の瘴氣がかゝつたやうに見えたので、何となくおかしいといふので面舵をとつて近づいて見るとスワロフのバウが見えた、そこで大いに驚いて直に舵を取つたのであるが僅かに二千二三百の距離で再び猛射を加へて通過したのである、さうかうするうちに第一艦隊が來たので再び逆轉して今度は第二艦隊、第一艦隊といふ順次になつたのである、暫くすると右舷のバウに當つて相當の距離のところに二つの隊があつて砲火を交へてゐるのが見えた、此の時長官の考へでは敵と味方が闘つてゐるとすれば、第三戰隊か第四戰隊しかないから、あの間に分け入つて味方を掩護せねばならぬといふのでその中に入つた

そこで第一艦隊と別れてその方に進んだが、果して長官の豫想された如く第三、四戰隊であつた、第三戰隊が先に立つて來たが第四戰隊は大分危險なところに居つて高千穗の如きはずつと落伍して居つてまことに心配の狀態であつた、そこで第二艦隊は敵艦隊を壓迫して進んだのであるが高千穗も危險でない程度に遠ざかつたので第二艦隊も引返へさうとして居ると今度は右舷にスワロフが無殘な狀態で漂流して居たからその樣子を觀察しながら第一艦隊に合同する如く針路を取つたのである

接敵艦見之警報聯合艦隊欲直出動擊滅之本日天氣晴朗波高

ROHTO

ズマズマイタズマシ

正しき高級眼科藥

ロート目藥

井上獨逸博士處方
中尾藥學博士指導

眼は腦を支配する！

度の合はない眼鏡をかけたり、或は長時間過度に視力を用ひた時、頭痛や、倦怠を覺ゆることは誰もがよく經驗する事である。これは卽ち眼が直接腦の働きに關係し腦を支配するものであることを明かに立證してゐるのである

斯かる狀態になることを醫學上では眼精疲勞と云ひ、近代人、特に細い文字を讀み書きする學生や事務家、或は長時間裁縫に從事したり、職業的に微細な物體を視る人等に多くある近代的疾患の一つである。

眼精疲勞に罹つた場合は、初めは眼が疲れ易く物が朦朧と見え、頭痛や頭の重い感じを覺える程度であるが、これが更に進むと睡眠が不良となり、判斷力や記憶力の減退をさへ告げる樣になる。この樣な症狀を自覺した場合は決して放任することなく、その原因となるべきことを避けると同時に、**ロート目藥**の如き健眼の効果のある、正しい眼科藥を毎日數回點眼して眼に休養を與へ之を愛護することが肝要である。

結膜炎

結膜炎といふのは結膜、卽ち眼瞼の裏及び眼球を蔽うてゐる結膜に起る炎症で、俗にはやり目、やに目、はれ目、ち目等と呼ばれてゐます。原因は**K・W**氏菌等の黴菌、塵埃、强烈な光線などで、その症狀は輕い內は結膜の充血、眼脂の分泌、眼瞼の腫脹等ですがそれが重くなると、充血や腫れがひどく時には刺す樣な痛みがあり、又明るい光線に對してはまぶしくて眼があけられない樣になります。この結膜炎の療法としては毎朝洗面の時清水でよく眼を洗ひ、眼脂などの不潔なものを拭きとりその後で**ロート目藥**を一日、二三回點眼するのが有効です。**ロート目藥**はその殺菌作用で病原菌を殺し、消炎作用によつて炎症を散らし、收斂作用、鎭痛作用で充血や腫れを引かせ痛みを止める機能が綜合的に有効な働きをするのであります。

角膜炎

角膜炎は俗にほし目、つき目、かすみ目、たゞれ目など〻呼ばれ、眼球の黑い部分に起る眼病であります。原因は草の葉や木の枝で突いた場合、或は結膜炎が進んで續發する塲合が多く、黑目が濁つたり、白いほしが出來たりして眼が霞んで見え、或はひどく淚が出て眦に糜爛を起すことがあります。療法は大體結膜炎の項で述べた通りを實行すればよく、**ロート目藥**の優れた消炎作用は角膜の炎症に對して極めて有効に働きその收斂作用と相俟つて眼の曇りを去り糜爛を癒し、炎症の減退に從つて流淚は少くなり、鎭痛作用でその疼痛は押へられるのであります。

適應症

結膜炎、角膜炎、トラホーム、學校眼炎、眼瞼緣炎、疲勞眼、結膜充血、角膜翳、麥粒腫等

俗稱　のぼせ目、はやり目、たゞれ目、やに目、血目、かすみ目、ほし目、こり目、くもり目、雪目、めぼし、つき目、はれ目、かわき目等

小兒の眼病に就いて

二、三歲より七、八歲位までの幼兒に於てよく見受けることですが、朝起きた時眼瞼の周圍に眼脂が附着し、甚しきは眼脂の爲に眼が明けられないことがあり、又急に白眼の部分が淡赤く充血したりする塲合があります。之れは多くは急性の結膜炎に罹つてゐるのであります。
お子樣方の眼疾治療には特に小兒專用として處方調製された「小兒用ロート目藥」が有効で、シマズイタマズ安心して使用することが出來ます。

新案特許

ロート式自働點眼容器

使用法說明
下部のキャップ（ネジ蓋）をとり、瓶の上のゴムを輕く押せば目藥は一滴づ〻出ます、藥が少しも無駄にならず便利衞生、經濟を兼ねた最新式の點眼容器です。

生產合理化
藥價低廉

小瓶	大瓶	德用	小兒用
二十錢	三十錢	五十錢	二十錢

◉全國各藥店に販賣す

本舖　山田安民藥房
營業所　大阪市東區南久寶寺町
工場　大阪市東成區猪飼野町

異人剣法(95)

伊東行男

金子清之介畫

夜の鳥(その二)

小梅は酒をのむと、はじめて小梅らしく、生々としてくるのであつた。

瞳はつやゝかに濡れてくるし、肌はなめらかに冴えて、不思議に若やいでくるのである。ほんのりさくら色に染まつた眼もとで、ぢいつと見つめられると、どんな男の魂も瞳の奥に吸ひ込まれるやうな魅力があつた。

「親分、さアこれを飲んで下さい」

とのみかけの盃洗をつきつけられて、

「駄目だ、駄目だよ、俺アもう……」

「何だねえ、親分が、親分ともあらうおひとがさ、こんな旅藝者に太刀打ち出來ないなんて、少うしだらしがなさすぎるよ」

岩太郎も酒くさい息を吐き乍ら

「手前にやア兜を脱ぐ」

「もうその手にやア乗らないよ、吞める腕に吞めないぶつて、ひとを醉はせて面白がるなんてなア、男らしくないぢやアないか」

「そ、それを云ふなつ」

「おほゝゝ」

と小梅はさも可笑しさうに、

「さア親分、そんな弱音を吐かないで、妾の口をつけた酒、義理にも一口吞んでおくれな」

「うむ」

としぶ／＼口をつけて、

「手前ももういい加減にしてよ。いろ／＼話があると云つたが、またへべれけにならないうちに、それを聞いておかうぢやアねえか」

「あい、さア何からどう聞き出さうか」

小梅は首を傾けて、

「さアてね」

と考へ込んだ。

口をつぐんで、眼は笑つてゐるのである。

いつか日の暮れるのが早くなり秋の近さを思はせた。

色町の小梅の家は、久しぶりで宵から大浦の岩太郎を迎へて、いつまでも賑やかだつた。

あれほど男嫌ひで通つた小梅、たゞもう巳之助だけを慕つてゐた小梅が、あの晩のヤケ酒にもりつぶされてからといふものは、まるで人が變つてしまつたやうだつた。

默で、默でたまらなかつた岩太郎に打つて、變つて、こつちから、甘つたるくからみついてゆくのである。

手込同様の目にあひながら、その男のものになると、やつぱり女には、女らしい愛情が生れるのかもしれない。

岩太郎にとつてみると、これは意外なもてなし方だつた。

小梅の瞳をぢいつと見つめて、

「おいつ」

と岩太郎は皮肉な微笑を泛べながら、

「手前が俺に訊きてえといふのはあの巳之助の事ぢやアねえのか」

「だつたら……」

「ちつとばかり可哀想な氣がするだけよ」

「可哀想とは妾がかえ」

「きまつてるぢやアねえか」

「大違ひ……」

と小梅は笑つて、手をふつて、

「妾がお前に訊きたいのは、そのことだけぢやアないんですよ、あの巳之さんの家にゐた綺麗な女のひとの事……」

「なに」

………

そうした小梅と岩太郎の話を、窓のそとに佇んで、ぢつと、立聞きしてゐる男があつた。

滿洲日報 夕刊

ヴエルサイユ條約清算の國際大會議提唱せん
歐洲の不安と英國の焦慮

【ロンドン二十四日發國通】ヒットラーの宣言に接し英政府はフイリップス大使を通じドイツ政府に宣言の眞意の報告を接受すると共に愈々第二段の工作に乘り出し全歐洲國際會議を提唱し、この機に乘じロンドン宣言に掲げられた歐洲時局の全般的處理を一氣に實現する意とみられる、右會議は佛伊兩國以下の舊聯合各國政府は勿論獨、墺、洪三國その他の戰敗諸國をも網羅してヴエルサイユ講和會議以來の一大會議となるものと豫想されるが會議に於ては既に清算過程に入つたヴエルサイユ條約につき全般的再檢討が加へられ特にドイツ政府の再軍備により全く空文に歸した同條約第五編に代る新な國際軍備制限案並に空軍競爭の新情勢に對處する空軍協約案等が協議されることとなろう併し新國際會議の提唱はマック首相の掛冠以後ボールドウイン新内閣成立後と豫想され會議地には國際平和運動の發祥地ヘーグがあげられてゐる

渡滿第一日の林陸相
對滿責任重大 援助と指導を要望
大連市官民合同歡迎會に於ける 林陸相の挨拶

林陸相を迎ふる大連市の官民合同歡迎會は二十五日午後六時四十分遼東ホテル大食堂において開催された、主賓側として林陸相を始め永田軍務局長、土肥原少將、岩佐憲兵司令官、大野關東局總長原田參謀以下全隨員列席、主催者側から小川市長、米内山民政署長事務取扱を始め林、八田滿鐵正副總裁山内電々總裁、岩井少將、大内市會議長等約三百名在連名士を網羅する盛觀を呈した開會先づ小川市長は發起人を代表して

昨年在滿行政機構改革の際には大連市民は國策の上から軍部並に政府に對し色々の意見を披瀝しましたが、今や在滿機構も落ち着き新任の南軍司令官の人格手腕に全幅の信賴を寄せ軍民一致和合して國策の遂行に當つてをります、昨は一抹の不安がありましたが、今やこれを解消して上下一致融和の實が着々として擧がりつゝあるのは同慶に堪へませぬ、將來の問題は山積してをりますが、對滿事務局並に軍部大臣としての林大將の御視察に我々は大きな期待を持つものであります、その結果大きな收穫を得られ中央政府の國策は生氣を帶び穩健圓滿裡に國策が遂行せられると思ふのであります、願はくば閣下が多くのお土産を持ち歸られん事を國家のためにお願ひする次第であります

と述べたに對し林陸相は起つて

私より御挨拶申し上げます、本夕は當地で活動される各方面の名士の方々が斯くも多數集まられ私達のためにかくも盛大な歡迎會を催されたことは洵に光榮の至りであり厚く御禮を申し上げる次第であります、私は今より六年前に滿洲を旅行したのでありますが、今この玄關に立つたばかりで當地の發展を痛感するのであります、これを六年前に比較して發展ぶりの偉大なのに驚いた次第であります、今市長さんのお話の通り昨年以來種々の問題がありましたが、今日あらゆる方面で軍民一體、國策の進展に努力さるゝを見てこの上なく愉快に感じ將來の洋々たる發展を期待してゐる次第であります、この點皆樣の御努力に對し感謝致します、私は市長さんのお話の通り滿洲國の諸問題に就いては非常な重任を背負つてゐるのであります、私の双肩に懸つてゐる滿洲國の諸問題は大きく且つ責任は重大でありますが洵に微力にして職責を全うすることが出來ないのを憂ふる次第であります、今度の渡滿も私の職務の一端を果したいためで今後對滿問題ではどうか皆樣の御援助と御指導を乞ふ次第であります、滯滿の日數は短いので一々お話を伺へませんが、今後私の職責を達せしめる意味で御援助をお願ひする次第であります、更に今夜の御歡迎に對し茲に御禮を申し上げます

と頗る打解けた挨拶をなし、餘興に主客臚を蕩して同八時二十五分林陸相萬歲を三唱して散會した

加能越郷友會の歡迎

在大連加能越郷友會では同郷の林陸相來連を機として二十五日午後三時半から滿鐵社員倶樂部二階に於いて歡迎茶會を開いた、高柳中將、寶性大連新聞社長その他六十餘名の會員參集し寶性氏の挨拶に對し陸相の謝辭あり四時散會した

七權威の來滿

【新京電話】來る三十一日開かれる日滿文化評議員會並に滿洲國立博物館の開館式に出席のため日本から其の道の權威岡部子爵、關野貞、原田淑人、白鳥庫吉、伊東忠太、羽田亨、濱田耕作の諸博士が來滿するが之等の諸氏は其の後別個に專門々々に從つて各地の視察をなす豫定である

陸相歡迎の盛宴

（上）陸相の挨拶（下）會場の全景

大連の發展に期待を持つ
―第一の日程を了へて― 林陸相感想を述ぶ

林陸相は二十五日豫定の日程通り極めて多忙なる一日を過して同夜ヤマトホテルにおいて往訪の記者に左の如く語つた

本日は忠靈塔及び大連神社に參拜したが兩方とも非常に立派に造られて居り且つ崇敬の氣分の横溢してをることは時節柄洵に悅ばしく思つた、滿鐵、電々會社を始め大連全市が活氣に滿ち就中埠頭の規模頗る廣大而も殷盛を極めてをる有樣は流石に大滿洲の表玄關たる資格ありと感じた、また事變後設立せられた滿洲石油、滿洲化學の兩會社が黑煙を吐いてゐるのを見たのは愉快であつた、大連の發展振りを眺め滿洲の關門としてその全滿洲の經濟發展に及ぼす影響の甚大なるものあるを見て特に在住邦人各位が我國の對滿政策遂行に充分寄與せられんことを切望する次第である

侍從武官歸京

林陸相の來滿に際し畏くも滿洲國皇帝陛下の差遣された侍從武官陸軍騎兵上校連組氏は聖旨傳達の大任を果し二十五日午後八時發列車にて歸京した

滿洲派遣隊交代
杉原部隊は歸還して 外山部隊が來滿

【東京二十五日發國通】閑院參謀總長宮殿下には二十五日午後一時三十分宮中に御參内、天皇陛下に拜謁滿洲派遣交代部隊に就いて上奏、御裁可を仰がせられた仍つて交代部隊は左の如く陸軍省から發表された

陸軍省公表　本年三月滿洲より歸還せしめられたる杉原部隊の交代として今回外山部隊を派遣せしむる件二十五日上奏御裁可の上發令せられたり

米國大海軍建設
豫算修正可決
總額四億五千八百萬弗

【東京特電二十五日發】ワシントン來電によれば二十四日午後のアメリカ上院は下院より廻附された海軍豫算案を總額修正して四億五千八百萬ドルといふ尨大な豫算案を五十四票對十八票で可決し世界無敵海軍實現の理想に一歩を踏出した、右豫算案は二十四隻の新艦建造、一萬一千名の兵員增加及び二百七十八臺の海軍飛行機建造計畫を含むものである、下院廻付案と異るため兩院協議會に附託されるが多分上院修正案が通過するであらうと見られる、尚は右豫算案は昨年より一億四千七百萬ドルの增加である

ハルハ事件の善後 更に外交代表交換
外蒙代表の來着時間も判明し
滿洲里會議愈よ開幕

【滿洲里特電二十五日發】滿洲國代表部發表＝その後の通報によれば外蒙代表は二十五日庫倫發ウエルフネ通過ザ鐵により滿洲里に到着の由若し外蒙代表がもつとも迅速なる方法即ち庫倫、チタを飛行機で來れば二十六日の國際列車で到着する筈であるが、委員の都合天候等により確實な時間は不明なるもこれで近く會議が實現することは確實となつた、判明した蒙側の氏名は

ドクソロン、ジヨロムト、チミトロドルヂ、ヂツプブン、ロフスンデンデフ

なほ滿洲國側は廿五日午後二時より會議の提案事項につき協議した

【新京二十五日發國通】外交部當局は滿洲里會議にて外蒙側と友好的態度を以て哈爾哈事件前後處置問題を解決せんとしてゐるが、若し同會議にて外蒙側が滿洲國側の主張を尊重して會議が順調に進捗すればこの際隣邦外蒙共和國と進んで親善關係を結ぶため滿洲國並びに外蒙兩政府の外交代表の交換即ち外蒙首都庫倫に滿洲國代表機關の設置といふ外交上の當然の成果を招來すべく此點からも今回の滿洲里會議の成行は一般に重要視されてゐる

善隣外交確立
滿洲國側の方針

【新京二十五日發國通】哈爾哈事件の善後措置に關する滿洲里會議は愈々二十五日より滿洲里で開催されるが、右交渉の中心はボイルノール附近三角洲の國境問題、外蒙兵の不法射擊、殊に滿蒙國境における紛爭の處置方法並に交通問題で、滿洲國側では歷史的文獻に照らし又友邦ソ聯邦作成の地圖によつても三角洲は當然滿洲國領であること疑ひの餘地なく、外蒙兵の侵入は明かに國境侵犯の不法行爲にして責任者の處罰、陳謝、將來の保障を滿洲國側より嚴重通告する筈であるが、右交渉においては專ら同事件を局地的に解決する方針である、併し滿洲國は終始善隣外交の進展等善隣外交の確立といふ建國の大精神より兩國關係の親善融和を圖らんとするもので會議の成果は極めて重要視されてゐる

孫永勤匪潰滅し 匪首、參謀長戰死
討伐軍の殊勲
關東軍司令部發表

【新京電話】熱河省擾亂の主魁孫永勤匪も我○○○○○部隊の討伐に遭つて潰滅し此處熱河省境に出沒兇暴を極めた匪首孫永勤も官參謀長と共に遂に停戰地區内遵化東北方十五粁の毛山溝高地に於いて最期を遂げたが孫匪團の蠢動から我討伐隊の猛襲に遭ひ潰滅するに至つたまでの情況の詳報は左の如く二十五日午後五時關東軍に到達した

北支官憲動かず 遂に討伐に着手す
豪雨を衝いて行動開始

【關東軍司令部發表】○○本部隊は五月初旬以來山田部隊を以て匪賊掃蕩を極めた興隆縣方面の討伐實施中であつたが由來該方面には救國義勇を自稱する孫永勤一派が天險を利し更に關外よりの支援を受けて常に長城内外に出入し前駐屯の杉原部隊の討伐にも巧みにその鋭鋒を避けて勢力を增大し今次の討伐當初にはその數約一千と稱せられた、茲において山田部隊長は地形と匪賊の特性に鑑み、小部隊を廣大なる地域に分散配置し匪團を包圍して逐次その包圍圈を縮小し討伐を行ふ策に出で匪賊に

大打擊 を與へ討伐開始後三週間に遺棄死體のみでも二百餘に上る損害を與へたが孫匪は嚴重なる包圍網を潜り長城線外脫出を企て連絡して長城を越え十八、九日頃には約四百名遵化附近に集結した、これは孫匪の慣用手段で追詰められゝば北支に逃げ又勢力を盛返しては熱河に歸るもので今回が三度目の逃避であつた、○○部隊長は苟くも滿洲國の治安を害する者はその所在の如何に關せず天地の間に存在を許さゞる皇軍の大方針に基き斷乎兵を北支に進むるに決し山田部隊を

喜峰口 南方撒河橋並に下營附近に集結し討伐の準備を命じた、元來遵化附近は日支停戰協定に依り日本軍は自由に行動して差支へないのであるが作戰行動には愼重な態度をとり成るべく支那側をしてこれを討伐せしむべくその實行を遵化縣長に要求したが、縣長は言を左右にして討伐せぬのみならず孫匪援助の事實さへ明白となつたので、山田部隊長も遂に縣長に對し二十四時間以内に討伐せざるにおいては、日本軍は任意の行動をとる旨を宣言したが、縣長は孫匪の約二倍の保安隊及び民團を有しながら既に二日間に至るも討伐を開始しないので山田部隊は直に同夜折柄の豪雨を衝いて行動を起し包圍の配置についた

輝やく日章旗 毛山溝に飜へる
尊き犧牲！戰死傷十五名

戰鬪は二十四日拂曉、我が隊の近接を知つて脫出せんとした孫匪の一部李連貴の一隊が石井部隊の率ゐる百五十の正面に出現し、これを五十米の近距離に接近せしめ一時に銃火を開いて一擧に潰滅したるに始まり、つゞいて毛山溝高地に對する砲擊となつた、○○部隊長は自ら軍用機に搭して午前七時撒河橋を出發戰場の上空を低空飛行し河北作戰當時毛山溝地に構築せる塹壕に據る匪團を認め、わが飛行機が近づくや日章旗を揚げてその位置を示すわが部隊の一部を見て

完全に 匪團を包圍せるを確認し、通信筒を投下して、山田部隊長に對し

安心せよ、われは完全に敵を包圍せり

との通知をなした、兵團長自ら敵狀を偵察して第一線部隊に情報を與へたのは從來の戰史に聞かない目ざましい光景であつた第一線部隊は本部隊長の激勵により勇躍前進し逐次包圍圈を縮小して、午後零時十五分敵を殲滅し日章旗は

毛山溝 高地最高部に飜翻とひるがへつた、戰場掃除の結果匪賊の遺棄死體三百餘、鹵獲せる拳銃、小銃合せて二百五十餘、かくして四百名と目された匪團はわづか半日の戰鬪に文字通り殲滅され孫永勤並びに參謀長官有元の死體も最後の復郭陣地から收容された、我軍の損害は、將校一、下士官一、兵四の戰死者と下士官以下九名の重輕傷者を出したが熱河治安肅清の礎石としてまことに尊い犧牲であつた

洪財政部次長

【安東電話】約一月に亙つて内地視察中であつた財政部次長洪維國氏は夫人同伴、姜警務總署長等一行四名と共に二十五日午前十一時過安東歸任した

新任調査官參集
執務方針に就て協議

【東京二十五日發國通】調査局調査官十五名の顔觸れも決定したので二十五日午前十一時より首相官邸に吉田長官以下新任全調査官參集し岡田會長より一場の挨拶があり今後の方針を協議したが調査局參與は三十名中各省事務次官及對滿事務局次長が參加し殘る十七名は

上海金融界動搖
廿五日朝來落つく

【上海二十五日發國通】上海美豐、明華兩銀行が二十四日突然休業金融界に相當大きな衝動を與へたがその原因が孰れも銀恐慌に直接關係なく前者は普益地產公司に對する四千萬弗貸出しの擔保たる土地價格が激落して資金難に陷つた爲めであり後者の場合は爲替投機の失敗が主因を爲してゐることが明瞭となり且つ美豐は社長から債權者に對する債務の完全履行を聲明し明華休業に對しては財政部より債權者擁護の談話を發表し一時動搖せる金融界も二十五朝來漸く落ついて來た

轉口税廢止實施
一割の輸入税附加税を徵收

【南京二十五日發國通】二十四日の立法院會議は財政部提案の部分的輸出入稅改訂案、轉口稅免除案及び海關附加稅徵收案を通過し之が交付實施を求めることゝなつた最も注目すべき輸入稅の改訂品目並びに稅率については未だ探知し得ぬが、附加稅徵收案につき財政部方面の消息を綜合するに輸入新稅率の實施は尚相當時日の研究の後として差當り轉口稅廢止實施の七月一日を以て輸入稅附加稅を實施するもの如く同附加稅は一切の輸入稅に一律に一割を附加徵收するものであると

對支諸問題協議
首相、有吉大使招待

【東京二十五日發國通】有吉明氏は初代駐支大使として來る六月四日東京驛發、同十日神戸出帆の上海丸で赴任の途に就くことゝなつたが、岡田首相は二十五日午前十一時半官邸に同氏を招き午餐を共にして今後のわが對支方針ならびに現下の問題となつてゐる諸問題についても重要協議を遂げた

有吉駐支大使 園公訪問

【東京二十五日發國通】有吉駐支大使は二十六日午前興津に西園寺公を訪問支那事情の說明を行ふと

内調局奏任調査官

【東京二十五日發國通】内閣調査局勅任及奏任調査官十九名は二十五日左の如く正式發令をみた

内務書記官　中村敬之進
同　事務官　田中重之
大藏事務官　松隈秀雄
資源局事務官　内田源兵衞
農林事務官　和田博雄
遞信局事務官　奧村喜和男
商工事務官　橋井眞
東北振興事務局書記官　桑原幹根

任内閣調査局調査官（各通）

陸軍步兵大佐　鈴木貞一
海軍大佐　阿部嘉輔

兼任内閣調査局調査官（各通）

貴衆兩院議員、產業界學界無產勞働方面の知識經驗者等から洽く人材を集める方針である

大藏關係の諮問事項

【東京二十五日發國通】大藏省は勅任、奏任調査官として山田豫算課長、松隈經理課長を調査局に送る事に決定、今後兩調査官と本省との關係を密接にし高橋藏相年來の希望たる國防財政並に產業の調和實現に邁進せんと期してゐるが大藏關係の諮問事項として豫想されるものは左の如くである

地方財政調整、財政整[illegible]、中央地方を通じた稅制整理、關稅政策庶民金融、負債整理、日滿金融統制、公債政策

なほ爲替、幣制、通貨政策に關しては問題の性質上特に內閣審議會と關聯せしめざる方針である

地方長官異動

【東京二十五日發國通】二十五日左の如く發令された

富山縣知事　齋藤樹
任埼玉縣知事

大阪府書記官　土岐銀次郎
任富山縣知事

凶作地方に又も冷害か

【仙臺二十五日發國通】凶作地方の今年の天氣は極めて不良で昨年に似て居り、東北農民は又凶作かと戰々兢々としてゐる、水產試驗所、測候所等の天候觀測も悲觀的で親潮と黑潮との流れ振りが去年に酷似してゐるので、冷害必至が豫想される由で憂慮されてゐる

人事

▲邢士廉中將（滿洲國中央訓練所長）敎官、生徒百八十五名引率二十五日午後十時大連驛發列車にて赴綏
▲持永淺治氏（朝鮮憲兵司令官）二十五日午前十時十五分上三峰より龍井村着二十六日延吉に向ふ豫定

大觀小觀

ヒトラーの宣言は現狀維持派の諸國にとつては爆彈であるに違ひない▲それを受とつて平和工作に轉用しやうとする英國政府のやり方は干番に一番のかね合ひである▲英國の見るところではヴエルサイユ條約は滿期に到達してゐるからドイツに破棄されて軍事條項も別に新なものを作らうといふ▲これはドイツの望むところに近いものであるが此の條約を鐵壁とするフランスの到底忍ぶところではない▲兎に角歐洲は不安に戰き平和に喘いでゐる▲我等の大臣を歡迎する在滿邦人の熱意を見よ▲而して世界無敵に見える海軍が太平洋の彼方にある▲豫算面と藏相だけでは又鬱慰當局の警衞のものものし過ぎるをも見よ▲熱河擾亂の匪首一掃さる▲滿洲國のためのみならず又支那のためにも悅ぶべきところである

愛戀十字街 (80)
淺原六[illegible]　橋本八百二繪

第一の執念（六）

その晩、森は、二人への詫び物をもつて訪ねてきたが、街子の姿はなかなかみえなかつた。青柳の電話をかけた時、留守で、然しすぐ歸ると云ふ女中の言葉なので、言傳をたのんで置いたのだつた。

食卓には紅と白のカアネエションとアスパラガスをかざり、明子は森と街子のたつた二人つきりのお客さんを中心に、心づくしの御馳走を、眞白なテエブル・クロースの上にならべた。薄化粧の明子は、心もち上氣して、いつもよりさらにうゐうゐしく、美しかつた。

明子は、先日、街子と江戸川のほとりで、輕蔑されたまゝに別れたことが、[illegible]

[illegible]もらひたかつた。そして街子のもつあかるい性質で、青柳と自分の將來を祝福してもらひたい氣がしたのである。青柳について、何か暗示的な警告をあたへようとした街子を感じてゐるだけ、その警告のすべてが解けた街子の笑顏を、明子は、この部屋にみたかつたのである。

「街子さんはいらつしやらないかしら」

「六時半だね。若しかすると來ないかも知れないよ」

森と二人、窓ぎはの椅子で話をしてゐた青柳は、エプロン姿の明子を嬉しいものにながめた。

「あの女は氣まぐれだからね」

青柳は、たとへ街子が電話を知つても來ないかも知れないと想つてゐた。

「あたし、折角だから街子さんを御呼びしたいのよ。電話をかけてこやうかしら」

「まア、やめたがいゝね。御馳走が冷えたんぢや森君にもすまないから、始めることにしようぢやないか」

晴々しい氣持に、何か影のさしたやうなものを味つたが、もう冷えて行く御馳走をみると、待つてゐるわけにも行かないので、森を中心に、青柳の云ふ始めの結婚披露晩餐會がひらかれた。

森がつとめてあかるく、陽氣さうな話をしてくれたので、笑顏のなかで、この晩餐會は終始することが出來た。

森が十時ごろに歸つて、二人つ[illegible]

[illegible]行つて腰かけた。

「森さんは、とてもいゝ人なのね」

「あゝ、あの男は、いゝね。紳士で、そして人間の秘密までよく知つてゐる男だ」

「秘密つて、どう云ふことを仰言るの？」

「あるデリケートな人間の心理についてさ、一口には云へないけれど」

「少しは解るわ。人の心持にたいして、デリケートな人なのね。あなたが、あゝ云ふ人を御友達にしてゐて下さることが嬉しいと想ふわ」

「君の友達の街子さんより少くともいゝね」

「街子さんは到頭來て下さらなかつた」

「僕は始めから來ないと想つたよ。女心の悲觀なんだ。あれは」

「ね。そんなこと仰言らないで、あたし達幸福でしよ。だからほかの人も幸福にしてあげたいのよ」

青柳は默つて、明子をつよく擁擁した。

翌日、午後の汽車で熱海にたつとき、偶然東京驛の待合室には、英子がたつてゐた。二人はそのはげしい視線をあびながら、英子の姿には氣がつかなかつた。

海國日本を宣揚

あす輝かしき海軍記念日に 百三十名の講演者を總動員 …軍民協力を說く

【東京特電二十五日發】二十七日の日本海々戰記念日には新裝なつた芝水交社にて畏くも天皇陛下の行幸を仰ぎ奉り盛大な記念祝賀の式典を擧げられるが、海軍では本年は日露戰役三十周年、日滿戰役四十周年に當り特に意義深き年であるため、記念日當日およびその前後にかけ海軍省より三十名、海軍大學より五十名、在鄕軍人會より五十名の講演者を總動員し、全國二百十五ヶ所の公私團體各學校に派遣し、軍民一致協力の秋を說き記念日の意義を宣揚することに決定した

帝都の催し

【東京特電二十五日發】日本海々戰記念日當日の帝都祝賀催し左の通り

△二十六日　伏見軍令部總長宮殿下の台臨を仰ぎ、軍人會館で日露の海戰に出征した從軍者大會を開催、從軍者約三千名出席慰靈祭を行ふ

△二十七日　横須賀少年航空兵六百名は午前十時新橋驛着、戰車機關銃演射隊と共に行進、銀座日本橋を經て靖國神社參拜、宮城を遙拜後歸還する、銀座行進の際海軍機百機が空中行進を行ふ、同夜六時から日比谷公會堂に海軍大講演會を開催、齋藤實安保淸種兩大將が大海戰の懷古談を行ふ

△二十八日　午前十時より隅田川でモーターボート大會を擧行、同夜六時軍人會館で高橋聯合艦隊司令長官の講演がある

大連港の防空 施設完備の急務

林陸相の綿密な視察から 重要議題に上らん

二十五日來連した林陸相は午前十時二十分から約五十分にわたり極めて綿密に大連埠頭を視察し、吉富鐵道事務所長、杉本埠頭長等から港灣諸設備に關する說明を聽取したが、その結果陸相は滿洲の表玄關たる大連埠頭が萬一空襲を被る場合に處する設備において相當缺陷があることを感じたものの如くである、卽ち平時に於て日滿兩國の連絡上最も重要な關門であり、一朝有事の際は帝國の作戰上至大の關係を有する立場にある**大連港の防空施設を完備するの必要を痛感した**模樣であつて此の意見は近く何等かの形に於いて重要議題となるものと察せられる

遊客の酒宴の座へ ポタリ・ドス黑い血

四ケ月前に失踪した入舟樓主の縊死體 天井裏から現はる

獵奇・遊女屋怪談

二十五日午後一時半ごろ市內平和街六三番地貸座敷安樂こと奧畑傳藏方二階十二疊敷の部屋で四、五人の遊客が酒宴を張つてゐる最中の出來事……ドス黑く煤けた天井裏からポタリ氣味惡い音を立てゝ疊の上に落ちた赤い一滴！飮んでゐた客の一人が「オヤ！」と思つて指先で撫でゝ見ると、まさしくベツトリとした血糊、しかも

異樣な 臭氣が鼻を衝くのに驚き〝血だ、血だ、天井裏から血が落ちて來るぞ〟と大きく叫ぶ、その聲に冷水を背筋に浴びたやうな不氣味さに慄へつゝ一同默つて眞ッ蒼な顏を無言で見合せた怨ち所轄小崗子署から駈付けた鑑識刑事の一隊が血の滴る天井裏に這ひ上つて見ると、そこには去る二月八日失踪、今日まで行方不明を傳へられてゐる前經營者入舟樓の主人菅野長兵衞（四五）が縊死してゐるのを發見天井裏から滴る血は長兵衞の足先から流れる腐敗汁と判明した――けれど前樓主の失踪につぐ自殺？に結びつけて、同家の抱妓力彌、勝太郞兩名の家出事件に

獵奇の 糸がたぐられ、初夏の宵にふさはしい紅燈ゆらぐ遊女屋に持ち上つた怪談は更に大きい怪奇的な謎の波紋を描かんとしてゐる

長兵衞の失踪は七日午後一時ごろで、力彌が在宅中の時刻であり、從つて力彌は樓主の自殺？を知つて翌日朋輩の勝太郞を誘つて家出したと思はれる點である

萬一力彌が樓主の自殺を知つて家出したとすれば、彼女の失踪こそ謎の失踪であり、小崗子署では假に力彌、勝太郞兩名の行方に搜査の眼を注いでゐる、當局の見るところでは力彌と長兵衞は情死を相談し、男は先に死を計つたが女は氣後れして遂に情死を思ひ止まり、悲劇の家を後に行方を晦ましたものではないかと見られてゐる

安樂主人語る

天井裏から怪死體の現れた平和街

怪奇の扉閉して 逃げた抱へ妓

果して自殺か、心中の片割れか 獵奇の渦は卷く

怪談の家、市內小崗子管內平和街六三番地貸座敷（安樂の前身）入舟樓こと菅野長兵衞（四五）は去る二月八日午後突然行方不明となり續來謎の失踪事件として知人及び所轄小崗子署で搜査中であつたが

奇怪な のはその翌日同家の抱妓力彌こと浦野マツコ（二七）勝太郞こと吉田照子（二七）の兩名が家出し今日まで行方を絕つて終つてゐることである

妻に死別し獨身の淋しさに樓主長兵衞と抱妓力彌との關係はいつか人目を避ける仲となつてゐたので、三人の失踪は期せずして謀し合せての家出であらうと警察も知人も深く三人の行方を追跡せず、その後入舟樓は慣權者である家主の出雲樓主人奧畑傳藏氏の手に移り安樂と變つた、かくして怪談の家は無事四ケ月を過ぎたが、二十五日天井裏から滴る血潮によつて端しなくも抱妓二人と家出した如く思はれてゐた前入舟樓主の死體が天井裏から發見されたのだから、關係者一同の驚きは一方ならぬものがあつた

ここに前樓主の自殺？を繞つて獵奇の渦を波打たせるものは家出した力彌の行動である、卽ち前樓主の縊死した天井裏は二階十二疊の鑑識部屋の上であるが、同所の天井板は讀く釘付けにされ容易には外す事が出來ぬところから、隣室の力彌の部屋六疊の間の天井格子をはがし、ここから

天井裏 へ這ひ上つた形

假面のスパイ團 嚴重に取締れ

反滿抗日に伸ばす支那の魔手に 岩佐部長の訓令飛ぶ

【新京電話】最近の支那は親日轉向說の裏面にあつて巧に反滿抗日分子の養成に努め、その運動方法は更に實質的になり、識者を寒心せしめてゐることは旣に天津における親日滿系要人の暗殺事件に依りその

假面が 暴露され、當面の責任者たる于學忠に對しわが方は極めて嚴重なる抗議を提出した處であるが、支那側では一方滿洲における治安の攪亂、反滿抗日分子の養成に當るとともに天津の藍衣社並に東北除奸突擊隊、南京政府養成の青年スパイ等を指揮者として入滿せしめ、或は各地の中國銀行支店を連絡機關として武器運動資金の供給所に當て、或は哈爾濱、間島等に辦事處を設け、日滿官吏の買收或は秘密情報の蒐集に當り、殊に滿洲出身の青年を以て組織された青年スパイ團、之に東北の便衣軍とも稱すべき東北除奸突擊隊員を配した一團が重要使命を帶びて入滿し、既に着々と行動を開始しつゝある事は明かにされて居る所である、右の事實に鑑み滿洲における治安維持の見地より關東局岩佐警務部長は管下各署に宛て嚴重取締方を訓示すると共に、滿洲國側警備機關と連絡し此等不逞分子の徹底的彈壓をなす事となつた

何で死んだか 遺書もない

義母・淚の中に語る

六八貸座敷業安樂の經營者奧畑傳藏氏を本店に當る同町出雲樓に訪ねると

私は入舟樓の家主でして昨年九月頃菅野さんが商賣をしたいと云つて來たのであの店を三千五百圓で賣りましたが、どうも店が順調に行かず抱へ妓には二人も死なれる、たつた一人の妓で一ト月の間店をやつと張つて行くと云つた苦しい狀態にあつたらしいです、私が五千圓ほど融通して上げて店もどうやら持ち直しかけた所へ細君と子供に先立たれすつかり腐つて了つたのですね、全く吃驚致しました、それにつけても長兵衞氏の失踪が傳へられると前後して居なくなつた力彌、勝太郞の兩名は主人の死を知つて逃亡したものらしいので何かその間に臭いものがありはしないかと思はれます

不慮の變事に遺族が集まつて、そぼ降る雨の音も一層しめやかにお通夜の最中市內三葉町に菅野長兵衞の義母岩崎タイさんを訪へば悲痛な面持で語る

死んだ長兵衞は娘の婿です、今日の今日まで長兵衞が死んだとは思つて居りませんでしたし、人樣もあの人が死ぬ樣なことはない、きつと哈爾濱か羅津へでも逃げた抱へ妓と一しよに行つて何か商賣をしてゐるのだと人も云ひ私も信じて居りました、それが、こんなことになつて變つた姿で出て來ようとは……長兵衞は滿鐵を辭める時にも皆さんに惜しまれたのでした、子供が男ばかり四人もあり商賣も餘りうまくは行かない上に家內と十になる子供を續けて喪つて以來可なり大きな精神上の打擊を蒙つた結果こんなことになつたのでせう、遺書等はなくどう云ふつもりで死んだのか全く不明です

講演會

〝名刀を語る〟 本社講堂て

本阿彌光遜氏を迎へて本社主催刀劍大會は無銘の名刀を掘り出すなど氏の眼識は驚歎をもつて見られてゐたが、二十五日の鑑定會は前日同樣盛況を呈し、引續き午後四時から同講堂に講演會を開催した村田本社々長の紹介に次いで本阿彌氏は〝日本刀の沿革と名刀〟並に〝名刀と鈍刀の區別〟につき蘊蓄を傾けて通俗的に語り、日本刀の由來を懇切に說明し聽衆に多大の感銘を與へ同五時半盛會裡に閉會した

綠組大勝す

社內ラグビー優勝戰

滿鐵運動會ラグビー部主催社內ラグビー大會の最終日たる黃組對綠組優勝戰は二十五日午後四時半より大連運動場にて關潤（主審）岩井、村井（線審）三氏審判の下に開始32―5で綠組大勝し滿鐵盃を獲得した

	綠組 32	16	0	5	黃組
		16	5		

（黃組）宮尾崎中藤原山原田木福木高橋林 / 今長藤田伊石中柏羽春森鈴森石小 / 岡村藤木澤口邊頭瀨納內山野口尾 / 稻小齋佐古野渡園古加芳西今谷峰（綠組）　FW HB TB FB

各署に 宛て嚴重取締方

慈雨いたる

▼…旱魃に喘ぐ百姓は云はずもがな、雨あがりの滴るばかりの新綠、塵を洗ひ流したすがすがしい初夏の空に禮す雨に對する憧憬は小崗子の天后宮をはじめ、全滿各地の雨乞となつてあらはれたが、誠意天に通じてか二十五日朝から愚圖ついてゐた大連の空は午後四時半つひに一滴千金の慈雨をもたらした、正に天與の雨、鋪道を走る人々も折角の夏衣を、夏帽を濡らしながらも喜びの表情だ

▼…さて降つては見たもののこの慈雨、何時までつゞく？…若草山氏に伺ひをたてゝ見たら黃河中流にあつた低氣壓が下流方面に移動した爲に齎された雨で州內を恐らくは二十五日夜から二十六日にかけて、しかも相當量降るであらうとの事

▼…これで生氣を失つた田畑も蘇り、塵にまみれた山々の樹も滴る綠を見せる事であらう

關東軍の劍術大會 第一日終る

【新京電話】關東軍劍術大會第一日（二十五日）午後は一時から午前に引續き各部隊對抗試合を開始四時半盛會裡に終了した、第一日の優勝部隊左の如し

▲步兵班　第一組田村部隊、第二組吉本部隊、第三組松井部隊、第四組兒玉部隊

▲騎兵班　優勝小島部隊（第二位阿久津部隊）

▲航空班　優勝寺本部隊（第二位佐藤部隊）

▲砲兵班　優勝八木部隊（第二位佐藤部隊）

▲工兵班　優勝加藤部隊（第二位後藤部隊）

▲憲兵班　優勝哈爾濱憲兵隊（第二位新京憲兵隊）

聖德記念の 壁畫集頒布

財團法人明治神宮奉贊會では國民一般に明治大帝の御聖德を不朽に傳へると同時に、一面當代美術の精華を永遠に遺すべき資料として今回神宮外苑聖德記念繪畫館の壁畫乾坤二帙を刊行頒布する事となり先づ旣成畫中より四十枚を高級原色製版に附したる壁畫集乾帙の完成を見たので、廣く一般に頒布する事になつた、壁畫集は一帙金三十圓（配本料共）にして頒布希望者は直接奉贊會へ申込まれたいと

決勝の本壘打

若原の投球愈々好調 早立、慶法第一回戰評―伊丹安廣

早立戰【東京特電二十五日發】立敎が早稻田を破るためには有村、影浦、藤田の立敎投手陣の內孰れかの驚くばかりの好調が示されの、早稻田の若原の不振がなければならなかつた、強打者なき立敎は早稻田の得點を二點以內に喰止め、味方打者がよく打つた時初めて勝利が豫想された、然し明治に連勝した早稻田は益々打力を發揮し、若原又豫期以上の好調をもつて巧に立敎打者を完封した、若原の好調にその守備を一任し攻擊に全力を集中する早稻田は各自の持つ十分の打力を發揮することができた、リーグ戰で殆んど見られなかつたスクイーズプレーが若原により二回行はれたことは珍しいことだが投手の打者たるときこの戰法は當を得たものである、ゲームの前半は堅實な攻擊戰法をもつて着々得點を重ね、次第に積極的に移つたあたり稱讚すべきものだつた、立敎影浦は平常のよきスピードに缺け有村は太田の安打に退き二回戰のために休息し、これに代る石澤はたゞ高須、小島以下の打率の向上にプレートに立つた觀があり壓倒的早大の勝利に歸したり

慶法戰 土井投手の健鬪により八回まで三點のリードを保ち得た慶應は、殆んど勝利を決定したかの觀を與へたが、次第に打力の鋭鋒を發揮し來れる法政の攻擊と土井の疲勞により三點を奪取し、十回二死後安打と原ロの貴重なる本壘打によつてつひに法政軍の勝利に歸した、慶應は法政伊藤投手の球をよく研究し、そのカーヴを中堅右翼方面に狙ひ打ち適時安打を放ち、慶應チーム本來のゲーム巧者の片鱗を示したが、土井の疲勞漸く加はり反撥力強き法政は九回伊藤、戶倉、藤田の三安打と一壘打に三點を奪還しつひに同點に漕ぎつけた、慶應は最後までよく力鬪し、土井の涙ぐましい好投あつて勝つべきゲームを失つたが、寧ろ土井以外に賴るべき投手なきが敗因である、伊藤はさして好調ではなかつたが、これが彼の實力で最後までプレートを守り通したことは稱すべきである、慶應はその全力を使ひ果し刀折れ矢盡きて敗れた觀があるが敗れて悔なきものであらう

9A―5 慶應惜敗す 對法政一回戰

【東京二十五日發國通】六大學野球リーグ慶法第一回戰は二十五日午後三時二十七分より神宮球場において天知（球）齋藤、關口、伊丹（壘）四氏審判、慶應の先攻で開始、慶應九回迄五對二と三點をリードし優勢に見えたが、九回裏法政三點を得て同點に漕附け、本シーズン最初の補回戰に入り十回裏法政原ロのホームランに一擧四點を得て法政勝ち六時廿五分閉戰

慶應	1	2	0	0	0	1	0	0	1	0	0
法政	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3

4A0 / 9A5

（慶應）方山田石里井 井田 / 國中本碣九櫻岡土山 / 8 9 7 5 4 2 3 1 6

（法政）倉田岡口山城村田藤 / 戶藤鶴原秋熊中稻伊 / 8 2 5 3 9 7 6 4 1

怪談の家　上は死體の現はれた天井裏（△印）

今更に偲ぶ 大楠公の忠誠

彌生高女の〝大楠公の夕〟

大楠公の遺德を追慕する大連市の〝大楠公の夕〟は在滿愛國團體聯盟主催の下に二十五日午後七時より市內彌生高等女學校講堂において開催された、折柄の雨にもめげず一般市民特にうら若い女性は定刻前に續々同講堂に參集その數約六百有餘、講堂の眞正面に大楠公のブロンズを揭げその下に大楠公直筆の書幅の軸物を飾り、同三十分聯盟幹部關利重氏開會の挨拶に次いで全參會者しばし默禱を捧げた後全員起立國歌を齊唱、それより敬祝の餘興に移つたが江藤久雄氏の大楠公墓御陰贊讚、愛國聯盟團長長谷部照悟氏の挨拶、彌生女學校生徒の合唱に伴れて踊る江頭柳子女史の舞踊君ヶ代、大連二中敎諭大迫隆良氏の大楠公に就いての講演、日本橋小學校女子六年生有志兒童劇楠公旗前にて、彌生高女生徒有志の大楠公の歌のコーラス、針生祐水氏の薩摩琵琶櫻井の驛、興國詩吟會々員の詩吟楠公、大連演劇研究會々員の楠公に因んだ脚本の朗讀、江頭法紘氏の宗敎琵琶嗚呼忠臣等プログラムの進むに從ひ參會者一同今更ながら大楠公の忠誠に打たれ、最後に松竹蒲田映畫大楠公（早川雪洲、水谷八重子主演）の映寫で餘興は終り、同十時半聯盟幹部關氏の閉會の挨拶を以て深い感激と敎訓裡に大楠公の夕は終了した

スタヂオ新設

滿洲寫眞界の權威者として令名ある元大連新聞寫眞部長隆太郞氏は今回信濃町電車停留所南側にスタヂオ新設電氣採光にて「極く自然のポーズで和やかな氣分を寫す」をモットーに二十三日より開業一般顧客の需めに應ずると

暴風警報

（廿五日午後六時）風強かるべし、南滿洲一帶及附近海上を警戒す

親鸞聖人 (222)

女人篇

吉川英治作
山村耕花畫

手長猿（五）

「お身たちは何者か」
鬘宴の問ひに對して賊たちは賊であることを誇るやうに答へた。
「盗人よ」
「ほ」
半眼に閉ぢてゐた眼をみひらいて鬘宴は又云つた。
「盗賊なれば、欲しい物さへ持つて行けば、人を殺めるには及ぶまいが」
「元より、殺生はしたくないが、この堂衆めが騒ぐからよ」
「騒がぬやうに、わしが云ひ聞かせておく程に、そち達は、安心して、仕事をしてゆくがよい」
「こいつが、うまい事をいふ。そんな古策に誰が乘るか。油斷をさせて、鐘を撞くか、山法師共を呼び集めて來ようといふ肚だらう」
彼等は當然に信じなかつた。その様子を聞いて頭領の四郎は、そ
鬘宴を本堂へ連れて來いと傳へて來た。手下共は彼の兩手を捻あげて立てと促した。惡びれた様子もなく鬘宴は引ッ立てられてそこを出て行くのである。天城の四郎はといへば、本堂にあつて、經櫃の上に傲然と腰をおろし、彼の姿を見ると突つ立つて、頭から一喝をくらはした。
「居たか！なまくら坊主」
そして、更に聲高に、
「そこへ、坐らせろ」
云はるゝまでもなく鬘宴はすでに坐つてゐるのである。頭領と仰ぐ四郎の身に萬一があつてはと警戒するやうに手下共はいつたん物々しく取り圍んだが、その必要がないと見ると各々掻き集めた贓品を持ち易いやうに包んだり束に括げたりし始めた。
四郎は、鬘宴の眼をじつと睨まへてゐた。鬘宴も亦四郎の顔から眼を反らさなかつた。大和の法隆寺に近い町の旅籠で會つた時から
すでに七、八年の星霜を經てゐるが、その折りの野武士的な精悍さと鋭い鷹眼とは今も四郎の容貌にすこしの變りもなかつた。それと、ふしぎにもこの男は、弟の善信の場合でも、自分の所へ襲つて來た今夜でも、何か女性にからむ問題があるたびに現れて來て迫害を加へることが宛も約束事のやうになつてゐる。――鬘宴はその宿縁を思ひながら四郎の影に對してゐた。われの愛情と罪に涙を享けて、彌陀が遣はさるゝところの使者であると思つた。
「やいつ、鬘宴」
四郎はまづ云ふのである。
「俺のつらを忘れはしまいな。けふは返報に來たのだ。ちやうど一年目になるが、よくも何日かの夜には俺が月輪の姫を奪つてゆく途中を邪魔させたな。手を下したのは汝ぢやないと吐すだらうが、汝の意志をもつて弟子共がやつた事である以上、その返報は當然ておまえにかゝつて來るのが物の順序だ。そこで今夜は、この大乘院の什器と在金を殘らず貰つてゆくつもりだが、何か、云ひたい苦情があるか。あるならば聞いてやらう、鬘宴、吐かしてみろ」
野太刀の大きな業物はこゝにあるのだと云はないばかりに、左り腰へ拳をあてゝ、少し身を捻りながら睥睨した。
鬘宴の眸はまだ四郎の面を正視したきりであつた。そして靜に云つた。
「欲しいものは、それだけか」

資金十萬圓で「蒙古入」映畫化
大本敎日滿蒙親善

大本敎教統出口王仁三郎氏は滿蒙開發の先驅者として日滿蒙親善のためオールトーキーで「王仁三郎蒙古入」を映畫化する計畫を樹て信者から募りつゝあつた資金十萬圓もこの程集まつたので近く大阪府下寢屋川沿線牧野のかつて白井戰太郎等が立籠つた撮影所で製作を開始するが別に同映畫に編輯する未開の蒙古の赤裸々な世界や有名な「蒙古風」と稱する烈風、狐の大群の實寫撮影のため特別撮影班を組織し、七月頃出發せしめることになつたが、脚本は目下村田圭史氏が潤筆中である

入江の新作品
一般投票で決定

病氣靜養中の入江たか子は愈々六月中旬より日活との提携第一回作品に主演するが、作品は
▲夏目漱石、原作「虞美人草」▲牧逸馬原作「虹の故郷」▲菊池寛原作「明麗花」「愛慾二代」の四篇が候補に擧げられ、このうちより一篇を全國ファンの投票によつて決定する事となり、左の規定で投票を求める事になつた
▲希望の題名一篇を官製ハガキに記すこと▲締切六月五日▲宛名は入江プロ宣傳部▲決定作品投票者へは同映畫の美麗なるスチールを贈呈

私語線

羽左の渡滿延期は果然全滿的なセンセイションを捲き起した▲問題の中心は保安側の言ひ分、協和會館側の言ひ分、富士興行の言ひ分等各々主張する處がありデリケートな關係があるが▲ともかくも保安主任が白濱主事に對し〃願書は出しても受けつけぬぞ〃と一喝したことがもつれ出す直接原因であつたことは間違ひない▲何れにせよこゝに大連劇場の名をひき出し、大劇の設備その他を楯に羽左の大劇入りを强ひるが如き言辭を用ひたことは徒らに大劇を表面的にこの渦中にまき込んだことになり、寧ろ市民の反感は大劇に集まる結果を招く▲市民の小屋として大劇を守るならば事件解決後のことにすべきだ

(日刊) 滿洲日報
朝夕刊共十四頁
發行所 大連市東公園町三十一番地 株式會社 滿洲日報社
(明治卅八年十月二十五日 第三種郵便物認可)

想ひぞ起す此一戰
けふ三十周年海軍記念日

日本海々戰卅周年

[illegible]……たる鼓動を響き、その捷報を手にした彼等が到る處欣舞したる……[illegible]……後東洋全局に大影響を及ぼし、延いて世界大に甚深な關係ある史實であつた。……[illegible]……就中十九世紀初項の歐洲事情を回顧すれば、民族抗爭の範圍猶ほ眞に冠するに世界的を以て難き點がある。否な英佛覇權爭奪がその後英國の前途に橫へた局面よりも、三十七八年役後に於ける日本の國步は、質と量と角度とを一層多事多端ならしめた。即ちこの事件が直間接の影響を與へた歐洲大戰、居然たる强國として日本の參加を餘儀なくさせたが、同時平和克復後にかて世界の全波瀾を東洋に集中せしめ、支那の紛糾は益々その度を高め、太平洋上の商權競爭熱は一層その急を加へた。換言すれば三十七八年戰役にかて日本が獲得した地步は、その地步の安定と、それが誘發族起した次の使命との爲に、更に大なる努力精進を我が國民に要求して居る、吾人は正にこの新國運を偉化すべき道程にあるのだ。

◇

二十七八年戰役は東洋にかける日本の存在を、明白に世界萬國に周知せしめた。三十七八年戰役は日本に世界列强の間に雄視し得る機會を與へた。併しそれまでの日本は概ね外に對して內を固むるに汲々したのであつて、進んで積極的貢獻を世界に廣被すべき活動に至つては、猶ほ一に今後に期するもの實に少なくない。そこに當時に幾倍徙した大なる天の重任がある。時の流れは滔々物質的に日本を發達進步せしめた。それだけ國民の知識は恢弘し深廣となつた。而もその茲に至つた淵源を探究すれば、總て國を擧つて奮戰苦鬪した忠誠勇武の精神に歸せねばならぬ。唯夫れ人情は動もすれば本を忘れ易い。繁榮の結果に安住して國史の精髓を輕視しようとする。今や吾人が日本海々戰三十周年の日にかて、衷心より覺醒せねばならぬのはこの點だ。それは必ずしも戰爭その者の爲のみでない、一日緩急の際にかては勿論、平時の總ゆる諸問題に對して、造次も忘るべからざる信念であつて、今の時代相は殊にこの精神作興を必要として居る。

日本海々戰
三十周年を迎へて

再び皇國の興廢を擔ふ
海軍大臣 大角岑生氏談

帝國海軍が其の全力を擧げて露國波羅的艦隊を對馬海峽に邀擊擊滅し前古未曾有の大捷を博してより今年は既に三十周年を迎ふるに至つた、三十年前「皇國の興廢」を決したる當時の我海軍の旺盛なる意氣と其の後今日に至る我海軍の充實に伴ふ國運の進展と軍縮問題に當面せる帝國刻下の非常決意とを追想靜觀する時、我國民たるもの誰か感慨無量ならざるものがあらう、吾人は新たなる感激を以て往時を偲びつゝ翻つて現時の重大危局を直視するに當り益々報國の覺悟を堅くするものである。

◇

日本海海戰は日露兩國にとつて實に乾坤一擲の決勝戰であつた、其の全艦隊の殲滅は遂に露國の戰意を放棄せしめ講和會議開催の直因を作つたものである、かくて明治大帝の御稜威と、帝國陸海軍の奮戰善戰と銃後國民の熱誠なる協力により克く大露國の脅威を排除して東亞を安泰ならしめた。

◇

實に露國東進の阻止は東洋における帝國の指導的地位確立のためわが實力を發揮したる劃期的大事業であつて、爾來世界大戰參加、滿洲、上海事變、聯盟脫退、華府條約廢止等帝國は常に東洋永遠の平和維持のためにその傳統の使命に邁進し克く東亞の中心的安定勢力としての眞價を發揮したのであつた、その間帝國海軍は帝國の使命に遵つて鋭意內容を充實し、連綿不斷の鍛鍊に努め、その重責を果すことに遺憾なかつた。

◇

今や國際情勢愈々混沌として各種問題の歸趨全く豫斷を許さゞるの現狀にあり、加ふるに帝國はその將來の運命を左右すべき軍縮問題に直面し、上下異常の決意を以てわが主張の貫徹に邁進してゐる、吾人は飽くまでわが公正妥當なる主張を列國に理解せしめ、彼等の疑心暗鬼を一掃し、その偏見邪推を是正するに努むべきであるが、他方常に實力の滿を持しわが海軍をして不敗の地位に在らしめざるべからざることは、國際間の現狀に徵して喫緊の要務ありと痛感するものである、この點恰も三十年前の今日と等しく今やわが海軍は再び「皇國の興廢」をその双肩に課せられたるものと謂ふも過言ではないであらう。

◇

われ等海軍々人はその職にあるものと鄕に在るものとの別なく、この重大時局の實相を正視し、一致團結、軍縮問題を繞る各種對策に關し一層の努力を拂ふとゝもに不退轉の決意を以てこの難局に善處しなければならぬ、かくしてこそ初めて三十年前宣揚せる諸先輩の偉業を繼承し、これを結實せしむるの責務を果し得るものと思ふのである。（東京二十六日發國通）

國際危機に備へよ
旅順要港部 濱田司令官談

一國々運の消長はその國海上權力の降昏と起伏を同じうすることは古往今來動かすべからざる事實であつて歷史がこれを雄辯に物語つてゐる、米國の大戰略家マハンは「克く海面を制し得るものは克くその局面を制す」といつてゐる寔に至言であると思ふ、しかし人類は陸上に棲息する關係上動もすれば海洋の使命を眞に理解するもの〻尠いのは誠に遺憾である

◇

日本海々戰後こゝに三十年、一度想ひをこの海戰の成否に致すとき誠に感慨無量のものがある、わが國民はこの光輝ある戰勝を祝福するばかりでなく更に一歩考へを進めて若しこの海戰が我々に不利になつた場合を想像すると共にこの戰勝のよつて來る所以を探究し現下直面せる國際危機に備へることが必要と思ふ

海軍記念日所感
駐滿海軍部司令官 津田靜枝

五月二十七、八日は日本海に露國「バルチック」艦隊を殲滅し皇國の興廢を一擧に決した我々海軍々人は元より日本全國民の忘るべからざる記念の日である 本年は實にその三十周年に當り亦當時の聯合艦隊長官たりし東郷元帥薨去の一周年をも迎ふる次第にして特に感慨に堪へぬものがある 顧みるに當時我は既に露の東洋艦隊を潰滅し奉天の會戰に敵の大軍を擊破せりと雖も滿洲の野にては彼我兩軍交綏狀態に陷り勢力の均衡を破るは容易の事でなく彼我共に局面の打開を海上に求めつゝあつたのであるが彼が戰運挽回の最後の望を囑し極東に送つた「バルチック」艦隊も目的地浦鹽に達せずして日本海の一擊に脆くも全滅し流石の驕露も茲に觀念の臍を固め戰意喪失急速に和を請はしむるの結末に至つたのである これを以て見るにこの海戰の意義の如何に重大なりしかを窺ひ得る次第で惟ふに海戰なればこそあの決定的成果をも期待できたので將來に於て海軍力の優劣は平戰を通じ國家發展に缺くべからざる決定的要素をなし又重大有力なる推進力をなすものであるといはねばならぬ

◇

日露戰爭における日本の戰勝は白人優越の人種的偏見及び白人全世界征服の野望を粉碎し從來の白人偏重の歷史的認識を一變せしめ全世界有色人種の自覺並勃興を促すの世界史上劃期的の重大結果を招來したるのみならず我日本は飛躍的の大發展をなし極東の一島國は一擧に一大强國の地位に列し東洋における唯一の安定勢力たるの事實及び權利を世界に認識せしめ東洋諸國の指導者の地步を確立し得たのである 爾來二十數年か滿洲事變勃發迄は我國運の進展隆々たるものがあつたとはいへ徒らに[?]びて日露戰役の由つて來たつた所以の大精神を閑却し戰前の緊張した氣分をも忘れ更に世界大戰後は國際協調の氣運に眩惑され華府會議に一度膝を屈するやこれを境として[?]後自主的立場より頽落し一步々々退嬰自屈に甘んずるの止むなきに至つた

◇

斯くて事每に極東における我が權益を犯され、國民の發展を阻害され伸びんとして能はざる我が民族の膨脹力は內に鬱屈し一路打開の途を求めざるを得ない狀況にあつたのである

◇

茲に滿洲事變勃發を見るやこれを轉機とする我が國策の劃期的展開はその產業貿易の飛躍的進展と相俟つて皇國の國際的地位を躍進せしめたると共にこれが必然的結果として現狀維持を念とする列强との間に異常の軋轢を生じ遂に我が國を繞る國際政局は各種の形態において日露戰爭當時に優る重大なる危機に當面するに至つた 蓋し我が帝國は今や有史以來[?]有の膨脹をなさんとして居るのであるがこの皇國の膨脹は我が民族自然の發達に伴ふ止むに止まれぬ膨脹力によるもので自然の數として斯くの如き一國々力の發展は必然既存勢力との衝突を來し危機を招來するは古來免れ難いのである 又現下時局を彩る華府會議以來の海軍軍縮問題では東洋の盟主として平和確保に當らんとする帝國の國策遂行に對し之を抑へ自ら東洋に進出し之を其の勢力下に收めんとする列强と流血なき戰を續けて來てゐるのである

◇

今や滿洲國も國礎既に固く着々健全なる發達をなし日滿不可分關係益々其固きを覺えるのであるが滿洲國の建國と健全なる發展、之を以て滿洲事變は總決算されたものでなく僅に東洋問題解決の緒についたに過ぎない、皇國が東亞の安定勢力として不動の地步を築き列强が之を容認するの外途なきに至つて初めて危機を突破し得たりと認むべきものである、現下の國際的情勢の一時的小康を以て危機既に去れるかの如く輕信する者なきに非らざるも我が興廢を賭ける危局は實に今後に任ずるのである 即ち本年は國際聯盟脫退の效力發生を見るあり亦軍縮本會議の開催の問題あり更に又昭和十一年末には米海軍の兵備は大いに充實せらるゝ等之等を繞る英露亞支那の動向と相俟つて滿洲事變以來の[?]局を清算すべき時機は次第に迫してゐるのである、就中海軍問題が時局解決の中心をなすは明にして今日はさらに右顧左眄の際迫を離れ忽れる秋でない、今や帝國は既に危機突破に力強い[?]を踏み出して居るのである 惟ふに皇國が現下の危局を克服するは即ち我が國本來の使命を[?]する所以にして之が成否は一[?]つて今後に處する我が決意と準[?]とに存し全國民の結束と我國[?]全を期する今日より急なるはなきのである、冀くば國民たるもの確たる自覺磐石の如き信念を以て擧國一致難局に臨み敢然直往[?]たいものである、是れ即ち日露役終局の目的に合致するものにて之に殉れたる先輩の血を無[?]らしめざるものと確信する

奉天米領事館移轉
【奉天電話】奉天商埠地三經路米國領事館では舊ソ聯領事館で事務を取扱つてゐたが今般米國スタンダード石油會社の滿洲國引揚により商埠地三經路同會社販賣所を買收して移轉すべく目下交涉中

有吉大使の赴任後
日支關係新展開か
民間の意見も充分聽取して 六月十日神戸を出發

【東京特電二十六日發】有吉駐支大使は過般歸朝以來廣田外相に對し現地における諸狀況を報告しわが國今後の**對支方針**につき重大進言をなすと共に今後の對策方針を協議し更に關係各方面と會見して意見を交換してゐたがすべての用務も一段落ついたのでいよく六月四日東京發、同十日神戸出帆赴任の途につくことになつた、同大使は右赴任に際しては西園寺公の外、岡田首相始め政府各首腦部とも會見外務省の方針を傳達すると共に對支貿易に關係深き大阪、神戸に特に二三日滯在して民間實業家と懇談を交へる筈であり更に南京到着後大使信任狀**捧呈式を**終へれば支那側當局につき今一應大使館昇格における南京政府の對日外交方針を聽取したる後大體七月上旬再び在支總領事會議を開催、外務省の決定せる方針と現地の事情とをつき合せて今後の善處を期する筈である、右會議には外務本省より守島東亞局第一課長も特に出席、今後の對支方針を各總領事に傳達徹底せしめることになつてゐる、かくて有吉氏の今次の大使としての赴任は今後の**日支關係**に一つのエポックを劃すると共に今後日支關係の動きに何等かの新傾向を示すべく期待されてゐる

有吉大使園公訪問
【興津二十六日發國通】有吉大使は二十六日午前九時興津坐漁莊に西園寺公を訪問初代大使就任の挨拶を述べた後最近における南京政府の對日政策の眞意を率直に報告すると共に今後の對支政策の根本方針に就き初代大使として老公の諒解を求めたに對し老公は最近の日支關係の新展開について有吉大使の功績を讃へ初代大使の精勵を切望し激勵する處あり會見一時間にして有吉大使は坐漁莊を辭去した

適當に善處したい 有吉大使語る
【東京二十六日發國通】老公と會見後有吉大使は左の如く語る
大使新任の挨拶に來たのだが四方山の話が出て會見時間が長くなつた、支那の對日感情好轉には老公も非常に喜んでをられた 長い歷史があるので急激に變化するとは思へないが最近支那の要路が日本を諒解するに至つて昨年の今頃に比べると非常に好轉して來てゐる、七月一日關稅の引き上げが行はれるが之は財政の都合で轉口稅輸入補塡の爲めに各國に對して一齊に行はれるもので別に排日貨的關係のあるものではない、又極く低率のもので取引上に對して影響があるものではない、財政の援助も條件次第だが今政府にそんな金があるわけではないから双方の民間同志の經濟提携をする事が必要であると思ふ、日本でもさうだが國民性があり面目問題があるので餘り押しつける事は不成功に終らせるだけであらうから適當に善處する事が肝要ではないかと思ふ

省政府を保定へ
狼狽せる于學忠移轉を決定
【北平特電二十六日發】河北省政府主席于學忠は形勢險惡なるため狼狽して二十五日以來何應欽と鳩首密議中であるが遂に省政府を七月一日保定へ移轉すべく決意した模樣である

海軍記念日特輯
第三面に記念グラフ、第四面に小林躋造大將の「海軍日本今昔物語」、關根郡平大佐の「日露海戰の思出」、山路一善中將の「旅順攻略に海軍重砲隊參加」、第十面に佐藤鐵太郎中將の「露艦隊殲滅の刹那」の記事を掲ぐ

滿洲國、滿鐵、內地側
三者出資の拓殖會社
資本金二千萬圓で近く誕生か

【新京電話】滿洲に對する日本人移民の根本方策を決定する日滿合辦滿洲拓殖株式會社は日本政府の方針が未決定のため取りあへずそれまでの暫定的會社として**政府の**出資及び助成を必要としない會社を設立することゝなり、さきに陸軍省平井三等主計正の來滿によつて滿洲國滿鐵共同出資による資本金一千萬圓の會社設立案が樹てられたが其後拓務省において本問題について內地資本家方面に交涉の結果內地側の出資の見込みが立つたので、こゝに再び新會社の再檢討を開始一千萬圓の資本を倍加して二千萬圓の**新會社**を設立することに大體決定をみた、從つて新拓殖會社は滿洲國、滿鐵、日本內地側三者の出資となるが新會社に對する配當保證又は政府補助金の問題が拓務省の豫算として議會の協贊を經るまでは決定不可能の狀態にあるため內地側の出資については之を一般に公募せず主要財閥又は大會社が單獨出資をなす筈である、しかもこの**內地側**の出資關係は既に諒解濟みであるため會社の設立は時期の問題となつたが たゞこの會社は前記の如く日本政府が何等かの形においてこの會社に關係するもの〻暫定的なもので且つ從來の武裝移民の方針を捨て〻經濟移民として計畫される關係から政府の今後の方針について現地と拓務省間に相當具體的に諒解を遂げる必要があり 二十五日來京した拓務省森重東亞課長は**この點**について軍その他と會見愼重協議を遂げることゝなつてゐる 即ち森重課長は廿七、八日の兩日關東軍司令部で軍、滿洲國の代表者と會見の後大連に赴き滿鐵當局と協議、同地で海路來滿する拓務省移民業務擔當の技術者經理專門家と合流依蘭地區の移民候補地の視察に赴き約一ケ月の後再び來京、最後の打合せを遂げて東京に歸る筈で最初の新京及び大連での**協議で**完全に意見の一致をみれば新會社は六月中に成立するが結局森重課長の歸任後に實現するものとみるべく、時期は七八月頃と觀測されてゐる、右につき森重課長は語る
今度は拓務省として現地側と打合せに來たので拓務省の具體案といふものはまだ決つてゐない 日本政府としてやらねばならぬことは當然だがこの會社の補助を如何なる方針でやるかゞ問題でそれについて色々な案を持つて來た、勿論明年度豫算にはこれを計上するがそれも理想通り明年中に出來るか二、三年かゝるか見當がつかず從つてそれまでの政府出資とか補助とかを必要としない新會社が出來るかも知れない

扶桑丸 二十七日午前七時二十分大連港外着豫定

人事
▲後藤七郎氏(九大醫學部教授)二十六日午後四時五十分發列車にて夫人同伴奉天へ
▲朝鮮五山高等普通學校生五十二名(修學旅行團)二十六日午前七時三十分着列車にて來連
▲佐賀縣伊萬里商業生七十八名(同)午前八時四十分着列車にて來連
▲村井啓太郎氏(滿銀頭取)同午前九時發あじあにて京城へ
▲村瀨恒光中佐(○隊附)同上蘇家屯へ
▲山根菊子氏(日本婦人相愛會長)廿六日午前十一時安東通過北行
▲松岡太郎氏(海務局海事課長)廿六日出帆あめりか丸で內地へ
▲永松文一氏(門司海事協會出張所長)同上
▲西岡留次郎少佐(陸軍運輸部附衞生課長)同上
▲大牟田商業生徒視察團一行八十三名 同上離滿
▲吉津良行氏(大阪府會議員)二十六日午前七時二十分着列車にて來連ヤマトホテルへ
▲濱田耕作氏(文博、京大教授)二十六日午後發はとにて新京へ
▲島村孝三郎氏(東亞考古學會員)同上
▲伊藤忠夫氏(日滿文化協會評議員)奉天博物館開館式列席のため二十六日午前十一時過安北行

蛇角
◇林陸相の上陸第一步は雨後曇、所謂雨降つて地固まる、滿洲の現狀を想はしめて妙である。
◇生憎の雨は五月祭ファンを失望せしめた。が、慈雨藥つて萬物生氣あり、以て慰むるに足らん。
◇アルコールの强制使用案が近く具體化する形勢。
◇といつて吞ン兵衞よ舌なめずりしてはいけない、ガソリン代用燃料としての强制案だから。
◇東邊道の癩人病治療法に曙光。序に、在滿官僚の癩人病治療法も研究して貰ひたい。

本日十六頁（夕刊とも）

右……バルチック艦隊戰艦オスラービヤ苦戰の光景（東條鉦太郎氏畫）

下……海軍省が出した日本海々戰三十周年海軍記念日のポスター

下……日露戰爭當時の東鄕大將

上……横須賀に保存されてゐる武勲永久に赫々たる三笠

下……旗艦三笠の主橋に命中した敵の彈痕

上……わが聯合艦隊旗艦三笠の勇姿

右……戰鬪開始前における三笠艦橋（東條鉦太郎氏畫）

上……「敵艦見ゆ」の假裝巡洋艦信濃丸

下……戰役當時發行された戰捷繪はがき

右……バルチック艦隊司令長官ロヂエストウエンスキー中將

上……五月二十七日威風堂々根據地を出動するわが聯合艦隊

海軍省て記念撮影 明治三十八年十月二十二日東鄕聯合艦隊司令長官は凱旋と共に直ちに宮中に參內、次いで海軍省を訪問したときの記念撮影で、寫眞中央東鄕大將、その右山本權兵衞大將、その他將星

舞鶴軍港に上陸する八百のロシヤ俘虜

海軍日本の今昔物語

海軍大將　小林躋造

認識不足時代　議會海軍整備案を一蹴

帝國海軍の今昔を想起する時、その變遷は實に著しいものがある、それには先づ海軍に對する一般の認識の變化を擧げ得る、元來日本は東洋の一島國であつたために太古から海の傳統は豐富であり神武天皇の御東征にも、まづ海を御利用遊ばされ、下國民も亦海の利用にすぐれてゐた、このやうに大和民族は海を利用して發展する國民性をもつてゐたのであるが、後內政に力を注ぐに急にして、或は朝鮮を放棄して對外關係を絕ち德川幕府の頃となつては完全な

鎖國主義

をとつて大船の製造さへ禁じてしまふに至つた、かくて國民一般は海を離れ、海を護るといふ考へは更に明治維新前後まで失つて來たのであつた、そのために、僅かに一、二艘の黑船來ると國內はあげて大騷ぎを演ずるといふ有樣であつた、明治維新となつても國民一般は海軍の知識がなかつたのみならず、明治初年の名士も國防とは國土を護ることで、陸軍が主である、海軍は唯陸軍を海上輸送する場合之を保護し得れば可なりといふ考へを固持してゐた人があつた、海國日本が過去海軍といふものを持つてゐなかつたために海軍に對して認識不足であつたのは或は當然かも知れぬ、明治二十三年に帝國議會は開かれ、爾來政府當局は屢々海軍整備を提案した、殊に日清戰爭の勃發を豫期してゐたので政府は極力この運動を試みたのであつたが、この提案は認められなかつた、明治大帝は非常にこの形勢を御軫念遊ばされ明治二十六年には御內帑金年額三十萬圓宛六年間御下賜の御沙汰を賜はり、官吏も俸給の十分の一づゝを政府に献納して海軍を整へることになつた、この政府と議會との衝突は藩閥と民黨との全面的抗爭の結果で必ずしも海軍を目標としたのではあるまいが、兎に角東洋の風雲急なる時である、若し議員にして海軍の使命を理解して居たら、恐らく海軍費まで否決して斯くも宸襟を惱まし奉るには至らなかつたであらう、處が愈々

日清戰爭

となつて、わが海軍は黃海に支那艦隊を擊破し、威海衞に之を封鎖して海上を制したので陸軍は護衞なしに戰地に往來する外國貿易は平常通りに出來る、軍需品、衣食住の材料は何の苦もなしに日本へ入つて來るのを見て國民も始めて海軍は陸軍の副兵力ではなく獨自の使命をもつてゐるものであると考へて來た、日露戰爭にかても國民は同樣な事を見、又最後には奉天の大敗に參つたといはなかつた露國が日本海海戰で、わが東郷聯合艦隊の爲にそのバルチック艦隊を擊滅せらるゝや、米國大統領の講和提議を受諾したのを見て海軍の使命に對する理解は一層強化されたのである、更に世界大戰當時ドイツは前後五年敵の一兵をも自國內に入らしめず、敵國で戰つた程連戰連勝したが、海軍は聯合國海軍より劣つてゐたため、ドイツ及び其同盟國の沿岸は敵の海軍によつて完全に封鎖され國內の物資は缺乏し、國外との通信がとれない狀態になつたので、遂に降を乞ふに至つた事實を國民はマザ／＼と眺めて、海を制することの如何に戰ひに影響するかゞ分つて來て、今日では海軍を陸軍の副とするが如き觀念は霧消して海國の國防は海軍にありとか、海軍は國防の第一線なりと國民等しく考へてゐる、これは最も著しい變化であると思ふ、わが海軍發達の搖籃期であつた明治初年から今日まで

海軍兵力

は非常な進步を見せた、當初明治五年、兵部省が陸軍省と海軍省の二つに分れた時には海軍兵力は艦艇十七隻一萬三千七百噸しかなかつた、つまり今日のベルー國の海軍兵力に相當する、その中の最大艦は龍驤（二、五〇〇噸）といふ軍艦であつたが、これは熊本の細川家から獻上された外輪軍の帆前兼用船で、後、明治大帝がこの軍艦に召され九州へ御巡航なされた時、時化のために食事をとることも出來ぬ程動搖したが、この時西郷南洲も乘艦してゐた、偶々西瓜が一つあるのを發見しこれを擧國で割つて大帝におすゝめしたといふ話もある位の貧弱なものであつた、明治初年頃、英、佛、露、米の四國は競うて東洋方面に地步を占めんとして活躍してゐたが列國がわれに手をつけ得なかつたのは日本人のもつ氣魄のためであり、又四國が互に鬪爭を演じて妨げ合つたことに原因してゐる、斯樣な狀勢であつたので國內には海の防備といふ思想が漸次現れ來つたのである、明治八年になつて我國では甲鐵艦扶桑、鐵骨木皮艦金剛、比叡の三隻を英國へ注文した、この三隻は當時世界に誇る新鋭艦といふべきで、同十一年竣成の上本邦へ回航した扶桑は三七一七噸金剛、比叡は各二、二四八噸で、何れも日清戰爭に奮鬪した初代の軍艦である、明治十五年には大艦六隻、中小艦二十四隻水雷砲艦十二隻の造艦計畫あり、同十六年から三ケ年間、逐次大艦三隻、中艦五隻、小艦三隻、水雷艇一隻の造艦計畫があり、同じく十九年には三ケ年

造艦計畫

のため、千七百萬圓の海軍公債を發行した、その頃わが海軍は如何なる兵力量をもつ考へであつたかといふと、この頃のやうに隻數標準ではなく總噸數で二十萬噸を持ちたい、尤も今直に二十萬噸の兵力を整備することは出來ないから七年間に十二萬噸を整備することに決し、當時の海軍大臣樺山さんはこれを明治二十三年の第一議會に提出して協贊を求めたが、前話した通り仲々目的を達し得なかつた、明治二十六年畏くも明治大帝は製艦御奬勵の勅諭を御渙發、御內帑金下賜となつたので國民も亦感激し、競うてこれが資を獻ずるやうになつた

初期の"三景艦"　黃海大海戰の回想

明治二十七、八年の日清戰爭當時、わが海軍勢力はどの位であつたかといふと軍艦三十一隻（六〇〇〇〇噸）水雷艇二十四隻（一、五〇〇噸）合計五十五隻六一、五〇〇噸であつて、これは明治五年卽ちわが海軍省誕生の時より以降二十二年間に勢力が四倍半に增加した事になる、列國海軍の間では恐らく十一番目位であつたらう、日清戰爭當時のわが海軍の最も精鋭な軍艦は松島、嚴島、橋立の所謂三景艦で、いづれも四二〇〇噸次いでは四二〇〇噸の巡洋艦吉野三千七百噸の浪速、高千穗等で

三景艦は

その性能は薄弱だつたが、各艦三十二糎の大砲一門づゝ備へてゐたことは一寸異風であつた、當時支那には東洋無比の堅艦と誇つてゐた定遠、鎭遠といふ七千五百噸の甲鐵艦があつて、何れも二十八糎砲四門づゝ搭載してゐたので、わが海軍當局はこれに對抗する新式の軍艦に焦慮した結果佛國の造艦家ベルタル氏が計畫して造らせたのが、この松島級の三景艦であつた、斯樣な小艦に大きな大砲を積むことは本來無理なので、故障は起り易く、發射速度も遲かつた、例の明治二十七年九月十七日の黃海の大海戰では旗艦松島でさへ五發しかこの砲を擊つてない、黃海海戰で敵艦擊滅に功があつたのは大口徑砲の力ではなくわが海軍が早くも採用してゐた速射砲のためであつた、ところで當時の支那艦隊は北洋水師の外に南海方面にも艦隊があつて、全艦隊の勢力は日本の二倍位であつたらうと思はれる、又個々の船について見ても定遠、鎭遠は世界に誇る新鋭艦であつたのだが戰爭となるや全く意氣地がなかつた、この戰役を通し支那海軍の爲に氣を吐いたのは黃海々戰の時に、支那水雷艇福龍が樺山軍令部長の乘艦である西京丸に肉薄して白晝魚雷襲擊を敢行したことだけである、魚形水雷を實戰に應用したのは恐らくは黃海々戰が世界最初のものであつたらう、當時の魚形水雷は

金の水雷

といつた、それは外國が眞鍮でピカ／＼光つてゐたからだ、射程の距離は四五百米が精々で、これを今日の新らしい魚形水雷に比べると射程、速力、炸藥量等何れも微々たるものであるが、一方當時の軍艦の防禦力は話にならぬものだつたから、それでも戰鬪は十分出來た、現に明治二十八年二月上旬わが水雷艇隊は威海衞に占據してゐた有力な支那艦隊を擊沈したが、これがために支那艦隊は遂に降參した、今の侍從長鈴木大將は當時大尉で六號水雷艇長この威海衞襲擊に參加して偉功をたてたものである、この六號水雷艇は噸數僅か五十四噸で現在の友鶴級の十二分の一に相當する小艇であつたが一年有半東海、黃海に出征し、よく艱苦缺乏に堪へて遂に敵艦隊の止めをさしたのである

日露役當時の兵力　日本はロシアの六割弱

日清の役後、三國干涉によつて遼東半島還附となり、國民は非常なる屈辱を嘗めねばならなかつたが、同時に國力の充實といふ考へが期せずして國民總意の要望となつた、海軍當局はそこで、二十九年以後第一期第二期と兵力擴張を計り、明治三十六年までに、二億圓で六六艦隊（戰艦六隻、巡洋艦六隻其他補助部隊）編成に拍車をかけることになつた、これは當時の豫算としては思ひ切つたもので如何に海軍力の充實に意を注いでゐたかが偲ばれるわけである、この計畫は戰艦四隻、裝甲戰艦六隻巡洋艦十二隻、驅逐艦二十三隻、水雷艇六十三隻、合計百八隻、總噸數十五萬三千噸を三十六年末までに造り上げやうといふのだから丁度日清戰爭當時の兵力の二倍半を八年間で完成しようと目論まれたものである、要一期と第二期の海軍擴張が進行してゐる間に

日露關係

は緊迫し、明治三十五年に海軍當局は第三期擴張計畫を議會に提案したところ、同年議會は間もなく解散となつたので翌三十六年の臨時議會で協贊を得たのである、これは三十六年以降十一年間に一億圓で戰艦三隻、裝甲戰艦三隻、二等巡洋艦二隻を建造しようといふものである、三十六年四月現在の列國の海軍勢力を見ると艦齡二十年未滿の新式甲鐵艦は英國六十六萬噸佛國三十萬噸、露國二十三萬五千噸、獨國十五萬噸日本十四萬五千噸、米國十三萬噸伊國十二萬七千噸で日本は露國の六割弱に當つてゐる、若しこゝで第三國が、露國に加擔すれば、彼我の勢力は非常な懸隔を生ずるので、わが海軍當局では海軍力の充實を更に計ることになつた、そこで三十六年十月下旬山本海軍大臣は外國の戰鬪艦二隻を臨時購入し第三期計畫中の一隻を繰上げて造艦することにし緊急支出をもつてアルゼンチンがイタリーに注文して建造中の裝甲戰艦二隻を千五百萬圓で購入した、日進、春日の二艦がそれである、この二艦は日露開戰間際に日本に到着して大いに役に立つた、一方戰艦繰上製造の事はその後話が纏つて英國へ至急注文する事になつた、香取、鹿島の二艦が卽ちこれであるが

この二隻

は戰爭に間に合はなかつた、その頃、英國では、チリーの注文による一萬二千噸の戰鬪艦二隻を建造してゐたので、實は始め、この二隻を手に入れようとしたのが、露國も亦これを購入したいと考へてゐたので事が面倒になり英國は默つてこの二隻を買つてしまつた、日本はその代りとして日進、春日の二艦を手に入れたのである、斯樣にしてわが海軍力は增大し日露開戰當初には、軍艦五十七隻（二十五萬噸）驅逐艦十九隻（六千五百噸）水雷艇七十六隻（六千四百噸）その他を合せて總艦數百五十二隻、總噸數二十六萬五千噸に達し日清戰爭當時と比較して、その四倍半になつてゐた、日清戰爭當時の勢力が明治初年當時の同じく四倍半であつた事と思ひ合せて、誠に奇緣といふべきである、もつとも日清戰爭當時は兵力が少く、また二十二ケ年かゝつてゐる、それに對して、日露戰爭當時には八年間で遙かに大きな兵力となつたのだから、非常な躍進といはねばなるまい、日露戰爭中日本は五萬噸の艦艇を犧牲にしたが、戰爭中、露國より十四萬噸を分捕つたから差引き九萬噸餘の增勢となつた

八八艦隊　編成動議

日露海戰側面觀

日露戰爭直後のわが海軍は三十六年に成立した第三期擴張計畫と初め臨時軍事費であつた艦艇補足費の二費で擴張をつとめてゐたが戰後各方面の經營は却々多事で財政の關係上豫定通り進行しない、丁度其時日露戰爭を脇から見てゐた英國は日露海戰から種々教はる處があつて、今までの主力艦とは全く形式の變つた新型艦、ドレッド・ノート型を採用し始めた、一體日露戰爭前の戰鬪艦の標準は排水量一萬二千噸から一萬五千噸、主砲十二吋砲四門、副砲六吋砲十數門、最大速度十八ノットであつたところ、ドレット・ノートは排水量一萬八千噸、主砲十二吋十門速度二十二ノットで在來の戰鬪艦からまさに一頭地を拔いてゐるので、各國共非常なセンセイションを卷き起した、實はこの新型については英國々內にも多數の反對者があつて

こんな新型艦を造れば舊艦は無力となる、今の英國の大海軍は舊艦よりなつてゐるから勢力は激減する、これは英國のために不利である

といつたものだが、時の軍令部長で、わが山本權兵衞伯と親交があり同じく練腕家であつたフイッシヤ元帥は斷としてこの反對を斥け

弩級艦型が將來の主力艦型になることは爭へない、英國が立遲れたらそれこそ大變だ

と所志を曲げなかつた、そしてその頃わが薩摩に似たロードネルソン、アガメオンを建造中であつたが、これを一時中止し、その材料を流用して明治三十九年の一年切りでこの新型艦を建造し色々の實驗をやつた結果、性能の有力であることを認めて愈々採用に決した次第である、各國の中、ドイツの樣に英國と覇を爭ふ考へをもつてゐる國では、新型艦建造といふニユースタートを喜ぶが日本の樣に戰後財政的に窮乏してゐる國では舊艦を新型艦に造り直すことは甚だ迷惑なことであつた

なほ日露戰爭當時わが海軍は六六艦隊で戰つたが實戰の結果將來は八八艦隊として艦數を增加し新型のものにせねばならぬといふ議論が海軍部內に起り、明治四十年に至つて補充艦艇費が設けられ、從來の第三期計畫と補足費と三費目で主力艦四隻、巡洋艦三隻、驅逐艦十八隻、潛水艦十六隻の建造案が成立したのであるが、四十四年に至つて二億五千萬圓を支出してこの計畫を促進することになり、新型艦に改めることになつた

その後政變が屢々行はれ海軍當局は製艦工事中斷を避ける爲めに若干の支出を求めた以外には偶々勃發した世界大戰に處する目的で驅逐艦の急造をやつた位の事で新しい大計畫はなかつたが、大正十五年寺內內閣の時八四艦隊建造案が議會を通過し製艦の實施は久し振りに軌道に乘るの觀を呈した、八四艦隊といふのは主力艦十二隻を基準としたもので、之を大正十二年迄に造らうと云ふのである。

斯くいふと日露戰爭後大正六年に至る間わが海軍力が減したかの樣に誤取るかも知れないが、さうではなく第三期補充費等の擴張計畫はその儘行はれて居たので、この十二年間の中に鹿島、香取を始めとし弩級艦以前の主力艦が八隻弩級艦が六隻外に山城級の四艦も進水したのであつて戰艦の合計十八隻、四十萬噸、外に巡洋艦三隻一萬四千噸、驅逐艦約二十隻、一萬五千噸、潛水艦數隻が出來てゐるから總噸數四十三萬餘噸、則ち日露戰爭參加兵力の一倍半の新兵力を生み出したことになる、この間でわが海軍で特に記憶しなければならぬのは潛水部隊が初めてこの期間に日本に出來たことである潛水艦は日露戰爭中から建造してゐたが間に合はなかつた、これを採用したことについては小栗大將井出大將の力に依るところ極めて多く兩大將は「潛水の親」である

華府會議以後の製艦　わが海軍の現勢・九十萬噸

大正六年に八四艦隊が成立したが、當時は世界大戰中で形勢は容易に決せず、交戰國は何れも必死に海陸の軍備擴張につとめてゐた、米國の如きは大正五年まだ中立であつたのに有名な大海軍擴張を發表したので、かうなると大海戰でもあつて彼我の艦隊が共に非常な損害でも受ければ兎に角さうでなしに戰ひが終ると、我國は大海軍國の間に挾まれる事になるので戰局の推移如何に拘らず、海軍の整備を計らねばならぬ、そこで大正七年に八六艦隊計畫を立案し三億圓を追加した、之は

八四艦隊

案に主力艦二隻外に補助艦を加へたものである、次いで大正九年に至つて十六年（昭和二年）までに艦齡八年未滿の主力艦十六隻と補助部隊を整へんとする所謂八八艦隊案が成立し、茲に海軍は多年の宿望が達せられた譯である、この造艦計畫が着々進行してゐる中に大正十年のワシントン會議は開かれたのである、當時の狀況は（大正六年）以後、長門、陸奧の主力艦を始め龍田級、多摩級等の巡洋艦五隻、驅逐艦、潛水艦等を合せて凡そ十一萬噸を竣工し、加賀、赤城、天城、土佐等四萬噸級は建造中であり、紀伊、尾張等は材料を調べて船臺のあくのを待つて居たし、補助部隊も相當建造中であつた、當時艦籍にあつた主力艦をかき集め、何これに建造中、計畫中のものを合せると約七十餘萬噸といふ數字になる、華府會議まで國際間に海軍制限條約はなく各國は環境と財政とに應じて、其國防上必要とする處を自由に造艦して來たのである、この現在の環境現在の財政を基調にした海軍力は將來に向つての國防の標準とはなり得ない譯なのだが、大ざつぱな米國は現有勢力は將來の標準になるとして、米國獨特の計畫法で五大國の主力艦の勢力を計算し、その比率を以て將來の海軍兵力の標準として英米五、日本三佛伊一、七五とした、永い間歐洲大戰で疲勞困憊してゐた各國は涙を呑んで之に同意し、我國も約七十萬噸の主力艦を三十萬噸にするのやむなきに至つた、未成艦は尙忍ぶべし、折角國民の尊い負擔によつて建造された既成艦迄廢艦とし、多年教養された將兵が少からず淘汰されねばならなかつたのは誠に惜いことゝ思ふ

華府會議

以後の製艦については詳しく述べる必要もないが、華府條約の成立に依り主力艦は既成艦中の三十萬噸で我慢する事になつたので、八八艦隊案の新艦製造は急減し大艦年額二億圓の製艦費が會議の翌年（十二年）には一億四千萬、また十三年以後昭和五年のロンドン會議まで年額平均八千八百萬圓で濟んでゐる、此點では華府會議の效果は認めなければならない、大正十二年以後製艦計畫を改定して補助艦建造に着手したが世間ではこれが補助艦競爭の先例をつくつたかのやうに非難する人もある、もとより補助艦をつくつて主力艦不足の缺を補ふのは當然であるが、一體わが國の製艦はこれまで主力艦偏重で日露戰爭後華府會議までの例に依つても、其間主力艦二十隻、四十三萬噸を建造してゐるのに巡洋艦は僅かに八隻三萬七千噸位に過ぎない、詰り巡洋艦がないから主力艦を造らないで濟むことになつた機會に之に着手し始めたので、澤山巡洋艦を持てる國の態度と一律に見ての批判は當らないと思ふ、兎に角この新しい製艦計畫でロンドン會議までに巡洋艦十八隻十一萬八千噸、驅逐艦四十五隻、五萬六千噸、潛水艦三十九隻五萬五千噸の補助艦が整備されその他航空母艦も竣成した、ロンドン條約に依ると昭和十一年末までに補助艦を日本三十六萬噸、英國五十四萬噸、米國五十二萬六千噸にする事になつて居り今はこの數字に達する途中にあるのであるが、わが海軍の

現勢力は

主力艦九隻二十七萬二千噸、甲級巡洋艦十二隻十萬八千噸、乙級巡洋艦十七隻八萬一千五百噸、驅逐艦百二隻十二萬四千噸潛水艦五十七隻六萬八千噸、航空母艦四隻六萬八千噸、外に運送艦特務艦を除いて十八萬五千噸の制限外兵力があるから現勢力は九十萬噸と見てよい

日露海戰の思出　敵艦隊を擊滅する迄

海軍々事普及部　海軍大佐　關根郡平

對露決戰決定

明治三十七年一月三十日樞府議長伊藤博文公は時の首相桂太郎、海相山本權兵衞、外相小村壽太郎及山縣有朋大將の四巨頭と靈南坂上の官舍にて重要協議の結果日露開戰の避くべからざる決意を示し對露決戰の根本國是は此時決定した、而して二月五日兩國の國交は遂に斷絕、我が東郷平八郎中將の率ゆる聯合艦隊は威風堂々佐世保軍港を拔錨征途に上つた、仁川の役、旅順港口の閉塞戰、蔚山沖の海戰と展開して遂に三十八年五月二十七日日本海に於ける「皇國の興廢」を賭けての一戰に敵バルチツク艦隊を邀擊、擊滅してこゝに振古未曾有の大捷利を博した、當時の我が艦隊首腦部は左の如く智勇兼備の名將を網羅した堂々たる威容であつた

▲聯合艦隊司令部第一艦隊司令部　司令長官大將東郷平八郎、參謀長少將加藤友三郎、參謀中佐秋山眞之、同少佐飯田久恒、同大尉清河純一、機關長機關總監山本安次郎、第一戰隊司令官中將三須宗太郎、第三戰隊司令官中將出羽重遠

▲第二艦隊司令部　司令長官中將上村彥之丞、參謀長大佐藤井較一、參謀中佐佐藤鐵太郎、同少佐下村延太郎、同大尉山本英輔機關長機關大監山崎鶴之助、第二戰隊司令官少將島村速雄、第四戰隊司令官中將瓜生外吉

▲第三艦隊司令部　司令長官中將片岡七郎、參謀長大佐齋藤孝至參謀中佐山中柴吉、同少佐百武三郎、機關長機關大監下條於兎丸、第五戰隊司令官少將武富邦鼎、第六戰隊司令官少將東郷正路、第七戰隊司令官少將山田彥八

彼我海軍配備

日露開戰直前に於ける彼我海軍の配備を見るに露國の太平洋艦隊は主力を旅順に置き、裝甲巡洋艦數隻より成る有力な一枝隊を浦鹽に配して居つたが、我が帝國は殆ど全海軍力を佐世保に集中し、地形上我が帝國は露國艦隊を二分し所謂內線の利を占めて居つた、尙此の外に帝國がイタリーから購入した日進、春日の兩艦は新嘉坡を出て東航し極東派遣の途上に在つた露國の小艦隊は地中海に滯留して居つた、愈々開戰に決するや帝國海軍は一枝隊を仁川に派遣して露國警備艦のワリヤーグとコレーツを擊破すると同時に主力を以て旅順港外碇泊の敵主力艦隊に猛襲を加へ、更に轉じて浦鹽を砲擊し八回六[illegible]の敵の出擊を挫き爾後之をして逡巡の餘儀なきに至らしめたが敵一軍を無事旅順に撤退せしめたのは全く其の賜である、黃海方面に集中された敵艦隊に對する我が海軍の一擊は能く之をマハンの所謂要塞艦隊たらしめたのであるが未だ敵兵力を全滅したといふ譯ではなく殊に浦鹽艦隊は屢々出動して日本海沿岸を侵掠しつゝあつたからして、帝國海軍では陸上作戰の要求に應じ一層黃海の制壓を効果的にする必要があつたので、一方主力艦隊を裏長山列島に進めて嚴密に旅順を封鎖し他方裝甲巡洋艦四隻を基幹とする一枝隊を對馬海峽に配備して浦鹽艦隊に備へ以て續々陸軍を遼東半島に輸送する事を可能ならしめ爾後旅順開城に至る迄概ねこの姿勢を保持した、その間我が海軍は前後三回に亙つて旅順口の閉塞を敢行したマカロフ將軍が司令長官となつてから艦も活氣づき浦鹽艦隊と呼應して屢々出動したのであるが、その都度兵力を減殺するのみであつてマカロフ將軍も忍れ旗艦ペトロ・パウロスクと共に爆沈してしまつた

マカロフの死後旅順艦隊は再び生氣を失つたが、そのうちに我が攻圍軍の作戰が進捗し敵艦隊は背面から脅威を感ずるやうになり二回に亙つて破封鎖戰を行つたが、いづれも失敗に終り浦鹽艦隊も屢々日本海を游弋し或は太平洋に出で或は對馬海峽を侵し蔚山沖の戰ひで再起不能となつた、旅順に在つた敵主力の艦隊は數回の破封鎖戰に敗れた後も尙は餘喘を保つてゐたが開城の直前大部分は攻圍軍の砲擊に潰え沈み若干は我海軍の攻擊に潰え殘部は中立港に逃竄し、斯くして開戰當初太平洋に在つた露國海軍は文字通り全滅してしまつた

露艦隊の派遣

之より先露國政府は戰勢の挽回を圖らうとして太平洋第二艦隊の極東派遣計畫を樹てたが該計畫が公表されたのは實に明治三十七年四月三十日であつた當時は完成された艦艇が少數であつたので急遽全國の工業力を動員して三十七年十月十五日リバウ軍港を出發徐々征途に上つたのである、十月中旬といへば旅順要塞の攻略作戰が思ふやうに進捗せず之と同時に我野戰軍は沙河を隔てゝ相對峙し敵は益々兵力を增加しつゝあつた時であるから、所謂バルチック艦隊出發の飛報に接した我が國は上下壯烈な決意に燃えたのであつた、

バルチック艦隊は出發後二隊に分れ其の主力は喜望峰を迂回し枝隊はスエズ運河を經由して印度洋に進出し三十八年一月上旬マダガスカル島の北岸ノシベに於て合同し十一月中旬本國を出發した一部隊も地中海まで進航したが、此の時測らずも旅順開城となつた、露國政府としても太平洋第二艦隊の兵力を以て獨立で我が帝國艦隊を擊破することが出來るであらうとは考へたのではなく、東洋に若干の兵力が殘存したならば戰場に於て兵力の絕對優勢を獲ち得るであらうと考へたのであつたらしく、旅順開城後如何にすべきやについては相當煩悶したものと見えるが、とにかくロジエストウエンスキー提督に對して

旅順陷落し第一艦隊滅亡を告げた今日第二艦隊の任務は愈々大である、旅順海上の勢力を挽回し敵の野戰軍と其の本土との交通を遮斷すべきである、若し第二艦隊の現況にして本任務遂行不可能なりとすれば增援としてバルチックに殘留する總軍艦を派遣してもよい

と云ふ意味の電報を發した、之に對するロ提督の答電が面白い、卽ち

（イ）本職の部下に現存する勢力以てしては海上の勢力を挽回し得る望みはない

（ロ）老朽艦若しくは新艦と雖も構造上缺陷のあるものを增派されたところで艦隊の負擔を增すばかりで何の役にも立たない

（ハ）本職の遂行し得べき唯一の方策は最銳の勢力を提げ浦鹽に進入し同地點を根據として敵の交通を脅かすことが出來る

とあり、尙同長官は「在職時日をマダガスカル島に費すのは不利である」と附言したといふことである

本國政府は之に頓着なく老朽艦から成る第三艦隊を增援として本國を出發せしめ「其の合同を待つて發進すべし」と命令したものだから、ロ長官は病と稱して解職を願出たと傳へられてゐる兵力が足らず、人の和も既に破れてゐる、併しながら當時恰も滿洲に於ける戰機が熟しつゝあつたものだから、本國政府も第三艦隊の合同を待たないで艦隊主力を東航させることに決した

三月十六日四十五隻より成る全艦隊舳艫相銜んで拔錨し、佛領印度支那沿岸のカムラン灣に向つたが時既にクロパトキン軍は奉天で大敗し北方に退却中であつた

ロ提督はカムラン灣入泊後直に浦鹽行を電請したのであるが本國の命により第三艦隊の來着を待つて東進することゝなり五月九日に至つて漸く合同、同十四日朝鮮海峽に向つて出發したのであつた、明治三十七年十二月中旬までに在旅順の敵艦隊の大部分を擊破し去つた我が海軍は一旦本國に引揚げ艦船の修理を行ひ翌年二月中旬から逐次鎭海灣に集結し、一方浦鹽を監視すると共に教育訓練を重ね所謂逸を以て勞を待つた。斯くして愈々五月二十七日は來て午後二時對馬の南水道で相會したのであつた

旅順攻略に　海軍重砲隊參加

海軍中將　山路一善

長期間旅順の正面を警戒し、敵と睨み合つてゐた當時、私は千歲、笠置、吉野、高砂より成る第三戰隊の先任參謀を勤めて居た、この戰隊はわが海軍最高速力の二等巡洋艦であるから戰鬪艦隊の行動には前方の偵察となり、又その殿りとなりまして無くてはならぬ戰隊一であつた、又速力が速いので平氣で如何なる處へも單獨で行けるのである、卽ち旅順の陷落まで旅順の

直接封鎖

に從事し、隨分長い間毎日敵と睨み合つてゐたのである、私共の仲間では東郷長官の直率する三笠以下六隻の第一戰隊は之を戰樣艦隊と稱して居た、この戰隊は最も大切なものであり又長官も貴重なる御方であるからこの戰隊は實際の戰鬪とか又は特殊の場合の外は多く根據地に在つて動かぬ、それで私共は遠く出て敵を偵察し、又は敵と睨み合つてゐる間に種々の謀を案出して根據地に歸ると之を獻策する、譬へて見れば獵犬が藪の中を縱橫に探し廻つて鹿や猪を逐ひ出し、之を主人に打たすやうなものである、私共獵犬が忠實に、しかも俊敏に主人の前に獲物を逐ひ出すことによつて勝利を得らるゝのである、旅順前面を封鎖中、三十七年四月初めに「陸軍は遼東半島に揚陸せねば到底大戰爭が出來ない」といふことを聞いた、そこで私は旅順を睨みつゝ私案を練り之を島村參謀長に提出し、更に往年英國海軍が南亞の戰爭に海軍砲隊を上陸せしめ「レデースミス」の圍みを解いた故智に倣らひ海軍重砲隊を編成して陸軍を援助せんことを提案した、といふのは

海軍砲は

一萬メートル以上に達するから敵の要塞を砲擊するは勿論野戰においても正確なる遠距離照準器を以て敵艦の逃げぬ遼陽邊より野砲陣地とか又は敵の集團等を狙ひ打をして非常に效果があつたのである、故に海軍砲隊を編成して旅順攻擊に參加せしめられたしと願つたのである、その後五月二十六日、第二軍の南山攻略が豫想外の難戰で多數の戰死者を出したことを聞き、五月三十日大本營上泉海軍中佐へ書面を送つた、その要旨は

南山の戰鬪すら多數の犧牲者を出したではないか、今後の旅順攻擊は思ひやられる、海軍として一日も早く港內の敵を殲滅して敵の第二艦隊に備へねばならぬ、就いては十二珊、十二斤各十門の重砲隊を編成して乃木軍に從屬せしむるやう御努力ありたい

といふものである、その後六月十一日、東郷長官は海軍重砲隊を以て乃木軍に參加するの意見を伊東軍令部長に提出せられ、又乃木軍司令官よりも同樣大本營に具申せられ、その結果六月二十三日初めて黑井中佐が大連に於て指揮官となり、海軍重砲隊が編成された、その後乃木軍は益々前進し海軍重砲隊も非常に效力を發揮して敵艦艇を射擊したが、旅順背面の堅固なる要塞にかゝつて容易に前進が出來なくなつた、加之

死傷甚大

なることを聞き私共は相濟まんことをしたと氣が氣でなかつたのである、私共は當時陸圖及海圖を見て定規を當てゝこれがあれば二〇三高地よりの旅順港內碇泊敵艦の大部分が見える筈であるこの二〇三高地さへとつて貰へば、此處に指揮者を置けば海軍砲を以て港內の敵艦を擊破する事が充分に出來ると信じてゐた當時私が聞いたところでは、陸軍の方では旅順を取れば自然敵艦隊もとれるではないかといふ方針にて、二〇三高地の攻略には全く熱心でなかつたかのやうに聞いてゐたが、私は旅順の前面に居つて氣が氣でない、當時乃木軍には海軍より岩村參謀が附いてゐたが私は岩村と代つて貰つて乃木軍に附屬してこの目的を達成せんとまで決心し中央部に意見書を出したが御採用にならなかつた、乃木軍は當初は二〇三高地をさまで

重要視せ

られなかつた樣だがこれに反して私共は、我軍がこれを取つたといふ情報を得た時は非常に喜んだが、その後敵の絕大の努力を以てこれを奪回したといふことを聞き誠にがつかりした、若し乃木軍にして敵の思ふ程重要なる事を承知ならば同山の攻略に全力を擧げ、しかも一度手に入らば敵に奪回せらるゝ如きことはなかつたかもしれないと思ふ

廣瀬神社鎭座祭　けふの記念日に執行

軍神廣瀬中佐の靈を祀る廣瀬神社が中佐の鄕里大分縣直入郡竹田町にこの程建立され日本海海戰三十周年の意義ある廿七日の記念日に當り盛大な鎭座祭が行はれる

熊岳城林檎の驛賣 販賣方法統一
各農園から殖産會社に渡して 今迄の諸弊害解消

【熊岳城】熊岳城驛賣組合では二十五日午後一時市民俱樂部において總會を開き古川殖産社長、鈴木驛長の臨席を得て本年度驛賣方針に就いて左の如き事項を決議した

一、從來の生産者の籠詰めを廢止して販賣者の殖産會社に一任する事
二、各自分擔出荷量と更に出荷量の二割を添へて收穫秋に一時に殖産會社に出荷する事
三、金錢の支拂法は出荷量の按分に依り月二回とし五日と二十日に支拂ふものとす
四、籠詰めの數量は聯合會において決定された上割立す
五、組合費は一圓に對して一錢とす

右に依ると今迄各農園が勝手に籠詰めとして殖産に出して販賣せしめたものを今年は出來秋に一等品を選定して一時に殖産に渡し貯藏して驛賣を試みるもので今迄の方針を一變した形となり品質上からいつても亦取扱上からいつても今迄の弊害を全く除去されてをり然も一定期間斷なく林檎、梨と驛頭を賑やかし旅客人を滿足させる譯で必ず熊岳城苹果の滿洲一である眞價が一般苹果黨に認識せられるものと思はれる

郵便車襲擊の匪團を殲滅
龍鎭縣警察隊の奮戰

【北安】龍鎭縣北安と德都縣德都を繫ぐ唯一の驛道に現れて今春來郵便車荷馬車其の他通行者を惱ましてゐた匪首平西の率ひる約五十名は最近通北縣界に蟠居してゐたが去る二十一日北　東北方四十支里叢家店附近に移動中なるを聞知した龍鎭縣警務司では警察隊二十名を翌二十二日早朝同方面に出動せしめた所同午前七時頃正面衝突し交戰約三時間に亘りこれを擊退したが匪團は踏みなれた濕地を利用して東方小興安嶺山中に逃走した、併し潰走を前に匪首平西及有力な部下黑龍、海中華等は天誅の銃彈命中し枕を並べて落馬絕命した、而して勢ひに乘じた討伐隊は追擊に追擊を重ね匪團に多數の負傷を與へ馬四頭小銃彈五十發を鹵獲し敵將の首を携げ意氣揚々と歸北した此の大捕物の吉報に打ち喜んだ藤井首席指導官は語る

僅か二十名ばかりの警察隊で近頃にない大手柄をして呉れました匪首平西は平康德に次ぐ大物で却々手に負へない奴でした幸首領を斃した事は他の匪賊十名を斃したよりも効果があります

人質拉致の匪團と千山々中で猛交戰
鞍山の警察隊追擊

【鞍山電話】鞍山附屬地の人質事件については既報の如くその後鞍山署は必死の活動を續けてゐたが二十四日夜に至り同署では身代金要求の使者として送還された滿人二名が歸宅したるを好機に愈々彼等匪賊團の大討伐を

決行 これを殲滅して人質を奪還すべく同夜高等主任菅井警部補以下六名の騎馬隊を先發とし二十五日午前一時半司法主任栗原警部補の率ゆる四十名の署員及び憲兵隊並に鹽屋遼陽縣指導官以下約二十名の警察歩兵隊より成る本隊は全員小銃を携行武裝を整へて歩兵砲、機關銃、彈藥を滿載してトラック二臺に分乘歸還滿人二名を案內者として密かに夜闇に乘じ匪團の本據たる千山方面に迫り大討伐を開始した、午前六時半討伐隊は遼陽縣下第六區一軒房の東北方二支里の山中なる

滿人 家屋に籠れる匪賊の一團約五十名と遭遇忽ち猛烈なる戰鬪を開始し約二時間に亘つてこれと交戰擊退し南方大峪溝方面に逃走中の賊團を急追中であるが彼等は滿人人質三名を連行してゐるとなは我方全員無事益々勇躍討伐中である

千山の大頭目 海寬と遭遇
軍警討伐隊急追す

【鞍山】二十五日午前六時半千山々麓の滿人部落十間房にてはからずも千山馬賊の大頭目海寬の一團約五十名と遭遇した鞍山警察、同憲兵隊及び遼陽縣警察歩兵隊六十餘名の討伐隊は、思はぬ大物との戰鬪に一層の緊張を覺えて勇躍これを絕滅すべく拳銃小銃を亂射して頑強に抵抗する賊團を急進、歩兵砲、機關銃、小銃を浴せかけ必死の攻擊を敢行したが、賊團は勝手知つた山中とて巧に斷崖絕壁の深谷を利用して我方の攻擊を避けつゝ漸次東方千山々中へと逃亡約二時間位に至り遂に山中深く追擊の手を脫れ去つた、こゝにおいて討伐隊は止むなく附近各部落につき賊情其他を調査し遺留品を集め射殺屍體數名は其儘山中に遺棄して同十一時頃現地を出發、午後一時三十分全員異狀なく凱歌を奏して鞍山署に引揚げたが、徹宵討伐隊の指揮者として奮戰苦鬪した栗原本隊長、菅井騎兵隊長は目のあたり夜來の激戰を思ひ浮べつゝ「折角大物にぶつかりながら海寬を取逃したのは殘念でした」と口惜しがりつゝ交々語る

先發の騎馬隊、トラックの本隊ともに隆昌州警備街道を一直線に突進して午前三時半、回贖金を手交すべしと匪團が指定した遼海城縣境の部落什間房の少し手前に到着したので全隊員はこゝでトラックを捨て秘かに部落の四周に散兵陣を張り同時に連行して行つた歸還人質兩名に匪團の要求品を持參させ指定場所に至らしめたところが暫く待つても何等の音沙汰もないので斥候を派し調べてみると品物を受取りに來てゐる筈の匪團は影も形もない、段々調査すると同所は目下海城縣保安隊が屯してゐるので匪團は同所に來れず川向ふの遼陽縣大平溝附近の小部落に居る模樣だといふわけで、さては失敗つたと思ふ間もなく六時過ぎ朝霧が晴れて向の山を望遠鏡で見ると何と三十人ばかりの賊影が谷間傳ひに列をなして東方千山の方向に逃げ出してゐるのだ、それ逃がすなといふので我方は直に歩兵砲を發射してその進路を遮り一方騎馬隊は迂回して賊の前方に出づべく又本隊は日滿兩隊に分れてその側面に出づべく二千五百米の山坂を拔涉して敵を急追し彈丸を浴せかけつゝ進擊した、この間賊團もさるもので盛んに小、拳銃を亂射して死物狂ひに應戰するし我方にもピュン／＼彈丸が飛來して却々危險であつた、併し我方は全員海寬を倒せとばかり勇躍死線を越えて急追の手をゆるめず前進したが、何しろこの山は數十尺の斷崖絕壁の深谷で思ふ樣に追擊することが出來ず、そうかうするうちに勝手知つた賊團は深谷を利用して巧みに我方の追擊を避けつゝ谷傳ひに逃げて到頭千山の山深く逃げ込んでしまつた、もうかうなつては到底少數部隊の手に負へぬので殘念ながらその後の處置をつけて引き揚げて來たが、あんな大物が居ることが當初から判明してゐたらどんなにでも手筈が出來るのだし完全にやつゝけてゐたのに、約束の地點に賊團がゐなかつたのが彼等のもつけの幸ひだつたわけで、それを思ふと全くいま／＼しくて口惜しくて仕方がない

關東軍全滿劍道大會 二十五日新京で

奉天砂山 第二次競馬

【奉天】奉天競馬俱樂部の第二次砂山競馬は廿五日を初日に渾河砂山馬場で開催されたが久方振りの競馬に入場者殺到非常な賑ひを呈し馬券賣上總數四萬三千七百七十圓景品附入場券賣上高五百圓の巨額に達した第一日の成績左の通り（括弧內騎手）

▲第一競馬（速歩三二〇〇米）1清姫（一分五九秒）（武田）2村雨（安部）3松風（岩朝）▼配當（單）三十五圓（複）1十一圓2五十圓3頁馬配當一圓十錢

▲第二競馬（外來抽籤一八〇〇米）1撫順扶桑（二分三六秒）（成國）2滿龍（柳田）3飛龍（金星）▼配當（單）五十圓（複）1十九圓二十錢2二十六圓五十錢3十七圓

▲第三競馬（春抽一〇〇米）1武藏野（二分二八秒）（古家）2嵯峨（安部大）3若櫻（二渡）▼配當（單）五圓七十錢、頁馬配當二圓七十錢（複）1五圓五十錢2八圓三十錢3八圓

▲第四競馬（抽籤古馬一八〇〇米）1安東豐（二分二五秒五分二）（長友）2小極東（小川）3丹國（矢山）▼配當（單）五圓六十錢（複）1五圓三十錢2六圓二十錢3七圓六十圓

▲第五競馬（賽馬場抽籤馬二〇〇〇米）1隆龍（二分三四秒五分二）（吉永）2白峰（甲斐）3功（井內）▼配當（單）三六圓二十錢（複）1六圓十錢2五圓九十錢3五圓二十錢

▲第六競馬（撫順春抽一八〇〇米）1五十鈴（二分三二秒五分一）（中野）2天鼓（折田）3大天狗（田內）▼配當（單）十四圓九十錢（複）1七圓十錢2九圓三十錢3二十圓二十錢

▲第七競馬（抽籤古馬一八〇〇米）1安東白龍（二分二六秒五分一）（佐伯）2日本一（橋本）3初緣（石川）▼配當（原）七圓十錢（複）1五圓九十錢2十一圓十錢3二圓八十錢

▲第八競馬（抽籤古馬一八〇〇米）1晴山（二分二五秒）（門）2武藏（古家）3乙女（山添）▼配當（單）七圓五十錢（複）1五圓二十錢2六圓3七圓八十錢

▲第九競馬（古呼馬二〇〇〇米）1吳櫻（二分三一秒五分四）（矢山）2錦貝（門）3一流（田內）▼配當（單）八圓九十錢（複）1六圓四十錢2十一圓二十錢3八圓五十錢

▲第十競馬（抽籤古馬二〇〇〇米）1富士（二分三七秒五分二）（井內）2九州（野崎）3天公（門）▼配當（單）八圓（複）1五圓八十錢2五圓七十錢3十四圓八十錢

▲第十一競馬（外來春抽二〇〇〇米）1飛虎（二分三九秒五分三）（金星）2春洋（田內）3山彦（木村）▼配當（單）六圓十錢（複）1六圓四十錢2十一圓八十錢3十五圓三十錢

▲第十三競馬（抽籤古馬一八〇〇米）1豐川（二分二五秒）（中野）2日輪（石川）3南州（岡）▼配當（單）十四圓二十錢（複）1六圓六十錢2六圓七十錢3三十一圓二十錢

▲第十四競馬（春抽二〇〇〇米）1萬龍（二分四四秒五分二）（一郎）2光春（金星）3若春（橋本）▼配當（單）五十圓、頁馬配當三圓（複）1十二圓二十錢2五圓三十錢3六圓七十錢

飛行機上から 爆彈投下演習
大石橋の海軍記念日

【大石橋】我が帝國民の忘れむとして忘るべからざる五月二十七日これぞ日本帝國海軍記念日而も本年は日本海大海戰三十周年に當り躍進日本の非常時に直面する事とて、國民的覺悟を强調する爲め大石橋においては記念行事を左の如く決定實施する事となつた

一、日時　五月二十七日午前八時
二、場所　國旗揭揚場
三、式次（イ）開會の辭（ロ）軍艦旗並にZ旗揭揚國歌合唱（ハ）式辭（ニ）遙拜（ホ）萬歲三唱（ヘ）神社參拜（ト）閉會の辭
四、爆彈投下演習見學
1、日時　午前九時半より
2、場所　大石橋飛行場、滿洲國海邊警察隊の飛行機に依る爆彈投下演習
五、記念講演會
1、日時　午後七時半より
2、場所　大石橋小學校講堂
講演者　帝國軍艦藤艦長海軍大尉宇垣環氏、演題「軍縮と國民の覺悟」

瓦房店の行事

【瓦房店】瓦房店における海軍記念日の行事については廿三日午後一時より地方事務所會議室において市民會開催左の如く決定した

午後零時半より神社境內において國旗及海軍旗の揭揚式を行ひ君が代合唱二旗に對し敬禮、二十秒默禱中根市民會長の挨拶、谷本警察署長の發聲で大日本帝國萬歲を三唱し、守備隊長の發聲で大日本帝國海軍の萬歲を三唱し、午後一時十五分より海軍旗を先頭に市民會長、警察署長守備隊長、在鄉軍人分會長は乘馬小學生樂隊、日滿小學生、青年學校生徒、在鄉軍人、國防婦人會の順序で目拔きの市街を旗行列日滿グランドにて市民會長の發聲で萬歲を三唱して解散、午後七時より俱樂部講堂にて講演會を開催、梅原分會長の開會の辭旅順要港部司令部機關少佐井上斎氏海軍戰鬪の過去及び現在と題して講演後、河野堀越兩氏の琵琶演奏會を開催の豫定

鹽務視察團

【營口】營て日本鹽務行政視察の途にあつた營口鹽務署長孫旭昌、同赤峰支署長金泥瀾氏及び財政部木村事務官等の一行は豫定の旅程を了へ二十四日午後九時三十八分着列車で歸署した

營口の敬老會 盛澤山の催し

【營口】昭和御大典記念の營口敬老會は本年が丁度八回目である二十五日午後六時から營口座において在營口七十歲以上の老人三十二名を招待して慰めようと地方事務所社會係中心となつて一般市民有志が老いを敬ふ會が開催された、開會前には附添同伴入場を終り定刻前田總務委員の開會の辭に引續き餘興に入つた

熊岳城父兄會

【熊岳城】熊岳城小學校父兄會では二十四日午後七時市民俱樂部において評議員會を開催して左記の件に就いて協議した

一、會長副會長推薦の件
二、昭和十年度豫算の件
三、贊助會員の推薦の件

本協議に依つて新會長として岡島氏、副會長として從前通り湯川秀夫氏を推薦し就任せるが今會議を以つて辭任した舊父兄會長鷹野鶯雄氏は父兄會長に任ずること過去十有餘年間勤續して居り、幾多の功績をあげ各父兄より信用厚かつたが今年を以つて一先學校との緣が切れ辭任の止むなきに至つたもので各方面から非常に惜しまれてゐる

なほ本年は贊助會員として鷹野鶯雄氏が推薦された外宮島孝三氏、小林定義氏の三名が擧げられた、また最後の十年度の豫算は左の通りで承認された

一、收入　三〇二、八〇（內譯）
（イ）前年度繰越金七一、八〇、
（ロ）會費二三一、〇〇
二、支出　三〇二、八〇（內譯）
（イ）兒童分庫補助費九二、九五
（ロ）體育奬勵補助費七〇、〇〇
（ハ）學藝奬勵補助費七〇、〇〇
（ニ）修學旅行補助費三五、〇〇
（ホ）雜費二四、八五

大楠公六百年祭
各地で盛大に執行

營口 五月二十五日午前九時より營口神社南苑にて大楠公殉節六百年祭は執行された朝來薄曇の空に薰風颯々と吹き渡り境內に集まる人々は往古の大忠臣楠公を偲びつゝ待つ間程なく福島神職の祭典開始を報ずるや各自南苑に整列小學兒童を始め折柄碇泊中の驅逐艦藤は半舷上陸してこの式に列し國防婦人團體營口市民の重立たる人々嚴かに神職の捧ぐる祭文に始まつて市民代表前田地方事務所長の玉串奉奠次いで藤艦長宇垣大尉の玉串奉奠にて典儀を終り引續き神社大前に整列右六百年祭儀の奉告祭を執行したこの六百年祭典に就て新京地方事務所長武田胤雄氏より白地に菊水の紋所と非理法權天の五文字を現した大幟を奉納された（寫眞は營口神社の祭典）

鞍山 二十五日大楠公の六百年祭を迎へ當地では鞍山健兒團主催の下に午後七時から富士小學校講堂にて「詩吟と琵琶の夕」が催され

△大楠公田中和光、同上野千代松△楠公父子坂梨虎生△大楠公田中正右衛門△本能寺田吹克巳△小楠公木場千代春△十五夜一時廠田十米人△楠公川崎俊郎外六反正春、太田修平、野村數雄上杉篤丈諸氏の朗々たる詩吟や川崎、谷兩氏の鍛錬楠公等が演ぜられ又琵琶では△帝國落ち中島旭影△楠中佐榮富昇光△河內の宿法國院酒井旭心

等若く低く薰風流るゝ初夏の宵にふさはしく南朝の大忠臣楠公父子の忠義に滿堂を感泣させかくユ最後に昭和製鋼所顧問小柳津陸軍中將の「大忠臣楠公父子」の講演あり大盛況裡に午後十時頃散會したが稀に見る意義深き催しであつた

熊岳城 全國一齊に最も盛大に催される二十五日の大楠公六百年祭に際し熊岳城でもと、尾崎校長は何んとか兒童の爲に最も有意義な催しを試みて往時の大楠公を偲ばせたいと云ふところから遂に此の日の記念祭に相應しい催しが二十五日も學校で開催されて盛大を極めた、即ち自治會學藝部主催に依つて各學年より一名づゝ雄辯家を選出して大楠公に關する演說會を開き今日の意義深い記念祭を飾つた、尚午後一時より學校全體で紅白角力大會に移り大いに意氣を鼓舞するところあり最後に天皇陛下萬歲我校萬歲を三唱して目出度く終了した

瓦房店 楠公六百年祭典は敎化聯盟主催五月二十五日午前十一時より瓦房店神社にて擧行した

開原 楠公六百年祭遙拜式は二十五日午前八時から小學校兒童青年團在鄉軍人國防婦人會員はじめ官民多數參列、若葉薰る開原神社において盛大に擧行された、午後七時からは青年團在鄉軍人分會主催の下に講演會を開催誠忠至孝の楠公父子の遺徳を景仰した

解註謠曲全集

〔豫約大募集〕

全日本、觀世二百五十萬、寶生百五十萬其他諸流……

五百萬人の合唱

あゝ、その歌聲の何と健康に明朗に强國日本の未來を約束するよ

補益深大（一家に一冊）

觀世左近（觀世流宗家）

今日謠曲の流行は恐らく前代未聞といつてもよい程の状態であるが、眞實に謠曲を理解することは決して容易な仕事ではない。殊に地方僻陬の地に在る人は自然演能を觀る機會も少いであらうし、また文學的に内容から研究する便宜なども乏しいであらうし、吟唱の技術だけでは、兎に角師範者に就て習得されることにはなつて居るが、謠曲はもともと能樂といふ綜合藝術の一部であり、舞臺操作の關係と文學的理解に依つて初めて正確な知識が得られるものであるから、此の「解註謠曲全集」はその方面に於て謠曲愛好者を補益する所深大であり、一人一揃へは必ず持つてゐてほしいものである。

先づ初つ端なからこの大感激

あの花やか艶やか眩しさの一切をいぶしにかけ幽幻閑寂な大藝術境を獨占する萬邦冠絶・文化日本の誇りである謠能―本全集はその絶妙な醍醐味を可能ならしむる坩堝である。われ〳〵日本人には正に魂の糧生活の伴奏である

昭和聖代を蓋ふて美しい不死鳥は舞ひ上つた即刻捕へて身の幸をまもれ！是ぞ一家に一冊、家の護り。一家擧つて樂しめる全集。

本全集は是に生命を吹込む唯一の寶庫

著者は謠能に於ける日本一の權威正に超文學博士と申し上げやう。

野上豊一郎氏 畢生の熱著

★この全集を座右に置かないで觀能したり吟唱したりするやうな無茶な眞似は假初にもしないでゐませう。
★本全集の有無はあなたの教養の程度を測る標準です。
★即刻活用できる美辭句の大集團。
★「萬葉」「源氏」「芭蕉」等と並んで日本古典の絶對的誇り

全六巻 各巻毎に表装装幀を異にせる豪麗版 各冊二円・一揃ひ一時拂ひ僅か拾円

内容見本全國有名書店にあり御申越次第進呈

一流出版社による一流の全集

謠曲普及會會長 伯爵 松平賴壽

萬邦無比の藝術として今や五百年の生命を續けてゐる。而も是が最近一般人士の間に流行してゐることは室町・桃山・元祿の盛事を遙かに凌ぐものがある然し謠曲はその意味を知つて謠つてこそ眞の味はひが出るものなのである。その意味に於て今回野上氏が一流出版社である中央公論社から「解註謠曲全集」を出版さるることは眞に喜ばしく、特に此の全集が能を見るが如く讀み得るやうに出來てをることは鬼に金棒である。現時日本古典復興の折柄、良心的で豪華低廉な本全集を持ち得る事は、第一線的王道出版として江湖に奬めて憚らない。

絢爛たる實物第一巻は全國名書店に既に在りて諸君を待つ！

＝申込方法至極簡單＝

オール日本待望の未曾有の名篇竟に出づ

東京駅前・丸ビル 振替・東京三四 中央公論社

健康たれ！

健康こそは人生最大の寶です、總ての幸福の根源であります。初夏清爽の今、健康者の能率は自ら驚く程でせう健康の持續と獲得は疲れコリ痛みの蓄積を防ぎ速かな除去に有ます

妙布は疲れやコリや痛みを除き治すに最も効ある全國的信用を得た有名なる家庭常備藥です忘れずお備へを

妙布

主効
肩腰のコリ
リウマチス
うちみ
神經痛
過勞の痛
乳のコリ
胸咽喉の痛
筋肉の痛

定價 二十錢 三十錢 五十錢 一圓
◎各藥店にあります

本舗 株式會社 渡邊輝綱藥房 東京市麻布區霞町二十一番地（振替東京四六〇七番）

腸疾患治療は乳酸菌療法で

乳酸菌を應用して腸内に起る腐敗及び有毒なる異常醱酵を絶止し有害なる細菌を死滅せしめ、毒素の腸内吸收を阻止する療法は腸疾患に對する種々の治療法のうち、その奏効の合理優秀なる点、安全無害にして副作用なき点、に於て多年醫界に賞用されてゐます

下痢の消退 整腸殺菌作用及び腸内清淨作用により下痢を消退し腸機能を正常に復せしめます。且つその作用は激性の藥物と異り奏効圓滑、連用により腸を强化せしめます。

快適の便通 整腸と共に消化を催進し、又腸の蠕動官能を旺盛ならしめますから常習便秘を治し、又鼓腸・腹部雷鳴を去り、心身を爽快に導きます。

榮養の増進 整腸消化作用の奏効により、食思を亢進せしめ、且つ榮養分の吸收を佳良ならしめ、ひいては合併症状に對する治癒を著しく好轉せしめます。

適應症 腸カタル（急性及び慢性）、醱酵性下痢消化不良、常習便秘、鼓腸、小兒下痢、綠便、動脈硬化、老衰、神經衰弱等の治療と豫防に

……粉末と錠劑あり、各地藥店に販賣す……

乳酸菌製劑 甘美味にして服用容易なる

ビオフェルミン

發賣元 大阪市東區道修町 株式會社 武田長兵衛商店
製造元 神戸市林田區二番町 株式會社 神戸衛生實驗所
關東代理店 東京市日本橋區本町 株式會社 小西新兵衛商店

家庭の常備藥 糖衣 **アドース錠**

下痢症腹痛には飲めばすぐ効く

至ル所ノ藥店ニアリ

大瓶小瓶の二種あり

毛髮に營養を與へ艶やかな色澤を加へる

毛髮營養料 **ベジリン香水**

フケを取り、カユミを去り、脱毛を防ぐて卓絶した効果を持つ毛髮營養料として有名であります。ベジリン香水は

到る所の著名雜貨店・小間物化粧品店・藥店及消費組合にあり

東京 リーガル商會 滿洲總代理店 大連私書函百二十二號

防水マントは 絶對漏らぬ完全保證付

連鎖街 **元氣洋行** 電話三・二三三九番

セトモノと世帯道具は 牧川洋行

イワキ町 電二・四四一九番

育兒には品質賣行共に第一の

無糖粉乳 桃源樂

ラクトーゲン

單に粉ミルクと稱しても其の品質は決して一様ではありません 一封度二圓以上の高級品から七八十錢の安價品まで種々あります ラクトーゲンは蓋し粉乳としての最高級品であることは今更申上げる迄もありませんが育兒用としても價格以上の價値を持つと云ふ事實は過去無數の實績に於て明示して居ります

發賣元 大連市山縣通六七 乾卯商店大連支店
製造元 奉天浪速通三九 英瑞煉乳公司

進呈券

見本罐・匙・育兒の本を差上げます何れかへ御送附の方にラクトーゲン缶の切抜券上部拾五錢と共に左記

御姓名
御住所

自轉車に自働式の **ナショナル發電ランプ**

松下電器

スポーツ

オール大連の編成 人氣が湧かう

要は選手の意氣込み次第だ

實滿戰を語る (十一)

井上　さう編成してから少し練習をするといゝですね。練習といつても一日や二日でうまくいかないことは分りきつてゐますが心の持ちやう、練習次第では案外短い時間で理想的なピックアップチームが出來るかも知れませんよ。大事な試合ですからピンチに臨んだ時とか、この一打なんといふ時はあの人が居ればなんて、欲しい時が必ずあると思ひますね。

安藤　實業團の出場した時に、こゝで山下君が欲しいなと心から思つたことがありましたよ。

宮崎　全くさうだつたね。

福山　田村さんのいつたやうに投手によつてバックも種々變化があるのですからうまくいきませんよ。また山下君だつて絶對的なものではありませんからね。

安藤　然し誰をといふことになつたら、少くとも一地位は出來るからね。

福山　私はさういふ場合に、果して出場を求め得る氣になるかどうか疑問に思ひますね。勿論統率者の決斷にあるのですが、果して決斷出來るかうたがはしいものです。

井上　さうですね。殊に出場を求められた選手が、このピンチに俺は借り物だなんて思ふと責任の重大を痛感して、固くなつたりすると却て悪い結果になりますね。またそんな責任を負はされる本人にとつても氣の毒ですね。

井上　然し結果に於て悪い所があつたからつて、例をあげるのはよろしくないですね。

田村　その通りです。實際問題を論じてゐるのだが、まあさういふところもあつたといふわけです。

井上　どうです。今年都市對抗に行く前に試みに一ぺんオール大連を編成してやつて見たら。

福山　さつきもいふ通り、種々となつて決斷力があるかどうか、若しそれでなかつたら連れて行つても無駄ですよ。

村田　違つたチームにピックアップされた人は非常に責任が重くなりますね。さういふ空氣の中では和やかにやれませんよ。

米野　都市對抗の前に何か强いチームが來ますか。

福山　それまでに六大學のどれかゞ來る筈ですが。

村田　早速今年オール大連で一度やつたらどうです。

岩瀬　現在の六大學は餘り强くありませんからね。

田村　職業團のやうなチームだつたら金でかはれるのだから、給料のためどうでもなるが、アマチュアの時はさういきませんよ

宮崎　ぢやあ、大連を背負つて立つてゐるのだと考へてやればいゝぢやあないですか。滿倶のためとか、實業のためとかいふのでなく、都市對抗に出るのは大連のためですからね。だから俺は傭兵だとか、傭兵を使ふといふのではなく、何んとかして大連のために勝たうと力を合せればいゝんです。さうなれば心配するチームワークだつて吃度うまくいきますよ。

宮崎　それからオール大連にすると實滿戰に對する熱がうすくなるといふが、決してそんなことはありませんよ。都市對抗は都市對抗、實滿戰は實滿戰で別個のものです。却て人氣は沸くだらうと信じます。

米野　色々と有難う御座いました。夜も更けましたからこれで座談會を打切ります。(をはり)

實滿戰懸賞投票用紙

【問】實滿何れが何回で勝つか?

【答】

住所

姓名

實滿戰懸賞募集

投票規定

▼投票用紙……本紙刷込用紙に限る

▼投票締切日……六月十四日まで

▼投票場所……大連市東公園町滿洲日報社販賣部宛

▼當籤發表……六月三十日附本紙朝刊

課題

一、何れが何回で勝つか?

二、リーディングヒッターは誰か?

賞品

第一課題

一等　金時計(一名)

二等　電氣スタンド(三名)

三等　滿日購讀券(五名)

第二課題

一等　冷藏庫(一名)

二等　硝子セット(三名)

三等　日傘(五名)

主催　滿洲日報社

日本棋院 大手合戰譜【四十局】

先番 三段 加藤三七一

先相先 二段 伊藤清子

制限時間各七時間(但し一分以内は切捨)

いろはにほへとちりぬるをわかよたれそつ

一二三四五六七八九十十一十二十三十四十五十六十七十八十九

—【1】—

●一はノ四　○二たノ三(4分)　●三にノ十七　○四ほノ三

●五れノ十六　○六はノ十五(2分)　●七にノ五　○八はノ十(4分)

●九よノ十六(3分)　○一〇れノ六　●一一たノ十一(10分)　○一二とノ十七(4分)

●一三ほノ十六　○一四ぬノ十七　●一五りノ三(4分)

所要時間累計(白二十九分 黒十七分)

白遲刻のため十五分引

對局者の言葉

(黑)一、三、五の秀策流を取つて堅實を期しました

(白)八までは從來屢々打出されたものですが、此手で(へ十六)に大斜にカケるのも一法とされてゐるますが—

(黑)九で左上隅(れ五)にカヽツて行くのも勿論成立します

(黑)十一で直ちに十五にハサむのもありますし、十三にコスンで左邊と上邊とを見合ふのも一策でした

(白)その黑十三に對しては下邊に割打ちして矢張り上邊と左邊とを見合ふ積りでしたが—

(白)十二、十四の趣向が疑問でした、上邊(ぬ三)にヒラく位のものでせう

(黑)十五とハサむことになつては分り易いかと思つてゐました

戰の跡

加藤三段は信七段を見とするだけに、棋才に惠まれた逸材、中年から斯道に志した者としては、一時異常の進歩を見せたのであるが、近來少しく停頓の形なのはどうしたものか、切に再起を望んで止まぬ、伊藤二段は喜多五段門下の閨秀棋士、川田姓の昔—と云つても古くはないが—即ち初段當時は腕力を以て鳴らし、男棋士をして怖氣をふるはしたものである、伊藤氏に嫁してから、棋が大分おだやかになつたといふ評判だが、盤上の斷判は又格別、對御良人關係と同一視は出來まい◇黑一、三、五—全くの正統派を標榜しての善戰法は、恩師喜多五段の衣鉢を傳へるものか、淸子夫人の棋は概して新様式を繪はぬ所に特長を有する◇白十まで常に見らるゝ布石、古來幾度繰り返された事であらうか◇黑十一の時代から對局心理が反映され、對局者の個性が次第に發揮されて來る、かく高くヒライたのは、次ぎの(れ八)のツメを(れ十一)の低きより一層有力ならしめんとするもので、少しく新味の盛られた著手で近代型の一つと數へられる◇白十二は對局者の言葉の如く上邊(ぬ三)のヒラキが先決問題、譜の黑十五までの手順を變へて考察するに、白十二で十四に打ち黑十三の時急いで白十二とツメた結果に等しい、この白十二のツメでは當然(ぬ三)を占むべきである、この白十二で(ぬ三)にヒライたとしても、黑は十三にコスム位のものだから、そこで白十四と割打ちして違くはない、譜の白十二のハサミから打つたために、黑十三の時十四のヒカキが省けず、黑に十五とハサマれる手順になつては、黑の打ち易い棋勢と見られる

ラヂオ 廿七日

新京百キロ(MTCY五六〇KC 午後六時—一〇時迄)

六・〇〇(東京)ニュース

六・二〇　政府公報(滿語)

六・三〇(東京)講演「日本海海戰を回顧して」海軍大將小林躋造

七・〇〇　講演「時局と帝國海軍」駐滿海軍部海軍大佐龍崎留吉

七・三〇(東京)ラヂオ・ドラマ「蘇魂歸る」(出演)英太郎、柳永二郎、大矢市次郎、伊志井寬、村田正雄、若井信男、山田巳之助、白河靑峰、吉岡啓太郎渡邊一郎、花和幸一、市川紅梅他大勢及擬音音樂等

八・〇五(東京)吹奏樂一、海軍記念日の歌二、護國の軍神東鄕元帥三、接續曲「勇敢なる日本兵」海軍軍樂隊(指揮樂長)內藤淸五

八・三〇(東京)時報、ニュース

八・四五　ニュース、經濟市況、氣象通報、番組豫告(滿語)

九・〇〇　蒙古事情特別講座「外蒙事情」第六講(滿語)蒙政部行政科長瑪尼巴達喇

九・三〇(哈爾濱)舊劇「應華山」(唱)王雲鵬、子天壽、朱富祿(場面)陳慶元外五名

一〇・〇〇(哈爾濱)北滿の時間(露語)

大連(JQAK 六五〇KC)

午前の部

六・〇〇(新京)ラヂオ體操「建國體操」(滿語)

六・一五　ラヂオ體操(日語)入港船のお知らせ

六・三〇　初等滿洲語講座「テキスト第四十九課」滿鐵學務課秩父固太郎

七・〇〇(奉天)初等日講話、奉天南滿中學堂近藤喜助

午後の部

一・〇〇(哈爾濱)滿洲戲劇(淸唱)一、打漁殺家二、斬黃袍、(唱)于月明(胡琴)傅鈴祥(南絃)王琴軒(鼓)陳慶元

五・〇〇　子供の時間=大連埠頭碇泊驅逐艦「海」艦上より中繼=軍歌一、海軍記念日の歌二、日本海々戰の歌三、記念艦三笠の歌四、軍艦マーチ、驅逐艦「海」乘組兵員

五・三〇　講演「觀相學の原理」中司哲巖

◆…海軍の夕…◆

六・三〇　新京百キロと同じ

七・〇〇(東京)海の歌謠曲(一)イ、海國大日本ロ、海軍ぶしハ、護れ太平洋ニ、名譽の信號旗ホ、躍る黑潮=市丸、勝太郎、小野巡(合唱)ビクター合唱團(伴奏)ビクター管絃樂團(二)イ我等の海軍ロ、海の護りハ、俺は水兵ニ、いきな水兵さん=中野忠晴、小梅(三味線)三代吉喜美榮(合唱)コロムビア合唱團(伴奏)コロムビア・オーケストラ

七・三〇—八・三〇　迄新京百キロと同じ

八・三一　箏と尺八一、新日本音樂「春の海」(箏)小笠原松子(尺八)名和榮次郞二、琴古流本曲尺八「鶴の巣籠」(シテ)名和榮次郞(ワキ)本瀨…

坂口 塚田 三番將棋(第一局 の二)

平手

先 五段 坂口充彥

五段 塚田正夫

【圖は六二銀迄の局面】

△塚田氏 持駒 なし　▲坂口氏 持駒 角

△七八金　△四七銀　△六八玉　△六六歩　△五六銀　△六七銀　△五八金

▲七四歩　▲四二玉　▲七三銀　▲八四銀　▲七五歩　▲五二金　▲七六歩

△同銀右　▲六四歩

累計三十二手

講評　土居八段

▲塚田君の七三銀以下棒銀の型は一方に偏して味がない、六四歩以下五四へ銀を繰り出し、敵と同樣に腰掛銀の戰法を用ひて、動靜を窺ふ方が優る。

△坂口君は敵の七五歩に對し同歩と指しては、銀を捌かれ八筋で交換さるゝ懼れあるを以て、六七銀と退却したのは、味ふ可き定跡手筋である。

▲して見ると塚田君は、敵が相手にして來れないと見ると面白くなかつた、寧ろ九五銀の方が善い。

觀戰記　七段 萩原淳

◇塚田氏常道を避け敵の意表に出る

塚田氏の七四歩は、六四歩、四七銀、六三銀、五六銀、五四銀と對抗する順では持久戰となり、而も先手得は必ずや殘るものと見てそれを嫌つてであらう七四歩から七三銀と變化に出た。これは敵を見てのいはゆる臨機應變の對策と見るべきであらう。

坂口氏の六六歩は、次に五六銀と出て、譜のやうに六七銀の含みと、敵の六四銀に備へるものである。

塚田氏の八四歩は、六四銀では五六銀、七五歩、六五歩で悪い。そこで八四銀と出て、次に七五歩と仕掛けたのであらう。

坂口氏の六七銀は、七五同歩では同銀、七六歩、八六歩、同歩、同銀、同飛となつて面白くないから、六七銀と引いて、敵の八四銀の捌きを防いだのである。塚田氏の七五歩は、九五銀では八八銀と引かれて、矢張りこの銀が捌けない。

ラヂオ相談

散髮屋の電氣バリカンが邪魔をする

【問】近所に散髮屋があつて時々電氣バリカンを使用するのですが、その都度烈しい雜音が混入して折角の放送が中斷されて了ひます。他所で試驗の結果機械には故障がなささうです、何とか適當な方法はないでせうか(伊勢町生)

【答】二つの方法がある

電氣バリカンも新品ですと大して妨害はないのですが、古くなりますと妨害が烈しくなります。この場合電氣バリカンに雜音防止裝置を施す場合と受信機側にフキルターを挿入して雜音を除去する方法とありまして大體防止出來ます、この種聽取障害に就いては直接放送局技術係に電話なり、書面にて御通知して頂きますと相當の方法を講じます(電々會社・係)

滿日敗退聯珠(第三局の二)

先番 三段 石田溪山

後手 六段 中村成文

(中村氏一人勝二人目)

說解 六段 川口直樹

常勝の勇者、奧村君の兼防を見事退けて、堂々と凱歌をあげ得た中村成文六段、次は今賣り出しの新進氣鋭、其の過剩たる珠魂に將來を望まれてゐる石田溪山三段の先手番に對す。石田君は現在樹球本社の中堅として專ら實戰界にのみ雄飛し、雜誌戰に、新聞戰に縱橫の手腕を奮ひつゝある青年珠客で、其の透徹した讀みの堅實さは他の追從を許さない、獨自の境地を開拓してゐるといふから、とてつもなくガッチリした三段ではある。手合は勿論石田君の定先で、珠型を豫定すると七間打と出た。中村六段、暫く考へてゐたが、やがて、力強くうなづくと、言葉は靜かに「長星をお願ひします」と云ふ。石田君は「それ來た」と豫期せるものゝやうに手早く黑三珠迄置をく—白四珠は豫定の行動であらう、黑五珠は(甲)の定石の手だ。さア愈々戰ひは開始された。果して兩氏如何なる健鬪振りを示すか?鬼に角期待の出來る一局ではある

忘れられてゐた 面白い問題

懸賞 誰が一番頭を使ふか？

本廣告を全部御熟讀の上皆さんでお考へになつて左の五項のうちいづれにか御投票下さい。

◆一家の奥樣（家庭の主婦）
◆學徒（大中小學生、科學者、研究家、教育家）
◆執務家（銀行會社商店員、實業家等）
◆棋客（圍碁將棋界の人）
◆藝術家（文士、畫家、音樂家、彫刻家、俳優）

賞金

一等 百圓 三名
二等 三十圓 十名
三等 十圓 三十名
四等 五圓 五十名
五等 一圓 五百名
等外 はれやか待針 殘り全部

規定

○上記五項目のうちこれぞと思ふ一項を回答用紙に御明記下さい。○はれやか空箱又は官製ハガキか廣告の掲載された新聞。新聞での回答は自分の信ずる項へ◎印をつけあとの項目は棒を引いて帶封二錢でお出し下さい。はれやか空箱は開いて中の白い所に書き開封三錢切手を貼る事 ○投票者多數の場合は抽籤にて各等入賞者決定 ○締切―來る六月末日 ○宛先―東京銀座一ノ八三 日獨醫化學研究所懸賞係

私が實行してゐる 頭腦の調整法

東京高等工學校副校長 工學士・經濟學士・法學士・文學士・商學士 有元史郎先生

多數の青年學生を預り讀書、講義や執筆に日頃殆んど寸暇もない生活を繰返してゐる私は、頭腦の過勞から頭痛めまひに襲はれたり、不眠に苦しめられたりすることが稀らしくなかつたが、今まで別段氣にしたこともありませんでした。

◇

ところが最近『四十過ぎの頭痛は、腦溢血の前兆である場合が多い』といふ説を屢々聞かされるので反省して見るとなるほど私の知人で常に頭が重いとか、立ち暗みして困るとか云つて居た人々で、突然腦溢血で急死するのが尠くないのに思ひ到り、まことに慄然としたことであります。』

◇

以來頭の疲れに對して無關心で居られなくなつた私は色々と頭腦養生の道を講ずる心持になつたのですが、偶々此の時人から『はれやか』を奬められました。

服んでみると今迄試みた事のある頭痛藥と違つて胃腸に副作用がないらしく、頭の蕊から晴れ〳〵として頗る爽快に感じられるので常習性の頭痛で惱んでゐる家内にも試みさせて見ましたらとても効いたと大喜びです。今では私も家内も持藥のやうに愛用し、周圍の人々へもせい〴〵奬めるやうにして居ります。

附記

頭を使ふ時間が多いか、身體を使ふ時間が多いか――ちよつと答へにまごつく質問のようでもありますが、せちからいそして忙がしい現代に生活して行く我々は誰しも身體より頭の方を遙かに激しく使つてゐるのであります。

然るに私どもお互が身體が瘦せたり病氣したりするとすぐ榮養食とか榮養劑とかを考へるのに、頭腦の養分が缺乏して頭痛めまひがしても、神經衰弱ヒステリーになつても、今まで一度として頭に榮養を與へる事を考へたためしがあるでせうか。

それどころか痛みや不快から早く逃れることばかりに氣を取られて熱さましや解熱劑の主配されてゐる一時的な頭痛齒痛どめを濫用し、胃腸障害を招くぐらゐが精々だつたのであります『はれやか』は斯うした點を非常に憂慮した日獨藥化學研究所が頭腦補强の立場から腦細胞素であると共に、頭を働かす原動力になる燐及びカルシウムを根幹に頭痛齒痛に早くきく數種の藥と健胃整腸劑を巧に集成する研究に成功して新製された頭の榮養藥であります。

本劑の特長は今までの頭痛藥の最大缺點たる胃腸障害の副作用がないばかりかあべこべに胃腸を丈夫にしながら腦神經へ充分養分を補ふので頭痛齒痛、ヒステリー神經衰弱をはじめ、各種の腦症狀へ病因的な好作用を以て働きかける關係上効が頗る永續する點です。特に胃腸や風邪に基く頭痛、めまひ、二日醉などには又とない適劑であります。

因みにはれやかの藥價は粉末錠劑とも
三十錢 五十錢 一円 二円 三円 五円
――全國各地藥店にあり。

露艦隊殲滅の刹那
ス號の悲慘なる最期

海軍中將　佐藤鐵太郎

五月二十七日敵艦隊と遭つたとき第二艦隊は第一艦隊の後に居て第一艦隊が如何なる行動に出るかに就いてかなり氣に掛けたが、如何にも東郷艦隊が危險と評してもよい位に取舵を取つて敵艦隊に突入するやうな形で進むので何ともいへない愉快な感に打たれた、チヲと見て居ると敵彈が三笠に集中するので大分心配した、そのうちに後續艦が追々と進んで殿艦が漸く針路を轉ずるやうになつたとき第二艦隊は如何にすべきかといふ問題になつた、これが常ならば第一艦隊の通跡を進むべきであらうと思ふが、その時距離の關係と第二艦隊の主砲の口徑の關係から見て一寸智慧を出して短く捷路を取るやうな形にして大きく舵を取つて迫つたのである

それからいよいよ兩方の艦隊の砲擊が開始されて第二艦隊は第一艦隊の後に着いて激戰に入つた譯である、第一艦隊が先に立つて敵の艦隊と砲火を交へて居る、第二艦隊も同樣敵艦隊を猛擊して居る、その時最初に着いたのはオスラビヤで右舷に迫つて隊列を出たといふことである私は當時ブリツヂにあつて眼鏡で見てゐたから大損害を受けて列を離れたといふことを明瞭に察することが出來たが、その次には轉じて敵の旗艦スワロフの行動を見てゐるとスワロフは急に取舵を取つたやうに見えたがそれは何か故障があつたやうな狀況で自分は心中非常に愉快に感じながら見て居た

伺も一生懸命に見て居ると山本英輔參謀が私の背後に來て「佐藤參謀（當時第二艦隊參謀中佐）信號を降ろして よろしうございますか」といふ、これは餘程妙なことで信號などを揚げさした覺えがないのに、さういふのである、不思議に思つて一寸見ると「八齊動」が揚つてゐる、これは第一艦隊が揚げたので、それに倣らつて揚げたのであらう、しかしその瞬間に於ては今この大切の場合に敵を遠ざかるなどは思ひも寄らぬことゝ思ふし、又第一艦隊に斯ういふ信號の揚つてゐるなどは夢にも思はぬので全く突嗟の分別として「いけない〳〵」といつた、そこで山本參謀も旗を降さなかつたがそれが爲めに非常に困ることになつたのである、何故かといへば第一艦隊は左八點の齊動をやつてゐるのに、第二艦隊はそのまゝ進むので妙な形になるのである、それで非常に困つた、その時下村（延太郎）參謀が

「このまゝで信號もしないでよろしうございますか、第一艦隊では第二艦隊も「八の齊動」をやると思ふでせう」

と言ふので、それに對して自分は少し、自暴自棄であつたと見えて「第一艦隊なぞ構ふものか」といつたやうに記憶して居る、しかしそのまゝでは向ふで解らない、こつちは次の旗を揚げて前の旗を降さなければならない、そこで私は下村參謀に向ひ「運動旗を揚げればそのまゝでよいではないか、第一艦隊など構ふものか」といはざるを得なかつたのであるが事態は容易でなくなつたのである。

☆

その頃スワロフの行動は目を離して居たからはつきりしなかつたが、とにかく敵艦隊は幾らか亂れてはゐるが、未だちやんとしてゐるので、あれを逃がしては堪らないと思つたので甚だ僭越とは考へたが、長官に「面舵を取つて敵を抑へたらどうですか」と申上げますと、上村長官は何の猶豫もなく直に「よからう」と愉快に返事された、艦長は待つてゐましたとばかりに殆ど同時に面舵をやつたのである、さうして出雲を先頭として第二艦隊は右方に急轉して敵の先頭に迫つたので直ぐに二千六百米といふ近距離になつてしまつた

その時は彈丸がまことに愉快にあたり、敵の艦隊は非常に亂れてしまつた、敵艦スワロフはメインマストを半ば折られ、フオールマストも打折られ、ブリツヂの近邊は滅茶々々になり煙突の如きは甲板の近邊から吹飛ばされたと見えて甲板から煙を吐いてゐる、中甲板の砲門からは火と煙を吹くといふやうに實に慘澹たる有樣であつた。

斯くして第二艦隊は敵艦隊の先頭を壓しつゝ大圈を描いて旋回したのであるが、この時敵艦隊の陣形は全く崩れ散り、ちりぢりばらばらになつてしまつた、が誰いふとなく「敵の間に淺間がゐるぞ」と叫ぶ者がある、なるほど見ると淺間が居るやうに見えるので、思はずも「淺間を擊つてはいかぬ」と叫んだのであつたが、渡邊清次郎といふ信號長が「あれは淺間ではありません、メインマストのヤードを御覽なさい」といふので、なるほどゝいつてまた擊つたが擊つてゐるうちに何かはつきり分らぬが怪しいから面舵を取らなければならぬといつて面舵を取つた、それはスワロフであつた、スワロフは前に火災を起してゐるので同艦をぐるつと廻つて來たときは我々は風上に居たから船體が見えたのであるが、今日風下より近づいたのである、何せ一種異樣の瘴氣がかゝつたやうに見えたので、何となくおかしいといふので面舵をとつて近づいて見るとスワロフのバウが見えた、そこで大いに驚いて直に舵を取つたのであるが僅かに二千二三百の距離で再び猛射を加へて通過したのである、さうかうするうちに第一艦隊が來たので再び逆轉して今度は第二艦隊、第一艦隊といふ順次になつたのである、暫くすると右舷のバウに當つて相當の距離のところに二つの隊があつて砲火を交へてゐるのが見えた、此の時長官の考へでは敵と味方が鬪つてゐるとすれば、第三戰隊か第四戰隊しかないから、あの間に分け入つて味方を掩護せねばならぬといふのでその中に入つた

そこで第一艦隊と別れてその方に進んだが、果して長官の豫想された如く第三、四戰隊であつた、第三戰隊が先に立つて來たが第四戰隊は大分危險なところに居つて高千穗の如きはずつと落伍して居つてまことに心配の狀態であつた、そこで第二艦隊は敵艦隊を壓迫して進んだのであるが高千穗も危險でない程度に遠ざかつたので第二艦隊も引返へさうとして居ると今度は右舷にスワロフが無殘な狀態で漂流して居たからその樣子を視察しながら第一艦隊に合同する如く針路を取つたのである

接敵艦見之警報聯合艦隊欲直出動擊滅之本日天氣晴朗波高

ROHTO

シマズ イタマズ

正しき高級眼科藥

ロート目藥

井上獨逸博士處方
中尾藥學博士指導

眼は腦を支配する！

度の合はない眼鏡をかけたり、或は長時間過度に視力を用ひた時、頭痛や、倦怠を覺ゐることは誰もがよく經驗する事である。これは卽ち眼が直接腦の働きに關係し腦を支配するものであることを明かに立證してゐるのである

斯かる狀態になることを醫學上では眼精疲勞と云ひ、近代人、特に細い文字を讀み書きする學生や事務家、或は長時間裁縫に從事したり、職業的に微細な物體を視る人等に多くある近代的疾患の一つである。

眼精疲勞に罹つた場合は、初めは眼が疲れ易く物が朦朧と見え、頭痛や頭の重い感じを覺える程度であるが、これが更に進むと睡眠が不良となり、判斷力や記憶力の減退をさへ告げる樣になる。この樣な症狀を自覺した場合は決して放任することなく、その原因となるべきことを避けると同時に、**ロート目藥**の如き健眼の効果のある、正しい眼科藥を毎日數回點眼して眼に休養を與へ之を愛護することが肝要である。

結膜炎

結膜炎といふのは結膜、卽ち眼瞼の裏及び眼球を蔽うてゐる結膜に起る炎症で、俗にはやり目、やに目、はれ目、ち目等と呼ばれてゐます。原因は**K・W氏菌**等の黴菌、塵埃、強烈な光線などで、

その症狀は輕い内は結膜の充血、眼脂の分泌、眼瞼の腫脹等ですがそれが重くなると、充血や腫れがひどく時には刺す樣な痛みがあり、又明るい光線に對してはまぶしくて眼があけられない樣になります。この結膜炎の療法としては毎朝洗面の時清水でよく眼を洗ひ、眼脂などの不潔なものを拭きとりその後で**ロート目藥**を一日、二三回點眼するのが有效です。**ロート目藥**はその殺菌作用で病原菌を殺し、消炎作用によつて炎症を散らし、收斂作用、鎭痛作用で充血や腫れを引かせ痛みを止める機能が綜合的に有效な働きをするのであります。

角膜炎

角膜炎は俗にほし目、つき目、かすみ目、たゞれ目などゝ呼ばれ、眼球の黑い部分に起る眼病であります。原因は草の葉や木の枝で突いた場合、或は結膜炎が進んで續發する場合が多く、黑目が濁つたり、白いほしが出來たりして眼が霞んで見え、或はひどく涙が出て眦に糜爛を起すことがあります。療法は大體結膜炎の項で述べた通りを實行すればよく、**ロート目藥**の優れた消炎作用は角膜の炎症に對して極めて有效に働きその收斂作用と相俟つて眼の曇りを去り糜爛を癒し、炎症の減退に從つて流涙は少くなり、鎭痛作用でその疼痛は抑へられるのであります。

適應症

結膜炎、角膜炎、トラホーム
學校眼炎、眼瞼緣炎、疲勞眼
結膜充血、角膜翳、麥粒腫等

〔俗稱〕のぼせ目、はやり目、たゞれ目、やに目
血目、かすみ目、ほし目、こり目、くもり目
雪目、めぼし、つき目、はれ目、かわき目等

小兒の眼病に就いて

二、三歲より七、八歲位までの幼兒に於てよく見受けることですが、朝起きた時眼瞼の周圍に眼脂が附着し、甚しきは眼脂の爲に眼が明けられないことがあり、又急に白眼の部分が淡赤く充血したりする場合があります。之れは多くは急性の結膜炎に罹つてゐるのであります。
お子樣方の眼疾治療には特に小兒專用として處方調製された「**小兒用ロート目藥**」が有效で、シマズイタマズ安心して使用することが出來ます。

新案特許

ロート式自働點眼容器

使用法說明
下部のキャップ（ネジ蓋）をとり、瓶の上のゴムを輕く押せば目藥は一滴づゝ出ます、藥が少しも無駄にならず便利衞生、經濟を兼ねた最新式の點眼容器です。

生產合理化
藥價低廉

小瓶	二十錢
大瓶	三十錢
德用	五十錢
小兒用	二十錢

◉全國各藥店に販賣す

本舖 **山田安民藥房**
營業所 大阪市東區南久寶寺町
工場 大阪市東成區猪飼野町

降ツたぞ降ツたぞ

全滿各地を潤す本格的な雨！

十年來の旱魃から救はれて 狂喜する農民の群

天后宮娘々様の御利益か雨乞ひ祈りの甲斐あつてか二十五日夕刻から降り始めた雨は、二十六日拂曉まで降り續いて

本年 初めての本格的降雨量を示し旱魃に飢餓線を彷徨せんとする南滿全土の農民を救つた本年の旱魃は十年來のもので既に高粱の種蒔きも遲れ南滿における高粱は絶望に陷つてゐるが、それでもこの雨によつて豆類等の種蒔きも出來、農民は僅かに安堵することが出來たのである

黄河上流にあつた七五四ミリの低氣壓が二十五日午後より下流に向つて移動を開始し、二十六日朝は青島の南東海上に出た、このため山東半島一帶は五、六十ミリ、關東州内は三十ミリ、南滿奥地は十ミリ、北滿は哈爾濱より海倫方面まで小雨をもよほし、全滿各地がうるほされたわけである

併しこの雨も二十六日午前十一時頃には低氣壓が黄海中央に出たため快晴となり

雨雲 は一掃されてしまつたが、ともかくも旱魃で雨乞ひ騒ぎのまつただ中に雨を得た農民は文字通りに狂喜してゐる

アト十日も遲れたら農作物は全然駄目

文字通りの慈雨

千葉豐治氏は本年の旱魃並に二十五日の降雨に關して次の如く語る

例年高粱その他の種蒔は四月一杯で五月上旬は全滿各地とも蒔き終り發芽を待つて樂しく娘々祭にでも參詣するといふのだが本年は全然雨を見なかつたため種蒔きが今日まで出來ず雨乞ひに狂奔して何事も手につかぬ有樣で、この雨がもう十日も遲れたなれば高粱のみならず、豆、粟その他一切の農作物が殆んど駄目になり、南滿農民は全く瀕死線上を彷徨せねばならぬといふ状態にあつた、幸ひに本格的な降雨を得て高粱は遲れてしまつたが、他の作物はまだ種蒔きの間に合ひ農民は救はれることになつた、文字通りの慈雨だ、今回の旱魃が南滿に限られ、北滿は幾分なりとも雨を得て時期通りに總ての種蒔きをすまし得たのは不幸中の幸であるが、全滿を通して本年の農産は相當の減額となるであらう

造林方面も一息つく

本年の旱魃は農産方面のみならず造林方面も多大の被害を受けてゐるが、關東大連苗圃の三年生「このてがしわ」の如きは枯れたものも相當あり、また松の苗も植付け總數の約六割しかもたず、失敗を豫想して苗植付けを行はなかつたものもあつた、同苗圃寺崎力太氏は語る

私の二十年間における苗圃生活中本年の旱魃の如きは未だ知らぬ程です、苗圃はともかく附近の菜園の如きは全く見てをれませんでした、井戸を掘つても水は出ず、天を仰いで雨雲を待つてゐる有樣は悲慘なものでしたこの雨でともかく一息ついたことでせう

一坪一升八合餘

新京も昨朝迄降る

【新京電話】夜半に至つて遂に恰好の慈雨となり二十六日の朝まで續いた、測候所新京支所に打診すると

今度の雨は十分だとは云はれないが百姓達に取つては大助りだ、雨量は九ミリ六で一坪一升八合四七だつた、大連附近は三十ミリばかり降つたらしい、今頃は氣候の變り目だから天候は不良で曇勝ちな日は少しは續くだらうが大降りになることはなからう

滿洲國皇帝 花瓶御下賜

【東京二十六日發國通】昨秋滿洲美術同人會と東方繪畫協會との同主催で滿洲各地に同國初めての美術展覽會を開いた際、玉堂、栖鳳、雲室等一流の日本畫家二十餘氏が滿洲國皇帝陛下に奉つた繪畫に對し此の程御紋章入りの銀製花瓶を御下賜になつたので二十五日午後一時上野美術學校講堂において其の傳達式が行はれた

チチハル國防婦人會 發會式を擧行

【チチハル二十六日發國通】チチハル居留民會主催の大野遊會は二十六日午前八時より龍江河畔において擧行されたが、これと同時にエプロン姿甲斐々々しく北滿第一線チチハル國防婦人會發會式を同所にて滿○團長、内田領事等出席のもとに盛大に擧行された

兒童愛護週間 奉天の行事

【奉天電話】幼兒兒童の健康增進を圖ると共に衞生に關する知識の普及並に精神の徹底を期するため滿鐵地方部主催の下に全滿各地において一齊に擧行される兒童愛護週間は從來春季「兒童愛護週間」秋季は「兒童健康週間」として相當好果を擧げてゐたが、今後は年一回とし名稱を「兒童愛護週間」と改め內地における同催しと呼應して大々的に擧行する事となつたが奉天における同週間は六月六日より十四日迄で催しは左の如し

一、赤ん坊審査會（七、八日）於秋町社員倶樂部

二、母の會（十二日）

三、幼兒の會（十三日）

四、各商店大賣出し（期間中）子供用品、玩具類

五、兒童慰安映畫會（七日より十四日迄）

六、齲齒豫防デー（四日）

なほ赤ん坊審査會に出場の資格は昭和九年五月六日より同十年三月五日迄の出生者で出場申込は六月三日迄に地方事務所社會係へ

各小學校において幼稚園兒、小學校下級生を集め童話會開催

本阿彌光遜氏

【撫順】在滿各部隊將兵の軍刀鑑定のため來滿中の日本刀劍界の權威者本阿彌光遜氏一行三名は來る二十九日來撫同日正午より撫順俱樂部館支店樓上大廣間において滿鐵地方部主催撫順刀劍會その他の後援で刀劍に關する講演を行ひ終つて刀劍の鑑定にも應ずると

武勳を遺して傷病兵凱旋す

昨日あめりか丸で

傷病凱旋兵當百九十四名が赫々たる武勳と幾多の想ひ出を殘して二十六日出帆あめりか丸で滿洲を後に懷しの母國へ凱旋した、埠頭には白衣の勇士を見送る在郷軍人會國防婦人會員、各小學校學生團はじめ一般團體、市民等がギッシリつめかけ華やかな凱旋風景を描いたが出帆に先だち小川大連市長は〃凱旋兵を送る〃の熱誠の挨拶を述べ、これに對し志摩廣吉大尉は一同を代表し感激に滿ちた答辭を爲しかくて凱旋軍人萬歳？の歡呼に送られた

なほ右凱旋兵中戰傷兵は古館少尉、佐竹安吉一等兵、渡邊正雄上等兵、古屋卯平一等兵、大島長之助上等兵、山當武平二等兵、滿越善四郎一等兵等である

留置場から 勇躍・檢査場へ

罪の青年に係官が涙の計らひ 水上署を繞る徴兵美談

適齡期の青年が犯した罪から留置場に入り、目前に迫つた大切な檢査のため特に涙ある係官の計らひで留置場から勇躍檢査場へ駈け付けた徴兵美談——市內吉野町二中川運送店員長崎縣生れ竹田德四郎（二二）假名は

十八歲の時 から同店に勤め、その手腕を認められて發送主任の位置についたが、去る十四日吉□□で同店扱の新京滿洲國文教部行書籍七箱を利用して人絹約二千圓を密輸せんとするところを大連水上署保安係員に發見された

取調べに對して同人は義理ある友人に依頼され斷り切れず惡いとは知りつゝ密輸を計つたと陳述したが、全く嘘言で

金欲しさに 自ら企てた密輸であること判明し、司法係に廻されて二十九日の拘留處分に附され二十一日より水上署に留置されてゐた

ところが同人は丁度適齡期を迎へ日本國民の崇高な義務である徴兵檢査を二十六日日本橋小學校で受けることになつてゐた、これを知つた司法主任は僅かの犯罪で檢査を失する同人の將來を考慮し、保安主任と相談の結果、二十五日同人を留置場より引出し崇高な國民の義務を說いて懇々と諭したところ、同人も涙を流して將來を誓つたので、特に

寬大な處置 をとり拘留五日間といふことにして檢査に間に合はすことゝなつた尚二十六日同人は晴れて留置場を出で水上署員の激勵を受けて檢査場へ向つた

お鯉さん奉天へ

【安東電話】故桂公の寵姬として又昨年の議會で小山前法相に絡まる事件で有名となつたお鯉さんこと東京赤坂待合鶴住の女將安藤照子は二十六日午前十一時安東通過奉天に向つた

又も濱綏線に匪賊

窮堂匪、近藤林業林區を襲ふ 警備、自衞隊が交戰

【哈爾濱特電二十六日發】又復濱綏線に匪賊現る——二十三日夜八時頃濱綏線の亞布洛尼引込線八十キロ地點の近藤林業の林區に窮堂匪二百名來襲した、右匪團の幹部は總てロシア人より成る有力なる匪賊で、機關銃を始め優秀なる武器を携行し木橋十五ケ所、機關車一輛、貨車四輛、材木二萬坪を燒却した、同林區の露滿警備隊並に自衞團は直に應戰したが、敵匪優勢にして擊退し得ず二十六日朝も交戰中である

なほ敵匪は二十五日引込線八十七キロの奥地に積出してある木材に火をつけたためこの附近一帶は火の海と化してゐる、近藤林業の損害は十五六萬圓と見られてゐる

新京の防護演習

きのふ盛大に擧行

【新京電話】二十五日夜來の雨に新京聯合防護團の第一回訓練演習は新京商業校庭に會場變更、正午から片雲も留めぬ空となり陽光の下に甲斐々々しく身を固めた國防婦人會、女學生、防毒マスクの中學生、メガフォン片手の指導員、遠卷く群集の中に二十六日午後二時過ぎ演習を開始

先づ武田聯合防護團長の全員に對する訓示を終へ敵機の來襲、投下した爆彈による火災、毒ガスの來襲に避難するといふ假想狀況で行動を開始、交通群衆整理の指導を受け濛々たる毒ガスの中をマスクに身を固めた防護班は敏捷に走り、散在する負傷者の群を婦人たちの救護班が運ぶ、石灰、バケツ、擔架、藥囊など目まぐるしい場面の變化に實戰を彷彿させる狀況に群集は汗を握る

ラウドスピーカーで逐一刻々親切な說明がありその場々々の群集に對する說明があり四時頃軍隊、憲兵、警察官の適切な指導と防護團員の熱心な活動によつて、輕微なる損失に終り危險地域は急速なる秩序を回復しつゝありといふ狀況で有意義なる演習は幕を閉ぢた

好記錄續出す

州內外對抗競技大會

【奉天電話】滿洲陸上競技聯盟主催州內外對抗陸上競技大會は二十六日降雨を衝いて午後一時より奉天國際運動場において擧行、定刻久保田會長の挨拶に續き八百メートル競走によつて大會の幕は切つて落されたが、雨天とぬかるみの惡コンディションにも拘らず兩軍選手の意氣大いにあがり好記錄續出した

4—2 滿倶勝つ

對全撫順野球戰

全撫順對滿倶野球戰は二十六日午後二時五十分より滿倶球場において圓城寺（球審）吉田、立石（壘審）三氏審判滿倶先攻で開始したが四對二で滿倶勝つ閉戰四時三十五分

				計
滿倶	000	000	400	4
撫順	000	200	000	2

經過

◇一回 滿倶汐崎、柴原共に遊飛、本田中飛▼撫順西山三振、小寺一飛、白川遊飛

◇二回 滿倶高須二飛、水谷右飛、五十嵐遊撃右を拔いて出で高橋の三壘左を拔く單打に二進し續く三浦の三遊間直球單打に三進した五十嵐一擧本壘を望んで左翼手の好投に刺さる▼撫順井ノ下三振、出原二飛、工藤三振

◇三回 滿倶小池左前單打して出で汐崎の右前單打に一擧三進、柴原四球で、無死滿壘の好機を迎へたが、本田三振、高須左飛水谷中飛に退く▼撫順小島三飛、大石遊前一失に生き、森下三邪飛、西山三振

◇四回 滿倶五十嵐中前單打、高橋左飛、三浦三飛して五十嵐と併殺さる▼撫順小寺左中間に單打し、白川も三遊間をゴロで拔き小寺二進、井ノ下投前犧バントして滿壘、續く出原の中前單打に小寺、白川還る工藤三振、小島右飛

◇五回 滿倶小池投飛、汐崎二飛柴原左飛▼撫順大石左飛、森下

（滿倶）

		打數	得點	安打	犧打	盜壘	三振	四死	刺殺	補殺	過失
8	汐崎	5	1	3	0	0	0	0	2	0	0
6	柴原	4	1	1	0	0	0	1	2	1	0
4	本田	4	1	1	0	1	1	1	0	3	0
7	高須	4	1	1	0	2	0	1	2	0	0
9	水谷	5	0	2	0	1	0	0	1	0	0
1	五十嵐	2	0	2	0	0	0	1	0	2	0
1	（阿部）	2	0	0	0	0	0	0	0	3	0
3	高橋	3	0	1	0	0	1	1	12	0	1
2	三浦	4	0	1	0	0	0	0	6	0	0
5	小池	4	0	1	0	0	0	0	2	4	0
	計	37	4	13	0	4	2	5	17	13	1

（撫順）

		打數	得點	安打	犧打	盜壘	三振	四死	刺殺	補殺	過失
9	西山	4	0	0	0	0	2	0	3	0	0
7	小寺	4	1	1	0	0	0	0	3	1	0
5	白川	4	1	1	0	0	0	0	0	2	0
4	井ノ下	3	0	0	1	0	1	0	4	8	0
3	出原	4	0	1	0	0	0	0	8	0	0
8	工藤	2	0	0	0	0	2	0	3	0	0
8	（西山秀）	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0
2	小島	2	0	0	0	0	0	1	3	0	1
1	大石	3	0	0	0	0	0	0	0	2	0
6	森下	3	0	0	0	0	0	0	2	4	0
	計	30	2	3	1	0	6	1	27	10	1

▲二壘打—柴原、本田▲併殺—撫順2（白川—井ノ下—出原、井ノ下—森下—出原）▲試合時間—一時間四十五分

三振、西山遊飛

◇六回 滿倶本田四球に出で高須の二飛に二壘封殺、水谷右飛、高須二盜の時捕手の二壘惡投あつて一擧三進、五十嵐四球に出たが高橋三振▼撫順（滿倶阿部投手となり五十嵐退く）小寺左飛、白川中飛、井ノ下投飛

◇七回 滿倶三浦三飛、小池中飛で二死となつたが汐崎左前單打し柴原の三壘左をゴロで拔く二壘打に三進、續く本田右中間二壘打して汐崎、柴原を還す、高須四球の時本田三盜に成功し、高須直に二盜、水谷の右前單打に本田、高須生還し形勢逆轉す阿部一飛▼撫順出原中飛、工藤に代る西山（秀）三振、小島四球、大石二飛

◇八回 滿倶（撫順西山秀中堅となる）高橋四球に出たが、三浦（代走高橋）の遊飛に二壘封殺小池一邪飛、汐崎の二壘右の單打は高橋とのヒット・エンド・ラン美事になつて高橋一擧三壘を占め、球の三盜される間に汐崎も二進したが、柴原中飛▼撫順森下遊飛、西山投飛、小寺二飛

◇九回 滿倶本田左飛、高須左前單打、水谷二壘前内野單打に高須二進したが、阿部二飛して水谷と併殺さる▼撫順白川三飛、井ノ下、出原共に三飛に終る

法政連勝

【東京特電二十六日發】法政對慶應第二回戰は廿六日午後零時五十分より神宮球場において伊丹（球審）瀬口、橫澤、天知（壘審）四氏審判、法政先攻で開始した、法政連勝の打陣凄じく、慶應必死の防守を擊破し遂に七對三で法政再勝し三時閉戰した、法政は之れで此の春の試合を完了し、明、立、慶、帝の四チームに各二勝し、早大に一勝し九勝一敗の成績を收めて今後早大が連勝せざる限り法政の優勝に歸することゝなつた

				計
法政	000	600	010	7
慶應	100	020	000	3

（法政）倉田岡口瀨城村田藤 8 2 5 3 9 7 6 4 1 戸藤鶴原廣熊中稻伊

（慶應）方山（山澤）田石里井塚（井田）國中（灰（大本碣九岡櫻飯（土山春日井）8 9 H R 7 5 4 3 2 1 1 6 P P P H

安樂椅子

陸軍大臣林銑十郎大將と云へば、名前からしてガッチリした武將を想はせるが、あれでなかなか潤ひがあるさうな。

……◇……

潤ひと云へばこゝ暫く降らなかつたのに、陸相の來連した二十五日は朝からどんより薄曇り、ところが果然夕方から降り始めて久しく枯渇に喘いでゐた大連市街に一脈の生氣を與へ、人々になんとなく潤つた樣な感じを與へたのも妙である。

……◇……

と考へてゐたところ、二十五日夜行で北行した一武人の曰く〃閣下は昔から雨に緣が深く、師團長時代その檢閲等に際しては必ず降雨があり「降雨將軍」の異名さへあつた程で、當時閣下の閲兵といへば雨具の支度をする用意周到な連中もあつた位だ、今夜の雨だつて當然の結果さ……〃

五月雨にひらく

（上）傷病兵の凱旋（中右）天后宮の降雨感謝祭典（中左）五月祭りに降雨を衝いて集つた女性群（下）海軍記念日のＺ旗マークを賣る海洋少年團

異人劍法（95）

伊東行男
金子清之介畫

夜の鳥（その一）

小梅は酒をのむと、はじめて小梅らしく、生々としてくるのであつた。

瞳はつやゝかに濡れてくるし、肌はなめらかに冴えて、不思議に若やいでくるのである。ほんのりさくら色に染まつた眼もとで、ぢいつと見つめられると、どんな男の魂も瞳の奥に吸ひ込まれるやうな魅力があつた。

「親分、さアこれを飲んで下さい」

とのみかけの盃洗をつきつけられて、

「駄目だ、駄目だよ、俺アもう……」

「何だねえ、親分が、親分ともあらうおひとがさ、こんな旅藝者に太刀打ち出來ないなんて、少うしだらしがなさすぎるよ」

岩太郎も酒くさい息を吐き乍ら

「手前にやア兜を脱ぐ」

「もうその手にやアのらないよ、呑める酔に呑めないぶつて、ひとを酔はせて面白がるなんてなア、男らしくないぢやアないか」

「そ、それを云ふなつ」

「おほゝゝ」

と小梅はさも可笑しさうに、

「さア親分、そんな弱音を吐かないで、妾の口をつけた酒、義理にも一口呑んでおくれな」

「うむ」

としぶしぶ口をつけて、

「手前ももういい加減にしてよ。いろいろ話があると云つたが、またへべれけにならないうちに、それを聞いておかうぢやアねえか」

「あい、さア何からどう聞き出さうか」

小梅は首を傾けて、

「さアてね」

と考へ込んだ。

●口をつぐんで、眼は笑つてゐるのである。

いつか日の暮れるのが早くなり秋の近さを思はせた。

色町の小梅の家は、久しぶりで宵から大浦の岩太郎を迎へて、いつまでも賑やかだつた。

あれほど男嫌ひで通つた小梅、たゞもう巳之助だけを慕つてゐた小梅が、あの晩のヤケ酒にもりつぶされてからといふものは、まるで人が變つてしまつたやうだつた。厭でたまらなかつた岩太郎に、甘つたるくからみついてゆくのである。

手込同樣の目にあひながら、その男のものになると、やつぱり女には、女らしい愛情が生れるのかもしれない。

■

岩太郎にとつてみると、これは意外なもてなし方だつた。

小梅の顔をぢいつと見つめて、

「おいつ」

と岩太郎は皮肉な微笑を泛べながら、

「手前が俺に訊きてえといふのはあの巳之助の事ぢやアねえのか」

「だつたら……」

「ちつとばかり可哀想な氣がするだけよ」

「可哀想とは妾がかえ」

「きまつてるぢやアねえか」

「大違ひ……」

と小梅は笑つて、手をふつて、

「妾がお前に訊きたいのは、そのことだけぢやアないんですよ、あの巳之さんの家にゐた綺麗な女のひとの事……」

「なに」

………

そうした小梅と岩太郎の話を、窓のそとに佇んで、ぢつと、立聞きしてゐる男があつた。